

第9章 社会教育

第1節 概要

1 社会教育一般

県社会教育委員の会議では、本県における社会教育推進や地域の教育力向上を目指した施策の成果及び課題を整理するとともに、本県における家庭と地域社会の現状より、社会全体として子育て家庭を支援する必要等について審議することにより、提言「地域全体で子どもたちを育てる支援体制の構築の実現に向けて～地域総ぐるみによる家庭教育の充実～」をまとめた。（第2章 第7節に記載）

2 地域コミュニティの再生

震災からの復興のために、地域コミュニティを再生していくことが重要である。そのために、地域の実情に即して、学校・家庭・地域住民の連携を進めるとともに、それぞれが主体的かつ確実にその役割を果たしながら、地域の教育力向上を図ることができるよう、地域には地域コーディネーターを、学校には地域との連携の窓口となる地域連携担当教職員を置き、双方向性の協働体制のもと、地域が学校を支援していく活動だけでなく、学校も地域に貢献する活動を展開する「地域学校協働活動事業」をはじめ、子どもたちの健全育成と安心安全な活動拠点づくりを推進するための「放課後子ども教室事業」や、地域人材や社会教育団体などの参画を得て、学校と地域の連携の構築を図り、地域全体で学校教育を支援する体制づくりを推進する「学校支援活動事業」を実施するとともに、「学校・家庭・地域連携サポート事業」において、コーディネーターやボランティアを対象とした研修等を実施した。

また、災害記録の保存と県民への情報提供に活用する資料の収集を行い、移動図書館や協力車の巡回を実施して読書普及を通じた支援を行った。

3 家庭教育

家庭教育は、子どもが基本的な生活習慣、生活能力、豊かな情操、他人に対する思いやりや善悪の判断などの基本的倫理観、自立心や自制心、社会的なマナーを身につける上で重要な役割を担っている。しかしながら、少子高齢化、高度情報化等、社会環境が激しく変化する現在、子育てに関する課題等も多様化している。そこで、PTAや企業との連携する等、地域ぐるみで子どもたちを育む仕組みの構築に努め、「地域でつながる家庭教育応援事業」等を実施した。

4 青少年教育

青少年の豊かな人間性や社会性を育むためには、異年齢の子ども同士や地域の大人等の関わりのもと、自然体験、ボランティア活動、職業体験、交流体験、スポーツ・文化活動等の様々な体験の機会の充実や社会環境づくりが促進されることが必要である。そのために、「体験活動・ボランティア推進センター事業」を実施するとともに、学校・

家庭・地域が連携を進めながら、地域ぐるみで青少年を育成する環境づくりが推進されるよう、子どもと大人が、共通の体験をとおして、感動したことや共感したことを話し合い、また、震災からさらなる復興を願った「ふくしま」への思いを、日本古来の五・七・五の十七音で表現した作品を募集、表彰、広報する「ふくしまを十七字で奏でよう絆ふれあい支援事業」を実施した。

5 成人教育

地域における大人の持つ知識や技能、公民館等において学習した成果などを、地域社会に還元する活動の重要性が高まっていることから、地域の教育力の向上への取組と関連させながら、成人の学習活動や社会参加活動を促進するよう努めた。

6 子どもの読書活動推進

第三次「福島県子ども読書活動推進計画」に基づき、関係機関と連携して、地域で子どもの読書活動を推進するボランティアの資質向上を図り、学校図書館への支援等もできる人材の養成に努めるとともに、福島県子ども読書活動推進会議を開催し、読書活動推進に向けた協議を行った。また、読書の楽しさや自ら進んで読書に親しむきっかけとして、中高校生によるビブリオバトルを開催した。

7 ユネスコ活動

ユネスコ憲章の精神に基づく教育・科学・文化活動についての理解を県民一般に広めるよう努めた。

8 ふくしまっ子自然体験・交流活動支援事業

子どもたちの豊かな人間性や生きる力を育むために「ふくしまっ子自然体験・交流活動支援事業」を実施し、東日本大震災の経験を踏まえ、再発見した郷土の良さを伝え合い発信していく様な交流活動を行う団体や充実した自然体験活動等を行う団体に対し、補助金を交付した。

9 子どもがふみだす ふくしま復興体験応援事業

子どもたちが福島を伝える活動を行う中で主体的に復興に寄与する社会体験活動に取り組むことなど、その想いを具現化できる機会を提供するため、「子どもがふみだす ふくしま復興体験応援事業」を実施し、市町村や青少年育成団体等が実施する事業に対し、補助金を交付した。

第2節 社会教育一般

1 社会教育推進体制の充実

(1) 社会教育行政の推進

社会教育担当者会議

第1回 日時 平成29年4月7日（金）

場所 公立学校共済組合飯坂保養所

第2回 日時 平成30年2月2日（金）

場所 公立学校共済組合飯坂保養所

(2) 社会教育主事の設置

社会教育活動の充実を図るため、県立自然の家へ社会教育主事を配置するなど設置促進に努めた。

(3) 社会教育関係職員の研修

ア 市町村の社会教育主事や公民館職員、図書館職員、社会教育指導員などの社会教育関係職員を対象とした研修機会の充実を図り、その資質向上に努めた。

イ 国立教育政策研究所等で実施する専門的な研修講座への計画的な派遣に努めた。

(4) 各種社会教育関係団体等との連携

地域の教育力向上を図る観点から、各種社会教育関係団体等の果たす役割や学校・家庭・地域住民の連携を促進するための活動が重要であるため、各種社会教育関係団体等との連携に努めた。

2 社会教育施設の整備充実

(1) 県立社会教育施設の整備充実

ア 県立図書館の整備充実

県民への図書館サービスの向上を図るため、図書館資料や設備・備品等の整備充実にも努めるとともに、「県立図書館情報ネットワークシステム」を活用して公立図書館や公民館図書室、学校図書館等との連携の強化に努めた。

イ 福島県自然の家の整備充実

自然の中での集団宿泊体験を通して青少年の健全育成を図る場や機会を拡充するため、自然の家の整備充実にも努めた。

(2) 市町村立社会教育施設の整備促進

ア 公民館の整備促進

地域住民のための学習の拠点となる社会教育施設として、多様化した学習ニーズに的確に対応し、充実した公民館活動が行われるよう、市町村に対し、長期的な展望に立った施設・設備の在り方について助言した。

イ 市町村立図書館の整備促進

市町村立図書館を26自治体巡回し、図書館の運営相談や相互貸借資料等の搬送等を行った。

また、高等教育機関にも巡回しその連携体制の強化に努めた。

(3) 災害復旧国庫補助事業

東日本大震災で被災した公立社会教育施設の災害復旧事業を補助するため、災害査定（現地調査）等の事務を行った。また、未だ申請できない双葉地区等の市町村について情報収集を行い、復旧に向けての準備ができるよう働きかけた。

3 社会教育関係職員の研修

(1) 公民館職員研修会

ア 期日 平成29年5月18日(木)～19日(金)

イ 会場 福島県男女共生センター

ウ 参加対象 市町村公民館職員でおおむね3年未満の者及び社会教育関係者

エ 参加者数 59名

オ 講師

教育庁社会教育課長 菊池 篤志

郡山市立大島地域公民館長 遠藤 晃世

福島大学地域創造支援センター

副センター長 准教授 木暮 照正

福島市蓬萊学習センター長 安田 真澄

教育庁社会教育課主幹 渋川 卓也

(2) 福島県市町村社会教育担当者研修会

ア 期日 平成29年8月29日(火)～30日(水)

イ 会場 福島県男女共生センター

ウ 参加対象 社会教育関係行政職員（公民館職員、社会教育主事等の社会教育関係事業担当2年目以上の職員）、社会教育指導員等

エ 参加者数 1日目 32名、2日目 18名

オ 講師

尚絅学院大学エクステンションセンター特任教授

松田 道雄

郡山市立日和田公民館長 井上まゆみ

須賀川市小塩江公民館主事 武田 貴志

NPO法人マイスタイル 金田このみ

教育庁社会教育課社会指導主事兼指導主事

齋藤 和久

4 社会教育研究集会

(1) 主催

一般社団法人全国社会教育委員連合
福島県市町村社会教育委員連絡協議会

(2) 主管

西白河地区社会教育委員連絡協議会

(3) 後援

福島県教育委員会、白河市教育委員会、
西郷村教育委員会、泉崎村教育委員会、
中島村教育委員会、矢吹町教育委員会

(4) 日程・内容

ア 期日 平成29年8月24日(木)～25日(金)

イ 会場 白河文化交流館コミネス 他

ウ 参加対象 市町村社会教育委員、市町村社会教育行政担当者、社会教育関係施設職員、社会教育関係団体会員 他

エ 参加者数 2日間のべ459名

オ 基調講演

講師 茨城県生涯学習・社会教育研究会

会長 長谷川 幸介

演題 「無縁社会に立ち向かう

～社会教育の現代的課題～」

カ 分科会

第1分科会「子育て・家庭教育支援について」

第2分科会「地域と学校との連携・協働について活動」

第3分科会「地域を担う人材発掘・人材育成について」

第4分科会「社会教育委員の役割について」

5 社会教育指導員の設置

(1) 設置数

ア 県北	48名
イ 県中	18名
ウ 県南	11名
エ 会津	60名
オ 南会津	11名
カ 相双	11名
キ いわき	6名
合計 165名	

(2) 福島県市町村社会教育指導員研修会（年2回）

ア 第1回

- (ア) 期日 平成29年5月8日（月）
- (イ) 場所 郡山市公会堂
- (ウ) 対象 福島県市町村社会教育指導員
- (エ) 参加者数 141名
- (オ) 講師 社会教育課主幹 渋川 卓也

イ 第2回

- (ア) 期日 平成29年9月29日（金）
- (イ) 場所 会津若松市文化センター
- (ウ) 対象 福島県市町村社会教育指導員、青少年教育指導員、社会教育主事、公民館職員等社会教育関係者
- (エ) 参加人数 153名
- (オ) 講師 落語家 三遊亭 兼好
演題「笑いの力で 地域づくりを」

6 社会教育主事の市町村派遣

※ 平成22年度より派遣していない。

7 社会教育研修会

(1) 内容

社会教育推進上の諸問題についての協議等を通してその方策を明らかにし、市町村における社会教育の振興・充実に資する。

市町村職員及び社会教育委員等を対象として希望市町村の計画に基づき実施する。

(2) 対象

公民館職員、公民館運営審議会委員、社会教育委員、社会教育関係者

(3) 期日・会場

域内	期日	実施市町村等	参加者
県中	10月11日	田村市	31名
県南	9月4日	塙町	18名
	11月13日	鮫川村	15名
	11月30日	棚倉町	15名
会津	8月23日	湯川村	12名
	9月15日	昭和村	5名
	10月2日	磐梯町	5名

域内	期日	実施市町村等	参加者
南会津	7月6日	南会津町	19名
	7月11日	只見町	13名
相双	5月31日	双葉町	8名
	9月5日	楡葉町	10名
	9月21日	富岡町	17名
いわき	5月30日	いわき市	141名
	9月19日	いわき市	111名
	9月21日	いわき市	26名

合計 15箇所 参加者 446名

8 福島県公民館研究集会

- (1) 期日 平成29年10月18日（木）
- (2) 会場 郡山市立中央公民館
- (3) 参加対象 公民館職員等
- (4) 講師 福島大学うつくしまふくしま未来支援センター
特任教授 天野 和彦

9 社会教育職員研修派遣

(1) 東北大学社会教育主事講習

- ア 主催 東北大学教育学部
- イ 期日・会場
平成29年6月15日（木）～6月16日（金）
公立学校共済組合飯坂保養所 飯坂温泉あづま荘
福島市飯坂学習センター
平成29年7月3日（月）～8月9日（水）
国立磐梯青少年交流の家
東北大学教育学部
- ウ 受講者数 14名
- エ 修了者名

域内	氏名	勤務先
県北(1)	齋藤麻紀子	二本松市立杉田小学校
県中 (5)	兼子 知久	平田村立小平小学校
	小島 聖子	郡山市立芳山小学校
	稲田 浩充	郡山市立中央公民館
	芳賀 俊哉	石川町公民館
県南 (3)	瀧田 洋子	三春町役場生涯学習課
	戸井田 修	塙町立笹原小学校
	矢内 淳仁	棚倉町立棚倉小学校
会津 (2)	戸倉深希子	西郷村立川谷中学校
	岩橋 健紀	磐梯町立磐梯第一小学校
いわき (2)	川島 淳	会津若松市立第三中学校
	鈴木 岳	いわき市立赤井小学校
県立(1)	荻野 美香	いわき市立好間中学校
	荒木 隆	県立博物館

(2) 国立教育政策研究所主催講習

ア 社会教育主事講習

(ア) 会場 国立教育政策研究所社会教育実践研究センター

(イ) 期日

a A講習 平成29年7月21日(金)～8月25日(金)

b B講習 平成30年1月22日(月)～2月28日(水)

(ウ) 受講者数

a A講習 0名

b B講習 3名

(エ) 修了者名

講習名	氏名	勤務先
B講習 (3)	石井 洋平	鮫川村教育委員会
	宮崎 博光	会津坂下町教育委員会
	安田 吉孝	福島市教育委員会

イ 専門講座等

講座名	期間	受講者数
社会教育主事専門講座	11月7日(火) ～10日(金)	0

10 出版資料

資料名	部門	規格	頁数	広報手段
社会教育 No.338	社会教育	A4	12	Web掲載

第3節 地域コミュニティの再生

1 地域学校協働活動事業

(1) 目的

県内8本部を先進的な取組のモデル学区に指定し、地域の総合窓口として「地域コーディネーター」を配置し、学校の窓口として「地域連携担当教職員」を置き、地域と学校が連携・協働のもと幅広い地域住民等が参画し、郷土学習や地域行事への参加等をとおして、地域全体で未来を担う子どもたちをの成長を支え、地域づくりを推進する事業を展開する。

(2) 県事業

ア 評価・検証委員会の設置

第1回

期日：平成29年7月6日(木)

会場：杉妻会館

第2回

期日：平成29年9月15日(金)

会場：天栄村立天栄中学校

第3回

期日：平成29年11月15日(水)

会場：県立図書館

第4回

期日：平成30年2月15日(木)

会場：ふくしま中町会館

イ 地域連携担当教職員等連絡協議会の実施

第1回

期日：平成29年5月11日(木) 46名参加

講話：文科省視学委員 貝ノ瀬 滋

講義：尚綱学院大 松田 道雄

栃木県教委 井上 昌幸

第2回

期日：平成29年9月15日(金) 41名参加

内容：天栄村の取組を視察

第3回

期日：平成29年11月20日(月) 42名参加

講話：文科省地域学校協働推進室連携支援係長

猿渡 智衛

第4回

期日：平成30年2月20日(火) 37名参加

講話：「今年度の取組の成果と課題並びに次年度に向けて」

尚綱学院大 松田 道雄

ウ 地域学校協働活動事業推進フォーラムの実施

期日：平成30年1月31日(水) 195名参加

会場：郡山市ビッグパレットふくしま

実践発表：「地域学校協働活動事業の実践について」

地域連携担当教職員(西会津町)

地域コーディネーター(西郷村)

教育委員会担当者(双葉町)

ポスターセッション：モデル8町村

(国見町、大玉村、天栄村、西郷村、

西会津町、双葉町、川内村、檜葉町)

シンポジウム：

コーディネーター

県教育庁教育総務課長 高橋 洋平
パネリスト

尚綱学院大学特任教授 松田 道雄

文科省 生涯学習政策局 社会教育課

地域学校協働推進室 連携支援室

猿渡 智衛

国見町教育長 岡崎 忠昭

天栄町立天栄中学校長 佐浦 雅明

富岡町教育委員会学習アドバイザー

荒木 信彦

総評：福島県復興教育アドバイザー

貝ノ瀬 滋

(3) 市町村事業

ア 評価・検証委員会の実施

イ 地域学校協働活動事業の実施

8町村

2 放課後子ども教室事業

(1) 目的

すべての児童を対象とし、地域の方々の参画を得て、様々な体験活動や交流活動を行う「放課後子ども教室」を設置し、放課後等の子どもたちの安全で健やかな居場所をつくる。

(2) 県事業

○放課後子ども教室の実施

県立特別支援学校（3教室）

・福島県立聴覚支援学校福島校

・福島県立聴覚支援学校平校

・福島県立平支援学校

(3) 市町村事業

ア 運営委員会の実施

イ 子ども教室の実施

38市町村 119教室実施

3 地域学校協働本部事業

(1) 目的

地域人材や団体などの参画を得て、学校と地域が連携し、地域全体で学校教育を支援する体制づくりを推進する。

(2) 市町村委託

18の市町村（福島市、桑折町、国見町、大玉村、本宮市、鏡石町、天栄村、石川町、玉川村、田村市、三春町、西郷村、会津若松市、北塩原村、西会津町、大熊村、富岡町、檜葉町）に44の地域学校協働本部が設置され実施した。

(3) 市町村補助

2町（柳津町、三島町）に2の地域学校協働本部が設置され実施した。

4 学校・家庭・地域連携サポート事業

(1) 目的

未来を担う子どもたちを健やかに育むために、学校、家庭、地域住民等がそれぞれの役割と自覚し、地域全体で教育活動を支援する体制づくりを目指す。特に、震災後の子どもたちを取り巻く環境の変化に対応した要望に応えることのできる支援を行うことにより、教育環境の復興を加速させる。

(2) 県事業

ア 放課後子ども教室地区別研修会 6箇所

県北地区

第1回 期日 平成29年8月3日（木）

会場 吾妻学習センター

参加者 47名

内容 講話・演習・情報交換

第2回 期日 平成29年10月13日（金）

会場 大玉村農村環境改善センター

参加者 45名

内容 講話・事例発表・実践参観

県中地区

期日 平成29年8月23日（水）

会場 たまかわ文化体育館

参加者 44名

内容 講演・実践発表・情報交換・実技研修

県南地区

期日 平成29年8月30日（水）

会場 白河市 新白信ビル

参加者 51名

内容 講演・グループ協議

会津地区

期日 平成29年7月12日（水）

会場 湯川村公民館

参加者 89名

内容 講演・実践発表・グループ協議

南会津地区

期日 平成29年8月24日（木）

会場 南会津町御蔵入交流館

参加者 34名

内容 講演・実技講習

相双地区

期日 平成29年12月13日（水）

会場 相馬市総合福祉センター「はまなす館」

参加者 42名

内容 講話

イ 学校支援実践研修会（本庁）

期日 平成29年6月6日（火）

場所 郡山市公会堂

内容

講演

「地域を巻き込んだアフタースクール」

特定非営利活動法人放課後 NPO アフタースクール

副代表理事 織畑 研

事例発表 I

「大玉村放課後子ども教室の取組について」

大玉村放課後子ども教室

コーディネーター 渡辺 ひとみ

事例発表 II

「北塩原村『学校の応援団』

～笑顔いきいきみんなで子育て～」

北塩原村学校支援地域本部

コーディネーター 酒井 美代子

グループ協議

「効果的な教育プログラムの実践に向けて」

地域の人材や素材を生かして！

参加者 126名

ウ 学校支援実践研修会各地区研修会（事務所）

県北地区

期日 平成29年11月27日（月）

場所 福島市松川学習センター

参加者 77名

県中地区
 期 日 平成29年12月14日(木)
 場 所 鏡石町図書館
 参加者 56名
 県南地区
 期 日 平成29年11月15日(水)
 場 所 新白信ビル(白河市)
 参加者 40名
 会津地区
 期 日 平成29年10月19日(木)
 場 所 会津若松市立湊小学校
 参加者 31名
 南会津地区
 期 日 平成29年11月20日(月)
 場 所 南会津町あたご館
 参加者 52名
 相双地区
 期 日 平成29年11月29日(水)
 場 所 富岡町文化交流センター「学びの森」
 参加者 26名

第1回 平成29年5月25日(木)
 杉妻会館
 第2回 平成30年2月20日(火)
 ふくしま中町会館六階 北会議室
 イ 地域家庭教育推進各地区ブロック会議
 各教育事務所域内(7箇所)
 各地区2回実施(6月~1月)
 ウ 家庭教育応援企業推進活動
 連携企業数
 県北地区 40社(128社)
 県中地区 20社(195社)
 県南地区 11社(28社)
 会津地区 80社(145社)
 南会津地区 6社(57社)
 相双地区 8社(10社)
 いわき地区 10社(30社)
 計 175社(593社)※()累計
 エ 親子の学び応援講座
 県北地区
 本宮第二中学校区PTA 150名
 平成29年6月24日(土)
 「スマホ・SNS時代に育つ子どもたち」
 ~保護者のできること・すべきこと~
 茨城県メディア教育指導員連絡会 鈴木 慶子
 川俣町PTA連絡協議会 70名
 平成29年8月1日(火)
 「メディアにむしばまれる子どもたち」
 国立病院機構仙台医療センター 田澤 雄作
 伊達地区PTA連絡協議会 250名
 平成29年11月11日(土)
 「子どもが危ない!スマホ社会」
 ~知らなかったでは済まされない~
 情報文化総合研究所・武蔵野大学教授 佐藤 佳弘
 福島第三中学校区PTA 500名
 平成29年11月24日(金)
 「ImpossibleをI'm possibleへ(不可能を可能へ)」
 日本ブラインドサッカー協会 加藤 健人
 県中地区
 三和小学校・三和小学校区幼稚園 104名
 平成29年6月11日(日)
 「福島子ども達を健康に導く運動プログラム
 "BALLGAME"」
 福島ファイアーボンズユースヘッドコーチ 安藤 太郎
 福島ファイアーボンズ 堀 洋輔
 国際ビジネス公務員大学校 堀越 啓子
 国際ビジネス公務員大学校 国分 千恵
 国際ビジネス公務員大学校 高階 裕美

5 東日本大震災福島県復興ライブラリー整備事業

(1) 目的

災害記録の保存と県民への情報提供のため、関連資料の収集を行う。資料は館内での提供と貸出に加え、出張展示にも活用する。また、避難自治体の教育委員会と連携し学校等への移動図書館(あづま号)の巡回を実施し、資料の貸出による支援を行う。

(2) 内容

ア 震災及び原発事故関連資料収集
 資料収集件数 11,464件
 イ 避難自治体支援
 移動図書館(あづま号)による資料貸出
 稼働18回 貸出2,747冊
 (開催場所 飯舘村、楡葉町他 計18ヶ所)

第4節 家庭教育

1 地域でつながる家庭教育応援事業

(1) 目的

本県の家庭教育推進上の大きな課題である「親の学び」を支援するために、PTAと連携し、家庭教育について親自身が学ぶ機会が充実するよう支援する。また、各地域で主体的に家庭教育の支援が行えるよう学習プログラムを作成するとともに、家庭教育支援者をリードする人材を育成する。さらに、企業と連携し地域の家庭教育を推進する。

(2) 家庭教育応援プロジェクト

ア 福島県地域家庭教育推進協議会

御木沢小学校区PTA	148名	大塚製菓株式会社	野崎 石松
平成29年9月8日(金)		喜多方第一小学校・第一こども園PTA	72名
「福島の子ども達を健康に導く運動プログラム "BALLGAME"」		平成29年9月19日(火)	
バスケットボールジャパン代表取締役		「子どもの数だけ子育てがある」	
東 英樹		喜多方市家庭教育支援チーム”もも”代表	幸田 久美子
福島ファイアーボンズユースヘッドコーチ		湯川村PTA連絡協議会	63名
安藤 太郎		平成29年10月23日(月)	
国際ビジネス公務員大学校	堀越 啓子	「461個の弁当は、親父と息子の男の約束」	
国際ビジネス公務員大学校	国分 千恵	ミュージシャン(猪苗代湖ズ)	渡辺 俊美
国際ビジネス公務員大学校	高階 裕美	喜多方二中区PTA連絡協議会	437名
長沼幼稚園・小学校PTA	129名	平成29年10月25日(水)	
平成29年11月1日(水)		「未来に備えて 今からできること」	
「福島の子ども達を健康に導く運動プログラム "BALLGAME"」		グローバルキャリア代表取締役	的場 亮
福島ファイアーボンズユースヘッドコーチ		会津坂下町PTA連絡協議会	591名
安藤 太郎		平成29年11月1日(水)	
国際ビジネス公務員大学校	堀越 啓子	「人権がなければ生きていけない？」	
国際ビジネス公務員大学校	国分 千恵	～いじめと人権を考える～	
県南地区		弁護士法人けやき法律事務所	武村 陽
塙小学校・幼稚園	97名	柳津町PTA連絡協議会	93名
平成29年5月12日(金)		平成29年11月22日(水)	
「子どもに愛が伝わっていますか」		「461個の弁当は、親父と息子の男の約束」	
～「聞く」「語る」心を通わすコミュニケーション～		ミュージシャン(猪苗代湖ズ)	渡辺 俊美
親業シニアインストラクター	大屋 弘子	南会津地区	
白河幼稚園・白河第五小父母と教師の会	55名	下郷町小・中学校PTA	70名
平成29年6月30日(金)		平成29年6月10日(土)	
「子どもに愛が伝わっていますか」		「メディアの利便性と危険性」	
～「聞く」「語る」心を通わすコミュニケーション～		～高度情報社会を生き抜くために～	
親業シニアインストラクター	大屋 弘子	実践女子大学	教授 駒谷 真美
三神小学校・幼稚園	180名	只見町小・中学校PTA	100名
平成29年9月9日(土)		平成29年7月 3日(月)	
「子どもに愛が伝わっていますか」		「ソーシャルメディアを考える」	
～「聞く」「語る」心を通わすコミュニケーション～		茨城県メディア教育指導員連絡会	
親業シニアインストラクター	大屋 弘子	会長 堤 千賀子	
棚倉中学校PTA	530名	南会津町内小中学校	70名
平成29年12月1日(金)		平成29年7月 4日(火)	
「パラリンピックから得たもの」		「安心・安全なメディア活用のために」	
リオデジャネイロパラリンピックボッチャ競技		～携帯機器の怖さと対策～	
日本代表コーチ	村上 光輝	株式会社スキット コモンアシストグループ	
関辺幼稚園・小学校PTA	80名	梅北 勝夫	
平成30年2月23日(金)		舘岩小・中学校PTA	40名
「子どもに”愛”が伝わっていますか」		平成29年7月 7日(金)	
～「聞く」「語る」心を通わすコミュニケーション～		「メディアの利便性と危険性」	
親業シニアインストラクター	大屋 弘子	国立病院機構仙台医療センター	田澤 雄作
会津地区		荒海小・中学校合同PTA	38名
北会津地区PTA連絡協議会	134名	平成29年10月5日(木)	
平成29年7月 8日(土)		「メディアが子どもの生活に与える影響」	
「ともに考えよう 食育の大切さ」		南会津教育事務所学校教育課	
～からだは食べ物からつくられている～		指導主事 伊藤 武徳	

桜沢小・田島中学校合同PTA 120名
平成29年10月22日(日)
「メディアが子どもの生活に与える影響」
株式会社スキット コモンアシストグループ
梅北 勝夫

相双地区
広野町立小・中学校PTA連合会 151名
平成29年7月1日(土)
「情報モラルの向上」～私たちにできること～
双葉警察署 少年警察補導員 松本美智子
双葉警察署 広野駐在所主任 三瓶 和紀

南相馬市小高区4小学校PTA 71名
平成29年11月2日(木)
「メディアにむしばまれる子どもたち」
～笑顔のない・大人になれない子どもたち～
国立病院機構仙台医療センター 田澤 雄作

いわき地区
小名浜第二小学校連合PTA 282名
平成29年11月28日(火)
「情報モラルを学ぼう」
いわき市立藤間中学校 教頭 高萩 雅人
菊田小学校連合PTA 264名
平成29年11月28日(火)
「情報モラルを学ぼう」
いわき市立藤間中学校 教頭 高萩 雅人

(3) 家庭教育応援リーダー育成事業

家庭教育支援者の実践力向上と学習プログラムの開発

ア 家庭教育全県研修 132名
期日 平成29年7月8日(土)
場所 郡山市郡山ユラックス熱海
内容 選択研修
「発達障がい理解と支援」
「家庭における食育の必要性」
「子どもにとってメディアとは」
全体講義 「こども食堂、白河発！」
演習
「現代における家庭教育講座の企画・運営の仕方」

イ フォローアップ研修

県北地区 37名
期日 平成29年10月21日(土)
場所 福島県青少年会館
内容 講演「メディアとの上手なつきあい方」
講師 実践女子大学 駒谷 真美
東北福祉大学 高谷 隆男

県中地区 56名
期日 平成30年1月24日(水)
場所 須賀川アリーナ会議室
内容 「平成29年度福島県の家庭教育関連事業」
について

講演「ネット時代を生きる子どもたちへの対応」
「子育ての現状とこどもたちへ対応」
講師 聖心女子大学 榎本 竜二
新潟県立大学 角張 慶子

県南地区 58名
期日 平成29年11月27日(月)
場所 新白信ビル
内容 講演「パラリンピックから得たもの」
「白河発 こども食堂」
講師 (一社)日本ボッチャ協会 村上 光輝
KAKECOMI代表 鴻巣麻里香

会津地区 76名
期日 平成29年12月19日(火)
場所 道の駅あいづ 湯川・会津坂下
内容 講義「家庭教育支援の現状とこれから」
事例発表
「訪問型家庭教育支援の取組について」
講義「食を通じた親子のコミュニケーション」
講師 家庭教育インストラクター
会津さざなみの会 佐藤 信寛
佐藤 房枝

南会津地区 55名
期日 平成29年10月30日(月)
場所 御蔵入交流館
内容 講演「子どもに愛が伝わっていますか」
～『聞く』『語る』、心を通わすコミュニケーション～
講師 親業訓練シニアインストラクター 大屋 弘子
講演「子どもにとってメディアとは」
講師 新地町教育委員会 山田 徹
講演「461個の弁当は親父と息子の男の約束」
講師 ミュージシャン(猪苗代湖庄) 渡辺 俊美

相双地区 20名
期日 平成30年2月19日(月)
場所 相馬市総合福祉センター「はまなす館」
内容 講演「通っていますか、親の思いと子ども
の気持ち ～『聞く』『語る』、心を通わす
コミュニケーション～」
講師 親業訓練シニアインストラクター 大屋 弘子
実践発表
「親業サークル”輝々”の活動について」
講師 親業サークル”輝々”
代表 今野登志子

いわき地区 22名
期日 平成30年2月20日(火)
場所 いわき合同庁舎

内容 講演「子どものこころを育む」褒め方・叱り方のコツ」
講師 桜の聖母短期大学生涯学習センター
講師 岡田 友子

・学習支援ボランティア登録人数	4 2 7名
・読書活動ボランティア登録人数	2 6 4名
・ノートテイクボランティア登録人数	2名
・外国出身者支援ボランティア登録人数	2 5名
・家庭教育支援ボランティア登録人数	2 0 5名
・病院訪問学習支援ボランティア登録人数	1 9名
計	9 4 2名

第5節 青少年教育

1 体験活動・ボランティア推進センター事業

(1) 目的

青少年の社会性や思いやりの心など豊かな人間性を育むため、学校内外を通じた体験活動やボランティア活動の機会の充実を図ることを目的に情報提供やコーディネート等を行う推進センターを県に設置し、市町村並びに市町村センターにおける体験活動・ボランティア活動の推進体制を支援する。

(2) 内容

ア 本部センターの設置

(ア) 構成

- ・センター長（社会教育課長）
- ・副センター長（社会教育課主幹）
- ・コーディネーター（社会教育主事兼指導主事）

(イ) 内容

- ・各種研修会に関する事
- ・連絡調整、情報収集、調査研究に関する事
- ・人材登録に関する事
- ・地域センターの統括、指導助言に関する事

イ 地域センターの設置

(ア) 構成

- ・センター長（教育事務所総務社会教育課長）
- ・コーディネーター（社会教育主事、指導主事）

(イ) 内容

- ・公民館及び学校の訪問指導に関する事
- ・連絡調整、情報収集、調査研究に関する事
- ・人材登録に関する事
- ・市町村センターとの連携に関する事

ウ 学校における推進体制の整備

(ア) 体験活動等推進委員会の開催

(イ) 体験活動等推進委員会主任（教頭又は社会教育主事有資格者等）の配置

エ 学習支援ボランティアの登録推進

(ア) 目的

青少年の体験活動の支援にあたるボランティアの登録を促進するとともに、学校内外における青少年の体験活動を支援することにより、地域の教育力の向上に寄与する。

(イ) 対象 ボランティアを推進する県民一般

(ウ) 内容

学習支援ボランティア、読書活動ボランティア、ノートテイクボランティア、外国出身者支援ボランティア、家庭教育支援ボランティア、病院訪問学習支援ボランティアの登録や活動を支援する。

2 ふくしまを十七字で奏でよう絆ふれあい支援事業

(1) 目的

家庭や地域における人と人のかかわりの中で感じた思いや願いを十七音で表現することを通して、子どもの豊かな心を育成するとともに、人と人との絆を深め、家庭や地域の教育力の向上を目指す。

また、全国に避難している方からも作品を募集し「ふくしま」のことを考えるきっかけとする。

(2) 内容

ア 応募期間 平成29年7月3日（金）～9月15日（金）

イ 応募総数 42,575組

ウ 最終審査会 平成29年12月15日（金）

エ 審査員 和合 亮一（県立本宮高等学校教諭）
佐々木孝司（新地町教育委員会教育長）
室井 君男（県公立学校退職校長会副会長）
黛 まどか（俳人）

オ 表彰式及び応募者100万人突破記念式典
平成30年1月13日（土）
ホテル福島グリーンパレス

カ 入賞数 絆部門・復興部門 最優秀賞各5組
優秀賞各5組、佳作各10組
100万人突破突破記念7組

(3) 広報・普及活動

ア 募集・応募

県内各幼稚園、保育園、小・中学校、高等学校、特別支援学校、社会教育施設、教育事務所等にチラシ・応募用紙を配布した。また、社会教育課のホームページに掲載した。

イ 事後の広報

優秀作品を社会教育課のホームページに掲載したほか、ラジオ放送での紹介とYouTubeの動画配信にて紹介した。各教育事務所においては、域内の作品集を作成し、事業の普及に努めた。

第6節 成人教育

主に各関係団体の諸活動や研修会における指導助言や人的補助を行う。

第7節 子どもの読書活動推進

1 ふくしまの未来をひらく読書の力 プロジェクト

(1) 福島県子どもの読書活動推進会議

【第1回】平成29年7月20日（木）

杉妻会館3階鈴蘭

【第2回】平成29年2月7日（水）

福島県自治会館8階801会議室

ア 目的

第三次「福島県子ども読書活動推進計画」に沿って、読書活動推進に向けた取組等について協議・評価を行う。

イ 子ども読書推進会議委員

氏名	職業等	区分
高野 保夫	国立大学法人福島大学名誉教授	学識経験者
高橋 照伸	福島県高等学校PTA連合会副会長	社会教育関係者
渡部 栄城	郡山市立柴宮小学校長	学校図書館関係者
坂内香代子	会津若松市立会津図書館長	公立図書館等関係者
矢吹 貴美	家庭教育インストラクター	家庭教育関係者
齋藤千江子	児童図書研究グループ「トトロ」	読書活動に係るボランティア団体関係者

(2) 読書活動支援者育成事業

- 【県北地区】 平成29年6月15日（木）
国見町観月台文化センター 受講者38名
平成29年6月23日（金）
福島市松川学習センター 受講者48名
平成29年7月6日（木）
あだたらふるさとホール 受講者32名
平成29年9月27日（水）
福島県立図書館 受講者60名
- 【県中地区】 平成29年6月22日（木）
郡山市労働福祉会館 受講者71名
平成29年9月22日（金）
郡山市労働福祉会館 受講者55名
- 【県南地区】 平成29年7月7日（金）
棚倉町立図書館 受講者68名
平成29年10月26日（木）
白河市立図書館 受講者48名
- 【会津地区】 平成29年8月24日（木）
会津大学 受講者67名
平成29年9月19日（火）
会津大学 受講者63名
- 【南会津地区】 平成29年6月29日（木）
只見町朝日振興センター 受講者36名
平成29年10月19日（木）
南会津町御蔵入交流館 受講者33名

- 【相双地区】 平成29年9月9日（土）
広野町公民館 受講者23名
平成29年10月14日（土）
南相馬市民文化会館「ゆめはっと」
受講者25名

- 【いわき地区】 平成29年7月19日（水）
いわき市生涯学習プラザ 受講者48名
平成29年10月6日（金）
いわき市文化センター 受講者57名

(3) 子どもの読書活動推進ネットワークフォーラム

【第1回目】

期 日：平成29年9月30日（土）

場 所：郡山市立中央公民館 101名

内 容

- 講演：「ことばの力～詩の世界から読書を考える～」
詩人 和合 亮一
- シンポジウム：「生涯にわたる読書習慣の形成について」
ふくしま学びのネットワーク理事・事務局長
前川 直哉
玉川村教育委員会教育長 鈴木 文雄
安積黎明高等学校司書 鈴木 知基
小野町ふるさと文化の館司書 籠田まき子
福島こどものとも社代表取締役 上野 良一

【第2回目】

期 日：平成29年11月21日（火）

場 所：福島県立博物館 99名

内 容

- 講演：「科学の本から読書の魅力に迫る」
科学読物研究会 坂口美佳子
- 事例発表：「博物館でも読み聞かせ」
福島県立博物館主任学芸員 荒木 隆

【第3回目】

期 日：平成29年12月14日（木）

場 所：パレスいわや 98名

内 容

- 事例発表：「公共図書館と学校の連携のあり方」
南相馬市立中央図書館専門司書 齋藤亜記子
学区図書館支援員 加茂 秀子
- 事例発表：「学校司書の役割と可能性」
福島県立磐城高等学校主任学校司書 成田 美紀
- 事例発表：「読書ボランティアのやりがい」
福島市立図書館図書ボランティアの会代表
中西 郁子
- 講演：「子どもと本との幸せな出会いのために」
東京子ども図書館理事長 張替 恵子

(4) 情報発信プロジェクト「ビブリオバトル福島県大会」

期 日：平成29年11月11日（土）

場 所：郡山市立中央公民館・郡山市公会堂

参 加 者：発表者26名（中学生5名、高校生21名）
観戦者296名

【中学生の部】
 優勝 郡山市立緑ヶ丘中学校 七海 大輝
 「深海魚のレシピ」平坂寛（他人書館）
 準優勝 福島市立信陵中学校 一条 萌笑
 「チェロの木」いせひでこ（偕成社）
 第3位 伊達市立伊達中学校 西尾 彩希
 「カラフル」森絵都（理論社）
 白河市立表郷中学校 今井 彩菜
 「ハリネズミの願い」トーンテレヘン（新潮社）

【高校生の部】
 優勝 郡山北工業高等学校 川井 玲苑
 「いたいなの、とんでゆけ」
 三秋鍾（メディアワークス文庫）
 準優勝 学校法人尚志学園尚志高等学校 坂本 萌絵
 「たとえ明日、世界が減びても今日、僕はリングの
 木を植える」瀧森古都（SBクリエイティブ）
 第3位 福島県立四倉高等学校 鈴木 有香
 「とりつくしま」東直子（筑摩書房）

敢闘賞 学校法人尚志学園尚志高等学校 岩本 莉子
 「はてしない物語」ミヒヤエル・エンデ（岩波書店）
 福島県立磐城高等学校 小林 桃香
 「ケーキ王子の名推理」七月隆文（新潮社）
 福島県立喜多方桐桜高等学校 小檜山帆波
 「階段途中のビッグ・ノイズ」越谷オサム（幻冬舎）

(5) 子どもの本がつなぐスマイルプロジェクト

ア 親子ふれあい読書フェスティバル「絵本はともだち」
 期 日：平成29年7月2日（日）
 場 所：喜多方市松山公民館 参加者60名
 内 容：講演「おはなしかい いっしょにね」
 幼児教育専門家 藤田 浩子
 イ 親子ふれあい読書フェスティバル「本はともだち」
 期 日：平成29年10月29日（土）
 場 所：福島県男女共生センター 参加者31名
 内 容：講演「おはなしや本の世界を楽しもう」
 千葉県浦安市企画部 主査 伊藤 明美

第8節 ユネスコ活動

1 ユネスコ協会事務局一覧

協会名	会長名	事務局	事務局長	設立年月日
須賀川地方ユネスコ協会	岩田悦次郎	須賀川市教委文化・スポーツ課内 須賀川市牛袋町5	河村 朝子	S46. 9. 13
いわきユネスコ協会	松本 恒雄	いわき市教委生涯学習課内 いわき市堂根町4-8	佐久間静子	S51. 10. 23
郡山ユネスコ協会	過足 満雄	学校法人尚志学園高等学校内 郡山市大槻町字担ノ腰2	宗像 金三	S53. 1. 24
白河ユネスコ協会	小野 利廣	白河市教委生涯学習スポーツ課内 白河市八幡小路7-1	根本 克己	S53. 11. 19
福島ユネスコ協会	河田 亨	福島市中央学習センター内 福島市松木町1-7	阿部 隆	S55. 7. 19
会津ユネスコ協会	吉田 幸代	会津若松市教委生涯学習センター内 会津若松市栄町3-50	石田 明夫	S55. 11. 16
川俣ユネスコ協会	佐藤 好弘	川俣町教育委員会内 伊達郡川俣町字樋ノ口11	遠藤貴美子	H16. 11. 26
郡山次世代ユネスコ協会	大本 研二	学校法人こおりやま東都学園本部気付 郡山市図景2-9-3	遠藤 典雄	H28. 1. 16
福島県ユネスコ連絡協議会	河田 亨	福島市笹木野字中西表60-6 近野元洋宅	近野 元洋	S56. 12. 5

2 福島県ユネスコ活動研修会

平成29年11月21日（火）須賀川市産業会館
 参加者数 46名
 テーマ 「若い力を育むユネスコ活動」

第9節 ふくしまっ子自然体験・交流活動支援事業

1 内容

(1) 小・中学校自然体験・交流活動等支援事業

対象者：県内の小・中学校、特別支援学校小学部・中学部の児童生徒及び引率者等

対象期間：4月から3月末まで

実施内容：小・中学校や特別支援学校小学部・中学部が、教育課程等に位置付けられている各教科、特別活動などをよりよい環境（県内外）のもとで行う宿泊を伴う体験活動に宿泊費と活動費・交通費を補助する。

補助基準：①宿泊費 1人当たり1泊5千円上限13泊まで

②活動費・交通費 1人当たり1回2千円上限

(2) 幼稚園・保育所自然体験活動等支援事業

対象者：県内の幼稚園・保育所・認定こども園（認可外保育施設も含む）、特別支援学校幼稚部の幼児及び引率者等

対象期間：4月から3月末まで

実施内容：幼稚園・保育所・認定こども園や特別支援学校幼稚部が、年間計画等に位置付けられている園行事などをよりよい環境（県内外）のもとで行う日帰り及び宿泊を伴う体験活動に宿泊費と活動費・交通費を補助する。

補助基準：①宿泊費 1人当たり1泊5千円上限13泊まで

②活動費・交通費 1人当たり1回2千円上限

(3) 社会教育団体自然体験活動支援事業

対象者：県内の社会教育団体（子ども会、スポーツ少年団、PTA等）

対象期間：7月から8月末、12月から1月末

実施内容：社会教育団体（子ども会、スポーツ少年団、PTA等）が、よりよい環境（県内外）のもとで行う長期宿泊（6泊～）を伴う体験活動に宿泊費と活動費・交通費を補助する。

補助基準：①宿泊費 1人当たり1泊5千円上限13泊まで

②活動費・交通費 1人当たり1回2千円上限

(4) ふくしまっ子体験活動応援補助事業

対象者：県内の社会教育団体等（子ども会、スポーツ少年団、PTA、公民館等）

対象期間：7月から8月末、12月から1月末

実施内容：市町村や社会教育関係団体等が、よりよい環境（県内）のもとで体験活動や交流活動を実施する場合、宿泊費と交通費・体験活動費を補助する。

補助基準：①宿泊費 1人当たり1泊5千円上限5泊まで

②活動費・交通費 1人当たり1回2千円上限

2 実績

(1) 小・中学校自然体験・交流活動等支援事業	件数：515件	参加者：26,486名
(2) 幼稚園・保育所自然体験活動等支援事業	件数：464件	参加者：52,293名
(3) 社会教育団体自然体験活動支援事業	件数：5件	参加者：87名
(4) ふくしまっ子体験活動応援補助事業	件数：714件	参加者：16,888名

第10節 子どもがふみだす ふくしま復興体験応援事業

1 内容

事業1 避難者や被災者と交流して子どもたちが元気を発信する

事業2 風評被害などを経験した地域との交流を行い、地域の復興を考え他県等へ復興をアピールする

事業3 自分たちの専門性を生かして何ができるかを考え、実践することでふくしまを発信する

2 採択状況

応募団体 90団体

採択団体 84団体

補助金額 134,985千円

第11節 公民館等社会教育施設

1 公民館を除く主な社会教育施設

※震災により休館中の施設を含む

(1) 図書館の設置状況

ア 県立

名 称	所 在 地	電話番号	設置者
福島県立図書館	福島市森合字西養生1	024-535-3220	福島県
イ 市町村立			
名 称	所 在 地	電話番号	設置者
福島市立図書館	福島市松木町1-1	024-531-6551	福島市
福島市西口ライブラリー	福島市三河南町1-20	024-525-4023	福島市
福島市子どもライブラリー	福島市早稲町1-1 (こむこむ内)	024-526-4200	福島市
伊達市 教育部市立図書館	伊達市箱崎字川端7	024-551-2132	伊達市
二本松市立二本松図書館	二本松市本町1丁目102番地	0243-23-5082	二本松市
二本松市立岩代図書館	二本松市小浜字藤町242番地	0243-55-3255	二本松市
しらさわ夢図書館	本宮市白岩字堤崎500	0243-44-2112	本宮市
郡山市中央図書館	郡山市麓山一丁目5-25	024-923-6601	郡山市
郡山市中央図書館 田村分館	郡山市田村町岩作字穂多礼40-3	024-955-3842	郡山市
郡山市中央図書館 喜久田分館	郡山市喜久田堀之内字下河原1	024-959-2205	郡山市
郡山市中央図書館 緑ヶ丘分館	郡山市緑ヶ丘東三丁目1-21	024-944-0001	郡山市
郡山市中央図書館 日和田分館	郡山市日和田町字小堰23-4	024-958-2352	郡山市
郡山市中央図書館 三穂田分館	郡山市三穂田町字東屋敷6	024-953-2820	郡山市
郡山市中央図書館 中田分館	郡山市中田町下枝字大平385	024-973-2951	郡山市
郡山市中央図書館 西田分館	郡山市西田町三丁目桜内259	024-972-2807	郡山市
郡山市中央図書館 大槻分館	郡山市大槻町字中前田56	024-951-1512	郡山市
郡山市希望ヶ丘図書館	郡山市希望ヶ丘1-5	024-961-1600	郡山市
郡山市安積図書館	郡山市安積一丁目38	024-946-8850	郡山市
郡山市富久山図書館	郡山市富久山町福原字泉崎181-1	024-921-0030	郡山市
須賀川市図書館	須賀川市八幡町134	0248-75-3309	須賀川市
須賀川市長沼図書館	須賀川市長沼字金町85	0248-67-2138	須賀川市
須賀川市岩瀬図書館	須賀川市柱田字中地前22番地	0248-65-3549	須賀川市
鏡石町図書館	鏡石町旭町440-6	0248-62-1288	鏡石町
古殿町図書館	古殿町松川字横川235	0247-53-2305	古殿町
三春町町民図書館	三春町字大町12-1	0247-62-3375	三春町
小野町ふるさと文化の館・図書館	小野町大字小野新町字中通2	0247-72-2120	小野町
田村市図書館	田村市船引町船引字扇田19	0247-82-1001	田村市
田村市図書館滝根分館	田村市滝根町神俣字町48-1	0247-78-2001	田村市
田村市図書館大越分館	田村市大越町上大越字元池87-5	0247-79-2161	田村市
田村市図書館常葉分館	田村市常葉町常葉字町裏1	0247-77-2013	田村市
田村市図書館都路分館	田村市都路町古道字本町33-4	0247-75-2063	田村市
白河市立図書館	白河市道場小路96-5	0248-23-3250	白河市
白河市立図書館表郷分館	白河市表郷金山字長者久保2	0248-32-4784	白河市
白河市東図書館	白河市東釜子字狐内47	0248-34-1130	白河市
白河市大信図書館	白河市大信町屋字沢田25	0248-46-3614	白河市
矢吹町図書館	矢吹町小松481	0248-44-3595	矢吹町

名 称	所 在 地	電話番号	設置者
泉崎図書館	泉崎村大字泉崎字館 2 4 - 9	0248-53-4779	泉崎村
棚倉町立図書館	棚倉町大字棚倉字棚倉字森町 2 1 - 1	0247-33-4342	棚倉町
塙町立図書館	塙町大字塙字栄町 6 8 - 6	0247-43-0808	塙町
矢祭もったいない図書館	矢祭町大字東館字石田 2 5	0247-46-4646	矢祭町
鮫川村図書館	鮫川村大字赤坂中野字巡ヶ作 1 2 8	0247-49-3151	鮫川村
会津若松市立会津図書館	会津若松市栄町 3 - 5 0	0242-22-4711	会津若松市
猪苗代町図書館歴史情報館	猪苗代町字古城町 1 3 2 - 7		猪苗代町
喜多方市立図書館	喜多方市字柳原 7 5 0 3 - 1	0241-22-1855	喜多方市
南会津町図書館	南会津町田島字宮本東 2 2	0241-62-5522	南会津町
相馬市図書館	相馬市中村字塚ノ町 6 5 - 1 6	0244-37-2630	相馬市
新地町図書館	新地町谷地小屋字樋掛田 4 0 - 1	0244-62-5031	新地町
南相馬市立中央図書館	南相馬市原町区朝日町二丁目 7 - 1	0244-23-7789	南相馬市
南相馬市立鹿島図書館	南相馬市鹿島区寺内字迎田 2 2 - 1	0244-46-5116	南相馬市
南相馬市立小高図書館 (休館中)	南相馬市小高区本町二丁目 8 9 - 1	0244-44-3049	南相馬市
浪江町図書館 (休館中)	浪江町権現堂字矢沢町 6 - 1	0240-34-5024	浪江町
双葉町図書館 (休館中)	双葉町大字長塚字鬼木 1	0240-33-4214	双葉町
大熊町図書館 (休館中)	大熊町大字下野上字大野 6 6 9 - 3	0240-32-3011	大熊町
富岡町図書館 (休館中)	富岡町大字本岡字王塚 6 2 2 - 1	0240-21-3665	富岡町
いわき市立総合図書館	いわき市平字田町 1 2 0	0246-22-5552	いわき市
いわき市立内郷図書館	いわき市内郷綴町榎下 4 0 - 1	0246-45-1030	いわき市
いわき市立小名浜図書館	いわき市小名浜字愛宕上 7 - 2	0246-54-9257	いわき市
いわき市立常磐図書館	いわき市常磐関船町作田 1	0246-44-6218	いわき市
いわき市立勿来図書館	いわき市植田町南町 1 丁目 2 - 2	0246-62-7431	いわき市
いわき市立四倉図書館	いわき市四倉町字東一丁目 5 0	0246-32-5980	いわき市

ウ 法人

名 称	所 在 地	電話番号	設置者
クローバー子供図書館	郡山市開成 6 丁目 3 4 6 - 1	024-932-2118	財金森和心会

(2) 博物館の設置状況

ア 登録博物館及び相当施設

名 称	所 在 地	電話番号	設置者	種別	登録・指定年月日
福島県立美術館	福島市森合字西養山 1	024-531-5511	福島県	美術博物館	59. 7. 16
福島県立博物館	会津若松市城東町 1-25 号	0242-28-6000	福島県	総合博物館	61. 11. 28
須賀川市立博物館	須賀川市池上町 6	0248-75-3239	須賀川市	歴史博物館	46. 7. 10
いわき市立美術館	いわき市平字堂根町 4-4	0246-25-1111	いわき市	美術博物館	59. 9. 3
郡山市立美術館	郡山市安原町字大谷地 130-2	024-956-2200	郡山市	美術博物館	平 5. 1. 20
南相馬市博物館	南相馬市原町区牛来字出口 194	0244-23-6421	南相馬市	総合博物館	平 8. 5. 9
野口英世記念館	猪苗代町大字三ツ和字前田 81	0242-85-7867	(公財)野口英世記念会	歴史博物館	29. 10. 21
会津民俗館	猪苗代町大字三ツ和字前田 33-1	0242-65-2600	会津民俗館	歴史博物館	55. 10. 3
白虎隊記念館	会津若松市一箕町大字八幡字弁天下 33	0242-24-9170	(一財)白虎隊記念館	歴史博物館	63. 6. 30
奥会津博物館	南会津町糸沢字西沢山 3692-20	0241-66-3077	南会津町	歴史博物館	平 21. 6. 16
諸橋近代美術館	北塩原村大字桧原字剣ヶ峰 1093-23	0241-37-1088	(公財)諸橋近代美術館	美術博物館	平 11. 8. 17
藤田記念博物館 (休館中)	白河市五郎窪 37-1	0248-24-1780	(公財)藤田教育振興会	美術博物館	54. 9. 1
CCGA 現代グラフィックアートセンター	須賀川市塩田宮田 1	0248-79-4811	(公財)DNP 文化振興財団		平 25. 12. 25

イ 博物館相当施設

名 称	所 在 地	電話番号	設置者	種別	登録・指定年月日
やないづ町立齋藤清美術館	柳津町柳津字下平乙 187	0241-42-3630	柳津町	美術博物館	平 11. 9. 28
龍が城美術館 (休館中)	いわき市平字旧城跡 27-1	0246-22-1601	(一財) 白龍会	美術博物館	30. 2. 10
会津武家屋敷会津歴史資料館	会津若松市東山町大字石山字院内 1	0242-28-2525	(株) 会津武家	屋敷歴史博物館	56. 11. 25
安積歴史博物館	郡山市開成 5-25-63	024-938-0778	(公財) 安積歴史博物館	歴史博物館	59. 9. 8
磐梯山噴火記念館	北塩原村桧原字剣ヶ峰 1093-36	0241-32-2888	(株) コールトハウス目黒	科学博物館	平 5. 7. 1
会津藩校日新館	会津若松市河東町南高野字高塚山10番地	0242-75-2525	(株) 会津武家屋敷	歴史博物館	平 12. 11. 28
はじまりの美術館	猪苗代町新町 4873	0242-62-3454	(社福) 安積愛育園	歴史博物館	平 28. 12. 6

ウ 類似施設

名 称	所 在 地	電話番号	設置者
ふくしま海洋科学館	いわき市小名浜字辰巳町 5 0	0246-73-2525	福島県
福島県文化財センター白河館	白河市白坂一里段 8 6	0248-21-0700	福島県
福島県歴史資料館	福島市春日町 5 - 5 4	024-534-9195	福島県
ふれあい歴史館 (福島市資料展示室)	福島市上町 3 9 - 1	024-563-7855	福島市
福島市民家園	福島市上名倉字大石前地内	024-593-5249	福島市
福島市古関裕而記念館	福島市入江町 1 - 1	024-531-3012	福島市
福島市写真美術館	福島市森合町 1 1 - 3 6	024-523-1202	福島市
U F Oふれあい館	福島市飯野町大字青木字小手神森 1-299	024-562-2002	福島市
民俗資料展示室	福島市飯野町大字明治字北小戸明利 6 0	024-525-3785	福島市
羽山の森美術館	伊達郡川俣町大字西福沢字山柁内 2 0	024-566-3367	川俣町
伊達市梁川美術館	伊達市梁川町字中町 1 0	024-527-2656	伊達市
伊達市保原歴史文化資料館	伊達市保原町大泉字宮脇 2 6 5	024-575-1615	伊達市
霊山子どもの村遊びと学びのミュージアム	伊達市霊山町石田字宝司沢 9 - 1	024-589-2211	伊達市
二本松市歴史資料館	二本松市本町 1 - 1 0 2	0243-23-3910	二本松市
二本松市智恵子記念館	二本松市油井字漆原町 3 6	0243-22-6151	二本松市
二本松市大山忠作美術館	二本松市本町 2 - 3 - 1	0243-24-1217	二本松市
あだたらふるさとホール	大玉村玉井字西庵 1 8 3	0243-48-2569	大玉村
本宮市歴史民俗資料館	本宮市字南町裡 1 3 0	0243-33-2546	本宮市
本宮市白沢ふれあい文化ホール	本宮市白岩字堤崎 4 9 4 - 4 4	0243-44-3185	本宮市
郡山市開成館	郡山市開成 3 - 3 - 7	024-923-2157	郡山市
郡山市歴史資料館	郡山市麓山 1 - 8 - 3	024-932-5306	郡山市
郡山市こおりやま文学の森資料館	郡山市豊田町 3 - 5	024-991-7610	郡山市
郡山市ふれあい科学館	郡山市駅前 2-11-1 ビッグアイ 20F~24F	024-936-0201	郡山市
須賀川市歴史民俗資料館	須賀川市長沼字門口 1 8 6	0248-67-2030	須賀川市
古殿町郷土文化保存伝習施設	古殿町大字松川字横川 2 3 5	0247-53-2305	古殿町
天栄村ふるさと文化伝承館	天栄村大字大里字八石 1 - 2	0248-81-1030	天栄村
石川町歴史民俗資料館	石川町字高田 2 0 0 - 2	0247-26-3768	石川町
浅川町歴史民俗資料館	浅川町大字浅川字背戸谷地 1 4 4 - 6	0247-36-2134	浅川町
吉田富三記念館	浅川町大字袖山字森下 2 8 7	0247-36-4129	財団法人
三春町歴史民俗資料館	三春町字桜谷 5	0247-62-5263	三春町
三春郷土人形館	三春町字大町 3 0	0247-62-7053	三春町
小野町ふるさと文化の館・郷土資料館	小野町大字小野新町字中通 2	0247-72-2120	小野町
田村市歴史民俗資料館	田村市船引町船引字四城内前 1 9 6 番地		田村市

名 称	所 在 地	電話番号	設置者
白河市歴史民俗資料館	白河市中田 7-1	0248-27-2310	白河市
白河集古苑	白河市郭内 1-73	0248-24-5050	白河市
中山義秀記念文学館	白河市大信町屋字沢田 25	0248-46-3614	白河市
白河市大信ふるさと文化伝承館	白河市大信町屋字沢田 25	0248-46-3614	白河市
泉崎資料館	泉崎村大字泉崎字館 24-9	0248-54-1533	泉崎村
あぶくま高原美術館	塙町大字那倉字吉元 86-1	0247-42-2510	塙町
矢祭町歴史民俗資料館	矢祭町大字東館字石田 25		矢祭町
国指定名勝会津松平氏庭園	会津若松市花春町 8-1	0242-27-2472	会津若松市
若松城天守閣	会津若松市追手町 1-1	0242-27-4005	会津若松市
茶室麟閣	会津若松市追手町 1-1	0242-27-4005	会津若松市
会津町方伝承館	会津若松市大町 2-8-8	0242-22-8686	会津若松市
アクアマリンいなわしろカワセミ水族館	猪苗代町大字長田字東中丸 344-4	0242-65-2481	猪苗代町
喜多方市郷土民俗館	喜多方市柳原 7503-1	0241-24-3821	喜多方市
喜多方蔵の里	喜多方市字押切 2丁目 109	0241-22-6592	喜多方市
喜多方市美術館	喜多方市押切 2丁目 2	0241-23-0404	喜多方市
喜多方市カイギョウランドたかさど	喜多方市高郷町西羽賀字和尚堂 3163	0241-44-2924	喜多方市
喜多方市高郷郷土資料館	喜多方市高郷町上郷字天神後戊 417	0241-44-2765	喜多方市
会津坂下町五浪美術記念館	会津坂下町字台ノ下 842	0242-84-1233	会津坂下町
ほっと in やないづ縄文館	柳津町大字柳津字下平乙 151-1	0241-41-1077	柳津町
会津美里町民俗資料館	会津美里町米田字堂ノ後甲 149	0242-54-2368	会津美里町
三島町交流センター山びこ	三島町名入字諏訪ノ上 418	0241-52-2165	三島町
からむし工芸博物館	昭和村大字佐倉字上ノ原 1	0241-58-1677	昭和町
旧南会津郡役所	南会津町田島字丸山甲 4681	0241-62-3848	南会津町
久川城資料館	南会津町青柳字久川 23	0241-76-2191	南会津町
奥会津民俗館 南郷館	南会津町界字川久保 552	0241-73-2829	南会津町
奥会津民族館 館岩館	南会津町松戸原 55	0241-78-2110	南会津町
奥会津民族館 伊南館	南会津町青柳字久川 24		南会津町
檜枝岐村歴史民俗資料館	檜枝岐村字下ノ原 887-2	0241-75-2342	檜枝岐村
会津只見考古館	只見町大字大倉字窪田 33	0241-86-2175	只見町
只見町ブナセンター	只見町字町下 2590	0241-72-8355	只見町
河井継之助記念館	只見町大字塩沢字上ノ台 850-5	0241-82-2870	只見町
相馬市歴史民俗資料館	相馬市中村字大手先 13	0244-37-2191	相馬市
鹿島歴史民俗資料館 (廃止)	南相馬市鹿島区西町 3-1	0244-46-4281	南相馬市
埴谷島尾記念文学資料館 (休館中)	南相馬市小高区本町 2-89-1	0244-44-3049	南相馬市
葛尾村郷土文化保存伝習館	葛尾村落合字落合 11	0240-29-2008	葛尾村
双葉町歴史民俗資料館 (休館中)	双葉町大字新山字本町 27-1	0240-33-4763	双葉町
大熊町民俗伝承館 (休館中)	大熊町大字下野上字大野 669-3	0240-32-3011	大熊町
富岡町歴史民俗資料館 (休館中)	富岡町大字本岡字王塚 622-1	0240-22-2626	富岡町
檜葉町歴史資料館 (休館中)	檜葉町大字北田字鐘突堂 5-4	0240-25-2492	檜葉町
いわき市石炭・化石館	いわき市常磐湯本町向田 3-1	0246-42-3155	いわき市
いわき市勿来関文学歴史館	いわき市勿来関町田長沢 6-1	0246-65-6166	財団法人
いわき市アンモナイトセンター	いわき市大久町大久字鶴房 147-2	0246-82-4561	いわき市
いわき市考古資料館	いわき市常磐湯本町手這 50-1	0246-43-0391	いわき市

名 称	所 在 地	電話番号	設置者
いわき市立草野心平記念文学館	いわき市小川町高萩字下夕道 1-3-9	0246-83-0005	いわき市
いわき市草野心平生家	いわき市小川町上小川字植ノ内 6-1	0246-83-0005	いわき市
いわき市暮らしの伝承郷	いわき市鹿島町下矢田字散野 1-4-1-6	0246-29-2230	いわき市
原郷のこけし群西田記念館	福島市荒井字横塚 3-1-8-3	024-593-0639	財団法人
種徳美術館	桑折町字陣屋 1-2	024-582-5507	桑折町
東北サファリパーク	二本松市沢松倉 1	0243-24-2336	株式会社
デコ屋敷資料館	郡山市西田町高柴字福内 4-1	024-971-3900	私人
ふくしまの森科学体験センター	須賀川市虹の台 1-0-0	0248-89-1120	財団法人
(有) 大桑原つつじ園	須賀川市大桑原字竹ノ花 1-3	0248-76-5857	有限会社
(株) エイトファーム三春ハーブガーデン	三春町大字斉藤字仁井道 1-2-6	024-942-1138	株式会社
リカちゃんキャッスル	小野町小野新町中通 5-1-3	0247-72-6364	株式会社
白河フラワーワールド	白河市南湖 5-9	0248-23-2100	私人
南湖神社宝物館	白河市字菅生館 2	0248-23-3015	私人
木の博物館	塙町大字伊香字松原 1-6-0-1-3	0247-43-1480	有限会社
會津宮泉酒造 (旧会津酒造歴史館)	会津若松市東栄町 8-7	0242-26-0031	株式会社
会津葵シルクロード文明館	会津若松市追手町 4-6	0242-27-1001	株式会社
(社) 福島県伝統産業会館	会津若松市大町 1-7-3	0242-24-5757	社団法人
大和川酒造北方風土館	喜多方市字寺町 4-7-6-1	0241-22-2233	私人
喜多方蔵品美術館	喜多方市梅竹 7-2-9-4-4	0241-24-3576	私人
うるし美術博物館	喜多方市字東町 4-0-9-5	0241-24-4151	株式会社
御蔵入細井家資料館	南会津町静川字風下甲 1-7-5	0241-62-0906	私人
福島さくら遊学舎	三春町大字鷹巣字瀬山 2-1-3	0247-61-6345	株式会社

(3) 青少年教育関係施設の設置状況

ア 県設置

名 称	所 在 地	電話番号	設置者
福島県郡山自然の家	郡山市逢瀬町多田野字中丸山 4-6	024-957-2111	福島県
福島県会津自然の家	会津坂下町大字八日沢字西東山 4-4-9-5-1	0242-83-2480	福島県
福島県いわき海浜自然の家	いわき市久之浜町田之網字向山 5-3	0246-32-7700	福島県

イ 教育施設

名 称	所 在 地	電話番号	設置者
国立那須甲子青少年自然の家	西郷村大字真船字村火 6-1	0248-36-2331	文部科学省
国立磐梯青少年交流の家	猪苗代町字五輪原 7-1-3-6-1	0242-62-2530	文部科学省
市町村 (条例) 設置	※ 25 施設 (別掲)		
他県設置等	※ 8 施設 (別掲)		

《市町村 (条例) 設置 25 施設》

名 称	所 在 地	電話番号	設置者
福島県青少年会館	福島市黒岩字田部屋 5-3-5	024-546-8311	公益財団法人
福島市社会教育会館「こぶし荘」	福島市庭坂字砥石山 4-0-1-3	024-591-3366	福島市
福島市社会教育会館「立子山自然の家」	福島市立子山字金井作 1	024-597-2951	福島市
福島市子どもの夢を育む施設	福島市早稲町 1-1	024-524-3131	福島市
霊山子どもの村キャンプ場	伊達市霊山町石田字宝司沢 9-1	024-589-2211	伊達市
二本松市青年の家	二本松市榎戸 1-9-2	0243-23-5121	二本松市
二本松市二本松勤労青少年ホーム	二本松市榎戸 1-9-2	0243-23-5121	二本松市

名 称	所 在 地	電話番号	設置者
二本松市安達勤労青少年ホーム	二本松市油井字濡石 3-1	0243-23-3721	二本松市
本宮市勤労青少年ホーム	本宮市字矢来 39-1	0243-33-2611	本宮市
郡山市青少年会館	郡山市大槻町字漆棒 82	024-961-8282	郡山市
郡山市少年湖畔の村	郡山市湖南町横沢字村西 112	024-982-2115	郡山市
郡山勤労青少年ホーム	郡山市麓山 1丁目 8-4	024-932-3027	郡山市
須賀川市市民の森	須賀川市塩田音森 20		須賀川市
須賀川市勤労青少年ホーム	須賀川市和田字柏崎 44	0248-63-2154	須賀川市
小野町勤労青少年ホーム	小野町大字小野新町字中道 2	0247-72-2125	小野町
石川町勤労青少年ホーム	石川郡石川町字当町 418番地の1		石川町
矢祭山友情の森	矢祭町山下字下河原 1-1	0247-46-2162	矢祭町
会津若松市勤労青少年ホーム	会津若松市城東町 14-52	0242-26-6662	会津若松市
会津若松市少年の家	会津若松市城東町 15-62		会津若松市
喜多方市勤労青少年ホーム	喜多方市舞台田 3119-1	0241-22-1403	喜多方市
喜多方市勤労青少年体育センター	喜多方市舞台田 3119-1	0241-22-1403	喜多方市
びわ沢原森林公園	猪苗代町字琵琶沢原 7095	0242-62-3291	猪苗代町
LVMH 子どもアート・メゾン	相馬市中村 2丁目 2-15	0244-26-7415	相馬市
新地町勤労青少年ホーム	新地町大字福田字中里 15-1	0244-62-3106	新地町
富岡町合宿センター（休館中）	富岡町小浜 343	0240-22-7000	富岡町

参考 ※いわき市生涯学習プラザ いわき市平字一丁目1番地ティールワンビル4・5階

※財団法人福島県産業振興センター産業交流館（ビッグパレットふくしま） 郡山市安積町日出山字北千保 19-8

《他県設置等8施設》

名 称	所 在 地	電話番号	設置者
小野田自然塾	埴町大字片貝字長久木 363	0247-42-2311	財団法人
越谷市立あだたら高原少年自然の家	二本松市永田字長坂国有林 14林班	0243-24-2561	越谷市
羽生市立あだたら高原少年自然の家	二本松市永田字長坂国有林 14林班	0243-24-2859	羽生市
葛飾区立あだたら高原少年自然の家	二本松市永田字長坂国有林 14林班	0243-24-2206	葛飾区
中野区常葉少年自然の家	田村市常葉町山根字鰻 5-29	0247-77-2098	中野区
朝霞私立猪苗代湖自然の家	会津若松市湊町赤井戸の口 53	0242-94-2434	朝霞市
さいたま市立館岩少年自然の家	南会津町宮里字向山 2847-1	0241-78-2311	さいたま市
SYDばんだいふれあいびあ	北塩原村桧原字南黄連沢山 1157-192	0241-33-2335	財団法人

2 文化施設の整備充実

(1) 県立美術館の整備充実

移動展等を開催するとともに、美術作品の収集と作品・作家等に関する調査研究を計画的に推進したほか、教育普及活動に努め、本県美術振興の中心的施設として機能の充実に努めた。

(2) 県立博物館の整備充実

展示資料の収集・整備に努め、調査研究を計画的に推進し、常設展・企画展等の充実を図るとともに教育普及のための各種事業を行い、県内博物館の中心的施設として機能の充実に努めた。

(3) 県文化財センター白河館（まほろん）

文化財の収蔵と被災した地域の文化財等の公開・活用及び埋蔵文化財担当職員等の研修を図り、文化財に親しみ、文化財への理解を深める施設として機能の充実に努めた。

第12節 福島県立図書館

1 概要

福島県立図書館は、平成17年10月に策定した『福島県立図書館「学びの環境づくり」』に基づき、県民の生涯にわたる多様な学習活動に応えるため、資料及び情報の計画的な収集を図るとともに市町村立図書館等との連携のもとに効果的な図書館活動の展開に努め、県民文化の向上に寄与することを目的とした事業を行っている。

さらに、平成25年度に策定した『福島県立図書館アクションプラン（第2次）』（平成25年度～29年度）の4つの方針・9つの行動に基づき読書環境、学習環境の整備やサービスの充実にも取り組んでいる。また、『福島県立図書館アクションプラン（第3次）』（平成30年度～32年度）を平成30年3月に策定し、公表した。

併せて、平成27年2月に策定された「第三次福島県子ども読書活動推進計画」（平成27年度～31年度）に基づき、計画実現のための事業推進にも取り組んでいる。

『福島県立図書館アクションプラン（第2次）』

4つの方針・9つの行動

I 東日本大震災等により失われた読書環境、学習環境を取り戻します。

- 1 東日本大震災等の記録をのこします。
- 2 支援体制の基盤を整備します。
- 3 読書環境、学習環境の整備を通じて「ふるさと再生」を支援します。

II 県民一人ひとりのお役に立てるよう図書館環境を整えます。

- 1 県民が必要とする情報を提供します。
- 2 県民が利用しやすい環境を整備します。
- 3 県民と共に歩む図書館を目指します。

III 福島県の子どもの読書活動を推進します。

- 1 「第二次福島県子ども読書活動推進計画」に基づき、県立図書館の役割を果たします。※現「第三次」

IV 「図書館の図書館」として、図書館の振興を図ります。

- 1 図書館・公民館の活動を支援します。
- 2 高等教育機関、文化施設等関係機関との連携を図ります。

(1) 図書館協議会

会議

第一回 11月14日 於：県立図書館

- ・会長・副会長の選出
- ・図書館利用実績について
- ・「福島県立図書館アクションプラン（第3次）」の策定について

第二回 2月22日 於：県立図書館

- ・東日本大震災復興ライブラリーの貸出状況について
- ・個人貸出の状況について
- ・「福島県立図書館アクションプラン（第3次）」案について

図書館協議会委員名※所属団体等は就任時現在

[任期:平成29年10月21日～平成31年10月20日]

区分	氏名	所属団体等（主な役職名等）
学識経験者	佐藤 佐敏	福島大学人間発達文化学類（教授）
	三瓶千香子	桜の聖母短期大学キャリア教養学科（准教授）
	佐藤 克也	株式会社福島民報社（編集局 文化部長）
	菊池 克彦	福島民友新聞社株式会社（編集局長）
	東山 京子	公募
	金澤 一成	公募
家庭教育	矢吹 貴美	福島県家庭教育インストラクター連絡協議会
社会教育	宮崎 亜古	福島県公共図書館協会 （田村市図書館長）
学校教育関係	佐藤 秀美	福島県高等学校校長協会 （福島県立相馬東高等学校長）
	吉田ひとみ	福島県中学校長会 （磐梯町立磐梯中学校長）

（会長）佐藤 佐敏 （副会長）佐藤 秀美

2 資料の収集・整理

「福島県立図書館資料収集基本要綱」及び「福島県立図書館アクションプラン（第2次）」を踏まえ、県民からの資料要求に対応するために、各分野の基本資料を収集し迅速な整理に努めた。また、平成24年度に開設した「東日本大震災福島県復興ライブラリー」の整備充実を継続して行った。

(1) 図書館資料の収集

ア 一般資料の収集

新刊・既刊を問わず、資料的価値や利用的価値の高い資料の収集を行った。官公庁刊行物は主要なものを収集、年鑑白書や叢書等の継続資料については厳選し計画的な収集に努めた。文学作品は、受賞作品・候補作品や書評等で評価の高い作品を収集した。重点収集として、東日本大震災に関する資料をはじめ、調査相談に対応するために必要な各種参考図書、大活字本等のユニバーサルデザインに対応した資料の収集・整理に努めた。

イ 地域資料の収集

福島県に関する資料の収集に努め、福島県人著作の収集は話題性等を考慮し購入した。非売品等の資料については出版した個人・団体・機関等へ寄贈を依頼し収集に努めた。購入冊数 944 冊に対して寄贈を受けた冊数は 3,620 冊となった。

行政資料についても各自自治体・部局へ収集の依頼を行い、県職員へは全員へメールで要請を行うなど積極的な収集に努めた。収集した資料は当館HPの「県立図書館所蔵 県内行政機関発行資料一覧」を更新し情報提供を行った。

震災関連資料及び東京電力福島第一原子力発電所事故に関する資料に関しては、HP上やチラシ等で寄贈のお願いを掲載し、約800冊を収集、地域資料の約15%となった。重点収集とした歴史の変遷を辿る地形図は、県下を網羅して購入目標を達成した。

ウ 地域視聴覚資料の収集

震災関連資料及び合唱・吹奏楽関係の資料を主に137点を収集した。地元新聞のCD-ROMなど保存価値の高いものは継続的に収集し提供している。

エ 児童資料・研究資料の収集

(ア) 児童資料

市町村のモデルとして運営している「こどものへや」用児童資料として、子どもの読書活動推進に資する資料を、新刊書を中心に厳選して収集した。

重点収集として、ユニバーサルデザインや多文化に対応した資料の収集に努めた。また、中学生・高校生向け資料にいても収集した。

(イ) 研究資料

「児童図書研究室」用研究資料として、児童図書に関する調査研究及び子どもの読書活動支援に資する資料を、新刊書を中心に厳選して収集した。

また、読み聞かせ活動支援のための大型絵本や研究用児童資料としての主要な児童図書賞受賞作品も収集した。

重点収集として、子どもの読書や読書環境に関する資料の収集に努めた。

オ 逐次刊行物の収集と整備

雑誌は、資料価値を重視し、専門的な調査相談や相互貸借に対応できる資料を幅広く継続収集した。要望していた『福島民友新聞』過去紙面マイクロフィルム(昭和56-61年)141本を購入し、提供できるようになった。

新聞、雑誌の震災・原発事故関連記事についても収集に努めた。

カ 市町村支援用資料の収集

図書館未設置の自治体や、県立図書館の利用環境が十分ではない過疎・中山間地域、また、東日本大震災に伴う被災地地域の読書活動に役立たせるため、新刊書を中心に、話題性の高い文芸書や生活に密着した情報が掲載された実用書・時事関係資料等を収集した。

逐次刊行物受入状況

(単位：種)

区 分	購 入	寄贈・他	計
新 聞	25	59	84
雑 誌	240	785	1,025
官 報 等	3	0	3
合 計	268	844	1,112

資料受入状況

(単位：冊)

区 分	購 入	寄贈・他	計
一 般 資 料	5,222	3,276	8,498
地 域 ・ 行 政 資 料	944	4,405	5,349
児 童 図 書	2,451	335	2,786
児童図書研究書	406	51	457
市町村支援資料	1,110	1,500	2,610
合 計	10,133	9,567	19,700

資料受入状況・推移

(単位：冊)

平成27年度	平成28年度	平成29年度
16,422	28,080	19,700

キ 県民のくらし応援文庫

県民が抱える課題の解決に役立つ図書を整備することを目的に、平成28年度に創設した寄贈制度。平成29年度までに、延べ9団体(企業)から合計1,352冊の寄贈を受けた。

蔵書統計(資料別・分類別)

(単位：冊)

分 類	区 分	28年度累計	29年度増加	29年度除籍	利用替え	29年度累計
一般資料	0 総 記	32,359	499	663	0	32,195
	1 哲 学	25,806	418	301	0	25,923
	2 歴 史	64,081	1,054	821	1	64,315
	3 社 会 学	105,400	2,099	1,533	7	105,973
	4 自 然 学	36,445	886	461	6	36,876
	5 工 学 ・ 工 業	35,207	747	273	1	35,682
	6 産 業	28,265	581	304	0	28,542
	7 芸 術	40,236	915	328	-1	40,822
	8 語 学	9,423	184	114	1	9,494
	9 文 学	92,338	1,115	948	-2	92,503
		計	469,560	8,498	5,746	13

分類	区分	28年度累計	29年度増加	29年度除籍	利用替え	29年度累計
地域資料	0 総記	17,532	458	3	0	17,987
	1 哲学	2,680	35	1	0	2,714
	2 歴史	36,832	857	25	-14	37,650
	3 社会科学	63,971	1,507	36	13	65,455
	4 自然科学	9,513	375	3	1	9,886
	5 工学・工業	13,882	520	7	0	14,395
	6 産業	21,387	555	5	0	21,937
	7 芸術	16,310	499	11	0	16,798
	8 語学	894	24	0	0	918
	9 文学	27,648	519	1	1	28,167
	計	210,649	5,349	92	1	215,907
児童資料	研究資料	36,141	457	77	0	36,521
	児童図書	111,660	2,786	504	-14	113,928
	計	147,801	3,243	581	-14	150,449
逐次刊行物資料	雑誌	160,087	5,672	414	0	165,345
	新聞合本	15,234	220	0	0	15,454
	新聞記事ファイル	3,830	0	0	0	3,830
	計	179,151	5,892	414	0	184,629
特殊文庫	70,272	0	0	0	70,272	
館内用計	1,077,433	22,982	6,833	0	1,093,582	
市町村支援計	63,889	2,610	0	0	66,499	
合計	1,141,322	25,592	6,833	0	1,160,081	

3 館内奉仕

開館日は288日、入館者は164,502人、1日平均571人の利用があった。震災の影響で平成23年度に大きく落ち込んだ入館者数だが、震災前（平成22年度）の7割程度に回復してきている。しかし大きな伸びはない。

入館者数

開館日数	288日
入館者数	164,502人
(1日平均)	571人

入館者数・推移 (単位：人)

平成27年度	平成28年度	平成29年度
162,594	167,650	164,502

(1) 調査相談（レファレンス）

県内外から、日常生活の中での質問、仕事上の調査研究等、多種多様な調査相談を受け、所蔵資料及び関係機関の協力を得て回答している。問い合わせは、口頭、電話、文書、FAX、電子メールにて受け付けている。総件数は一般・地域・逐刊、児童資料ともに昨年度より増加した。また、当館のホームページについては、トップページや「蔵書検索」へのアクセスが大きく伸びた。県内の図書館の所蔵資料を検索する「横断検索」も利用されている。

調査相談件数 (単位：件)

	一般・地域・逐刊	児童資料	小計
口頭	7,191	3,085	10,276
電話	1,465	68	1,533
文書	26	0	26
FAX	40	0	40
電子メール	194	5	199
合計	8,916	3,158	12,074

調査相談件数・推移 (単位：件)

平成27年度	平成28年度	平成29年度
11,928	11,473	12,074

ホームページアクセス件数 (単位：件)

区分	平成27年度	平成28年度	平成29年度
トップページ	148,481	194,853	270,257
蔵書検索	439,340	510,541	529,594
横断検索	399,524	396,175	374,626
デジタルライブラリー	4,684	4,677	3,880
こどものへや	3,489	3,480	3,383
利用案内	14,128	14,634	14,595

(2) 館内サービス

「福島県立図書館アクションプラン（第2次）」を踏まえ、図書館資料の提供や各種講座の実施を通じ、地域の復興及び暮らしに役立つ情報の提供に努めた。

また、当館のホームページから全ての所蔵資料（貸出可能なもの）の予約ができるWeb予約サービスに加えて、平成29年7月より、Web予約した資料を市町村図書館で受取ることができる受取館指定サービスを開始した。

(3) 館外個人貸出

登録者数は13,733人、貸出冊数は150,699冊、のべ人数は39,979人で、昨年度より増加した。

直接自宅へ資料が届く資料宅配サービス（有料）の利用は、24件、冊数は147冊と昨年度より減少した。

館外個人貸出状況

分類	冊数(冊)	構成比(%)
総記	2,026	1.3
哲学・宗教	4,451	3.0
歴史・地理	7,399	4.9
社会科学	11,626	7.7
自然科学	7,151	4.7
工学・工業	6,571	4.3
産業	3,584	2.4
芸術	7,973	5.3
語学	1,206	0.8
文学	21,337	14.2
地域資料	8,054	5.3
新聞雑誌	7,316	4.9
小計	88,658	58.8
児童	62,041	41.2
合計	150,699	100.0

館外個人貸出状況・推移

区分	平成27年度	平成28年度	平成29年度
冊数(冊)	140,598	140,037	150,699
のべ人数(人)	38,426	38,237	39,979

館外個人貸出登録者数（登録有効期間3年）（単位：人）

区分	平成27年度	平成28年度	平成29年度	合計
新規	3,145	3,130	3,169	9,444
更新者	1,422	1,459	1,408	4,289
合計	4,567	4,589	4,577	13,733

館外個人貸出登録者数・推移（単位：人）

平成27年度	平成28年度	平成29年度
14,141	13,993	13,733

(4) 特別貸出

特別貸出とは、類縁機関での展示等のための貸出を行う制度で、資料・冊数・期間などの面で配慮している。

特別貸出状況

貸出先	件数(件)	冊数(冊)
官公庁関係	2	60
図書館その他	16	286
会社・事業所	32	231
報道関係	0	0
学校	32	178
計	82	755

特別貸出状況・推移

(単位：冊)

平成27年度	平成28年度	平成29年度
889	828	755

(5) 一般資料

県民が必要とする多種多様な情報を迅速に提供するように資料整理等に努めた。

また、時事や季節、話題性のあるテーマで展示を行い資料の紹介に努めた。「本のひろば」のコーナーでは「日本の城・世界の城」「今日からはじめるエコライフ」「童心にかえる～おもちゃ・工作の本」など7回実施した。時事展示として、「福島県立図書館ベストリーダー展」「子どもたちの教科書を見てみよう!」「ここを込めて手紙を書く」など7回実施。ミニ展示としては、日本赤十字企画展に合わせた「赤十字いまむかし」や美術館企画展示関連の「描かれた聖母たち」ノーベル賞発表の11月に合わせた「ノーベル文学賞2017にカズオ・イシグロ氏」など5回実施した。さらに、パスファインダー「本の森への道しるべ」を作成し、効率かつ有効的な情報の提供に努めた。

(6) 地域資料

地域資料については、県内外の個人・団体などから様々な調査相談が寄せられた。調査相談件数の29%が福島県に関するものの問い合わせであり、的確な回答を導き出せるよう調査に取り組むとともに、迅速な対応を心がけた。

企画展示は、白河藩主・丹羽長重の没後380年にちなみ「城郭絵図展～福島を中心に～」を行った。前期・後期で入れ替えをし、当館所蔵の貴重な城絵図を多数展示した。本のひろばでは「ふくしまの城」を特集し、企画展示に合わせて県内の城郭に関する資料を集めるなどした。ミニ展示は、話題となった出来事をタイムリーに紹介することを心掛け、第40回福島民報出版文化賞の受賞作の一部を展示するなどした。

一つのテーマを絞って資料を案内するパスファインダー「本の森への道しるべ」は「福島県の工芸<全般>・漆器編」など新たに4本、「役立っ!ふくしまの行政資料」など改訂を8本作成した。

地域資料の館外個人貸出冊数は前年度比 102%となった。分野別に見ると歴史地理部門が多く個人貸出冊数の約 35%を占め、東日本大震災関連資料は約 11%に留まった。県人文庫は前年度の 19%から 20%と伸びる傾向にある。

資料の撮影・展示及び掲載許可の申請は 15 件あり、所蔵する貴重資料も幅広く利用された。

(7) 逐次刊行物

『福島県公立図書館 現行購入雑誌保存年限および保存指定館、現行受入新聞一覧』（平成 29 年度版）については、本年も避難している大熊町、富岡町、双葉町、浪江町の 4 町以外から回答を得て発行した。

ミニ展示については、「雑誌で和菓子」「ことしもみんなでおおそうじ」「春を満喫しよう」など、季節を配慮するなどして利用者の方に喜んでいただける内容で行った。

パスファインダー「本の森への道しるべ」は、当館で開催された福島県立医科大学公開講座「がんを知り尽くす」にちなんで「がんを考える」で新規 1 本を作成した。

平成 24 年 6 月から提供している新聞記事閲覧システムについては、図書館ボランティアの協力のもとに行っていた『民報縮刷版』からの記事データ 8 万件に加え、『伝えて百十年』（福島民報／編・発行）の明治期からの記事データ約 2,700 件が加わり、検索機能が拡充された。

(8) 児童サービス

子どもの読書活動推進のために各種の事業を行った。

ア こどものへや・児童図書研究室の運営

資料の貸出や調査相談をはじめ、「絵本コーナー」や「新着図書コーナー」などで推奨する資料の展示を行った。また、「子ども読書活動支援コーナー」では、読書活動関係者に対して情報提供を行った。

イ おはなしかいの開催

乳幼児と保護者を対象とした「ちいさなおはなしかい」（毎月第 2 木曜日）や児童を対象に以下の「おはなしかい」を開催した。

- ・「夏の図書館ミステリーツアー」（7 月 22 日、8 月 5 日・19 日）
小学校の夏休みに合わせて、図書館の書庫探検を行い、併せて、図書館をテーマとしたおはなしかいを実施した。
- ・アートなおはなしかい（12 月 9 日）

県立美術館と連携し、「冬」をテーマとしたおはなしかいを実施した。おはなしかいの後、美術館で斎藤清の版画を鑑賞し、クリスマスカードを作成した。

- ・クリスマス ミステリーツアー（12 月 23 日）

クリスマスについて調べる本を紹介しながら、図書館の見学を行い、おはなしかいを行った。

ウ 図書館見学の受け入れ

学校等の要望に応え、施設見学や利用案内、読み聞かせ等を行い、図書館や本に親しむ機会の提供に努めた。

エ 情報誌の発行

思春期の子どものための読書案内誌『LITTLE BIG』や児童サービス関連情報誌『児童図書研究ニュース』を発行し読書普及のための情報提供に努めた。

オ 「子育て支援コーナー」の運営

子育てに役立つ図書や雑誌の展示や関係各課からのパンフレット配布等、情報提供に努めた。また、親子で楽しむ「わらべうた・手遊びの本」「健康・病気」「昔の遊びあやとり・お手玉」などのテーマ展示を行った。

カ 子ども読書と科学のコラボ事業

ふくしまサイエンスぷらっとフォーム spff と連携して、あきのおはなしかい「たねのふしぎにせまる！かがくのおはなしかい」を実施した。また、科学のテーマ展示「人の体に関する本」「おいしい科学」「見えない力」などのテーマ展示を行った。

(9) 東日本大震災福島県復興ライブラリー

平成 24 年度より「東日本大震災福島県復興ライブラリー」を開設。常設コーナーとして、東日本大震災及び東京電力福島第一原子力発電所事故の関連資料を中心に、地震、津波、体験記、放射線、除染、復興、防災、エネルギー問題等の資料を配架し、利用に供している。所蔵数は、平成 30 年 3 月 11 日現在で 11,464 タイトルとなっており、平成 29 年度増加資料一覧を作成し HP で公開した。また、資料紹介として「ブックガイド」を刊行し利用促進を図った。

また福島民報と福島民友に掲載された震災・原発・復興関連の記事の見出しを地区ごとにまとめ一覧にした『地元新聞にみる原発関連見出し一覧』を平成 30 年 1 月 31 日現在までに更新し、HP に掲載した。

さらに、「巡回する福島県復興ライブラリー」として、資料やパネル等を出張展示用セットとして編成し活用を図っている。今年度は、放送ライブラリー（平成 30 年 2 月 6 日～3 月 18 日）、環境創造センター（平成 30 年 2 月 14 日～3 月 11 日）の 2 箇所出張展示が開催された。

(10) 特殊文庫・貴重資料紹介コーナー

公開図書室内にて各特殊文庫概要紹介パネルの掲示をはじめ、資料の一部配架や展示ケースにて貴重資料の展示などを行い、当館所蔵の特殊文庫や貴重資料の紹介に努めた。今年度は、平成 29 年 2 月に開設した「長田弘文庫」の一部を展示し紹介した。11 月からは展示ケース内で「蔵書印やサインなど長田氏の所蔵の痕跡がみられる資料」の公開展示を実施した。併せて「長田弘文庫見学会」を 2 回（5 月 3 日と 11 月 11 日）実施した（参加者 のべ 12 人）。

(11) 複写サービス

コイン式コピー機は 1 台、レーザープリンター 1 台、カラープリンター 1 台、マイクロプリンター 2 台での対応となっている。保存のために資料の媒体を変えていることから、形態にあわせてそれぞれのプリンターで対応している。

複写利用状況

区 分	件数 (件)	枚数 (枚)
自・他館処理	4,229	49,297
複写利用状況・推移		(単位：枚)
平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度
51,994	51,548	49,297

(12) 来館者用インターネットコーナー

来館者が利用できるインターネット端末を一般用に6台、こどものへやに1台設置し、情報提供の便宜を図っている。また、当館職員による「はじめてのインターネット使い方講座」を2回（11月9日と12月14日）実施し、インターネット利用の啓発を図った。

インターネット利用状況（単位：人）

区 分	人 数
一 般	6,023
児 童	44
合 計	6,067

インターネット利用状況・推移（単位：人）

平成27年度	平成28年度	平成29年度
6,710	6,603	6,067

(13) 展示

ア 展示コーナー企画展示

当館入り口の展示コーナーにおいて、テーマに沿った資料の展示を行った。

(ア) 「城郭絵図展～福島の城を中心に～」

（4月7日～4月30日）

棚倉城を築き、小峰城の大修築をおこなった白河藩主・丹羽長重の没後380年にちなんで当館の所蔵する城絵図を展示。前期・後期で展示資料を入替え、多くの貴重な城絵図を見る機会とした。

前期：「陸奥国白川城之図」「白河旧城内図面井上申書」「棚倉城郭絵図」「棚倉城外地割絵図」

後期：「二本松旧城内之全図」「福島旧城郭之図」「福島旧城郭絵図」「平城郭之図」

(イ) 「日本赤十字社福島県支部企画展」

（5月3日～5月31日）

赤十字社のおいたちから現在の活動を紹介する展示を行った。※(14)普及事業に再掲あり。

(ウ) まほろん移動展示「縄文土器の年代Ⅱー縄文中期世界に迫るー」（6月2日～7月5日）

公益財団法人福島県文化振興財団との共催事業として、福島県文化財センター白河館で開催した同テーマによる収蔵資料展の移動展を行った。

縄文時代中期の土器や石材、またはその測定値などから読み取ることのできる当時の地域間交流や、縄文人の暮らしについて展示解説した。

併せて、福島県文化財センター白河館の専門学芸員・三浦武司氏による関連講座「縄文土器から探る地域間交流」（第1回ふくしまを知る連続講座）を実施した。

(エ) 「絵本はともだち かがくやちしきの絵本展」

（7月7日～9月6日）

子どもたちの夏休み期間に合わせて、幼児から楽しめる科学や知識の本を紹介したブックリスト「絵本はともだち かがくやちしきの絵本」を配布し、掲載資料50冊と関連資料を展示した。

(オ) 「宇宙への誘い」（9月8日～11月1日）

9月12日の「宇宙の日」、10月4日から10日までの「世界宇宙週間」にちなみ、宇宙開発を中心に宇宙の魅力を伝える資料を展示した。有人宇宙飛行、人工衛星、惑星探査機などをキーワードに、宇宙開発の歴史的な出来事や最近話題になった事柄について紹介しながら、関連する資料25点を展示。

併せて、関連資料のパスファインダーを作成配布した。

(カ) 「懐かしの雑誌たち」（11月3日～12月27日）

昭和から平成にかけて一世を風靡した、たくさんの雑誌たち。そのなかでも、『改造』や『朝日ソノラマ』『毎日グラフ』など、現在は休刊になってしまった雑誌に光をあて、その時代を彩った懐かしい雑誌を展示した。

(キ) 福島県歴史資料館移動展「檜枝岐村文書の世界」

（平成30年1月5日～2月12日）

公益財団法人福島県文化振興財団との共催事業として、福島県歴史資料館で開催した同テーマによる展示の移動展を行った。

会津郡古町組檜枝岐村名主で沼田街道檜枝岐口留番所役であった星縫殿之助家の伝来文書から、檜枝岐村の概要をはじめ、特産の小羽板の生産と流通、白峯銀山をめぐる領有権の争い、檜枝岐口留番所の役割、檜枝岐川や沼田街道の景観などについて展示解説した。

併せて、福島県歴史資料館の副主幹兼専門学芸員渡邊智裕氏による講座「檜枝岐村文書の魅力 ～近世山村の景観と生業～」（第4回ふくしまを知る連続講座）を実施した。

(ク) 「装幀の魅力 ～美しいデザインの本」

（平成30年2月24日～4月4日）

明治期から現代まで活躍した橋口五葉、武井武雄、芹沢銈介、花森安治などの装幀家や、次々とベストセラーを生み出し注目されている現代のブックデザイナーたちを紹介した。また、彼らが手がけた美しくそして心惹かれる本の数々を展示した。

イ ロビー展示

情報発信の一環としてロビー通路壁面を利用し、県民に作品発表の場を提供した。

(ア) 「中村勢津夫 色鉛筆の世界展」（4月7日～4月30日）

(イ) 「イタリア風景スケッチ展」（5月3日～5月31日）

(ウ) 「ナチュラル・ハイ」（6月2日～7月5日）

(エ) 「谷津健司写真展 「道」—いま、そこにある危機(クライシス)の四季(とき)を超えて— ～ふくしまの風に抱かれて～自分を信じて」（7月7日～8月2日）

(オ) 「わたしの心象風景 絵画作品展」

（8月4日～9月6日）

(カ) 「トールペイントの中の鳥たち～復興に願いを乗せてはばたけ～」（9月8日～10月4日）

- (キ) 「第9回網代澄亭と一門による刻字展」
(10月6日～11月1日)
 - (ク) 「10年後の飯館村一願い・目標一」
(11月3日～12月6日)
 - (ケ) 「クリスマスの贈りもの」(12月8日～12月27日)
 - (コ) 「裏側から描いたガラス絵の魅力 紹介 二人展」
(平成30年1月5日～2月12日)
 - (カ) 「福島県の新イメージポスター展」
(平成30年2月24日～4月4日)
- ウ エントランスホール
- (ア) 「梶井宮流福島支部 華道展」(9月8日～10日)
 - (イ) 「私のおすすめ本 メッセージカードコンテスト」展
(平成30年1月5日～2月12日)
 - (ウ) 「君たちの哲学」(平成30年2月24日～4月20日)

(14) 普及事業

県内公共図書館及び公民館図書室等、図書館関係施設職員の資質の向上を図るため、講演会や講座を実施することで、幅広い知識の習得を目指し、また、一般県民に対しても開放し、図書館としての情報発信を行い、地域文化の進展に寄与した。

ア 鼎談

- (ア) 期 日 8月11日
 - (イ) 会 場 福島県立図書館
 - (ウ) 参加者 一般県民等 170名
 - (エ) テーマ 「ベルリン、福島
～あの日から言葉の灯りをさがして～」
 - (オ) 出演者 作家 多和田葉子 詩人 和合亮一
社会学者 開沼 博
- *ignition gallery主催事業

イ ふくしまを知る連続講座

- 第1回「縄文土器から探る地域間交流」6月18日
講師 福島県文化財センター白河館 三浦武司
参加者 55名
 - 第2回「現存数日本一! ふくしまの算学の魅力」
7月30日
講師 福島県和算研究保存会 白岩 信博
福島県和算研究保存会 五輪 教一
参加者 44名
 - 第3回「医学者・野口英世を支えた人々」11月19日
講師 野口英世記念会 森田 鉄平
参加者 20名
 - 第4回「檜枝岐村文書の魅力～近世山村の景観と生業～」
平成30年1月28日
講師 福島県歴史資料館 渡邊 智裕
参加者 40名
- ウ 衛生学予防医学講演会
福島県立医科大学の衛生学・予防医学講座との連携による講演会を、平成20年度より開催している。
開催日 9月2日
場所 福島県立図書館 第一研修室

- 内容
- (講演1)
・テーマ「医療における安全を考える ～なぜ病院で患者が名前をなのることになったのか?～」
・講師 木下 美佐子
(福島県立医科大学基礎看護部門准教授)
 - (講演2)
・テーマ「最近のバイオトピックスとタンパク ～実験室にはノーベル賞の技術がいっぱい～」
・講師 増石 有佑
(福島県立医科大学衛生学・予防医学講座助教)
- 参加者 47名

エ ふれて まなんで 赤十字パーク 2017in県立図書館
平成27年3月17日に締結した、「福島県と日本赤十字社との復興、防災対策等に関する共同宣言」の趣旨を踏まえ、『復興』、『防災』及び『健康づくり』をテーマに、日本赤十字社福島県支部との共催により、次の事業を実施した。

- (ア) オープニングセレモニー
期 日 : 5月3日
場 所 : 県立図書館エントランスホール
- (イ) 資料展示
内 容 : 赤十字の歴史と活動に関する資料を展示
期 間 : 5月3日～5月31日
場 所 : 展示コーナー
閲覧者 : 961名
- (ウ) パネル展示
内 容 : 赤十字の活動をパネルで紹介
期 間 : 5月3日～5月31日
場 所 : 第一研修室
- (エ) フラワーアート展示
内 容 : 赤十字のマークと福島県章を植栽で表現
期 間 : 5月3日～5月31日
場 所 : 図書館正面玄関前ロータリー
- (オ) 健康講演会
テーマ : 「心臓病について」
講 師 : 福島赤十字病院 大和田尊之
期 日 : 5月13日
場 所 : 第一研修室
参加者 : 30名
- (カ) 映画上映会
作 品 : 「チェブラーシカ動物園へ行く」
「ちえりとチェリー」
期 日 : 5月14日
場 所 : 講堂
参加者 : 100名
- (キ) 救急法講習会
期 日 : 5月20日
場 所 : 第一研修室
参加者 : 10名

- (ク) 幼児安全法講習会
期 日：5月27日
場 所：第二研修室
参加者：8名

4 館外奉仕

(1) 移動図書館「あづま号」

以下の目的により巡回事業を実施し、連携協力を図るとともに、合計23,506冊の資料を貸出した。

ア 図書館未設置町村支援

図書館未設置町村における図書館活動の促進を図ることを目的に、資料の貸出しと公民館図書室等の運営相談を行った。17自治体に巡回し、延べ20,119冊の資料を貸出した。

イ 避難自治体支援事業

東日本大震災等の影響により避難を余儀なくされ、図書館等の運営が困難な6自治体に対し、読書環境を改善することを目的に巡回し資料の貸出しを行った。

該当自治体の設置する仮設校と、地元で活動を再開した公民館及び学校等を巡回対象とし、学校に対しては、大熊町・葛尾村・飯館村・檜葉町の4自治体の幼稚園、小・中学校を延べ10回巡回し、1,176冊の貸出しを行った。その他、葛尾村及び川内村の公民館、浪江町の仮設図書館に対し、1,384冊を貸出した。

ウ 特別支援学校読書活動支援事業

日常的に図書館や読書施設、書店等の利用が困難な子どもたちの読書環境の向上を目的に、西郷養護学校と富岡養護学校の2校を巡回し、延べ827冊の資料を貸出した。

エ 文化施設連携事業

県内文化施設間の連携を図ることを目的に、福島県文化財センター白河館の事業（まほろん冬まつり）に参加したが、当該年度は事業参加（移動展示「なつかしの教科書たち」）のみとし、移動図書館は稼動しなかった。

移動図書館「あづま号」貸出状況・推移（単位：冊数）

平成27年度	平成28年度	平成29年度
26,330	23,026	23,506

(2) 市町村援助のための支援貸出

大規模な図書館事業を行う市町村に対して、長期にわたり一括大量に資料の貸出しを行い、図書館・公民館図書室の読書・学習環境を支援した。

平成29年度の利用状況は次のとおりである。

本宮市教育委員会	2,171冊
川俣町教育委員会	483冊
浅川町教育委員会	4,864冊
平田村教育委員会	356冊
西郷村教育委員会	322冊
西会津町教育委員会	350冊
合 計	8,546冊

(3) 福島県立図書館資料の譲与

再活用が十分見込まれる資料を、県内市町村教育委員会及び高等学校等に対し譲与し、図書館施設の蔵書の充実を支援した。平成29年度の利用状況は次のとおりである。

会津坂下町教育委員会	70冊
合 計	70冊

(4) 学校図書館活動支援貸出

県内高等学校及び県立特別支援学校の図書館活動の充実を図るために、長期にわたり一括大量に図書の出しを行い、学校図書館読書・学習環境を支援した。平成29年度は、県立湖南高等学校に対し、627冊の資料を貸出した。

(5) 学校図書館活動支援セット貸出

県内の児童・生徒の学びの環境づくりを支援するため、県内の高等学校および特別支援学校、小・中学校等に対して、その図書館活動の充実を図ることを目的に、118テーマ（延べ277セット）を編成し貸出を行った。

29年度の利用状況は、15団体に対し43セット（1,867冊）を貸出した。

(6) 広報資料の発行

ア 館報「あづま」

第67巻（通巻271号）を11月14日に発行した。主たる掲載事項としては、「避難指示区域の現状と福島県立図書館の活動」「他機関との連携による文化発信事業」「福島県立図書館のサービスの今」等

イ 平成29年版福島県公共図書館・公民館図書室実態調査報告書（データ版）

図書館活動の振興に資するため、昭和54年度から県内公共図書館等の実態調査を実施し、報告書としてまとめ、県立図書館ホームページに掲載している。

主な調査結果であるが、4月1日現在、県内図書館の合計蔵書冊数は5,921,890冊で、当該人口1人当たり3.48冊（前年度3.44冊）、年間増加冊数は213,889冊である。また、平成28年度中の貸出図書冊数は、6,485,331冊（当該人口1人当たり3.81冊）であり、前年度と比べると総冊数では、224,794冊の減である。状況としては、各館の数値が微減しているものであり、大きな要因は認められない。

ウ 福島県郷土資料情報

第58号を発行。特集「郷土福島の人物調べ・虎の巻」と「朝河貫一コレクション～没後70年に寄せて～」を掲載した。また、年度内に3回実施した「ふくしまを知る連続講座」の報告や、連載記事として「福島の児童文学者」「福島県関係書誌」をまとめた。100部発行し、当館HPへも掲載する等、郷土の情報発信を発信した。

5 図書館協力

(1) 相互協力と遠隔地返却

協力貸出（他館との資料の貸借）サービス、遠隔地返却（当館資料を他館に返却する）サービスを行っている。協力貸出は前年と比べて利用は減少したが、遠隔地返却の冊数は増加した。

相互貸借状況 (単位：件/冊)

区分	県内		県外		合計	
	件数	冊数	件数	冊数	件数	冊数
貸出	1,041	4,538	493	791	1,534	5,329
借用	116	138	69	88	185	226
小計	1,157	4,676	562	879	1,719	5,555

相互貸借状況・推移 (単位：冊)

平成27年度	平成28年度	平成29年度
5,839	5,819	5,555

隔地返却冊数・推移 (利用者が来館し、直接貸出しを受けた資料を県内公立図書館に返却した冊数) (単位：冊)

平成27年度	平成28年度	平成29年度
5,924	6,551	6,865

(2) 図書館協力事業

県内市町村図書館などの運営を支援するため、各館を定期的に巡回し、情報の収集と提供、運営に関する相談を行った。

また、協力貸出(資料の賃借)などの資料の搬送支援を行った。平成29年度は、16コースを編成し、26自治体と2高等教育機関に対し巡回した。

(3) 県内図書館職員研修会

県内図書館職員の資質向上と専門的知識の涵養を図るため、毎年行っている。

ア 福島県図書館・公民館図書室職員等初任者研修会

(ア) テーマ 「図書館の意義と基本について」

(イ) 期 日 5月26日

(ウ) 会 場 福島県立図書館

(エ) 参加者 県内図書館・学校図書館・公民館図書室職員等
83名

(オ) 講 師 県立図書館職員

イ 福島県図書館・公民館図書室職員等専門研修会

(ア) テーマ 「図書館サービスと著作権

ケーススタディから考える」

(イ) 期 日 10月20日

(ウ) 会 場 県立図書館

(エ) 参加者 県内図書館・学校図書館・公民館図書室職員等
60名

(オ) 講 師 元日本図書館協会著作権委員会委員

南 亮一

ウ 福島県内図書館初任者職員実務研修

(ア) 期 日 6月21日～23日

(イ) 会 場 県立図書館

(ウ) 参加者 6名

(エ) 講 師 県立図書館職員

(4) 第15回福島県図書館研究集会

図書館業務及び読書活動推進に関わる実務的な業研究会を行うとともに、情報交換や協議を行い図書館活動の振興を図ることを目的に、福島県公共図書館協会事務局として実施・運営している。

ア テーマ 「つなげよう! 広げよう! ～事例に学ぶ、地域を生かすネットワーク～」

イ 期 日 11月17日

ウ 会 場 福島県立図書館

エ 参加者 県内図書館・学校図書館・公民館図書室職員等 51名

オ 内 容

講 話

・演 題 「図書館が生み出す地域のネットワーク
～「図書・新聞に親しむ条例」を起点に～」

・講 師 小野町ふるさと文化の館

副主幹兼司書兼学芸員 籠田まき子

事例報告①

・テーマ 「館種をこえたネットワーク

～I-TOSSの現状と課題～」

・報告者 いわき市立いわき総合図書館

副館長 大平久美子

事例報告②

・テーマ 「住民が生み出すネットワーク

～ボランティアとともに歩む～」

・報告者 新地町図書館

主任主査兼図書館管理係長兼司書

目黒美千代

事例報告③

・テーマ 「物流が支える域内ネットワーク

～サービス拠点としての学習センター～」

・報告者 福島市立図書館 主任司書 本多恵子

講評及び情勢報告

・助言者 元江東区立深川図書館 次長 西村彩枝子

・司 会 福島県立図書館資料情報サービス部長

大崎眞希子

(5) 子どもの本が つなぐスマイルプロジェクト

東日本大震災で被災した子どもたちや親たちが、本とのふれあいを通して心を癒やすことを目的に、読み聞かせなどを行うフェスティバルを、平成26年度より開催している。

プロジェクト実施に併せ、子どもたちに出会って欲しい絵本を紹介したブックリスト「本はともだち～子どもと楽しむせかいのむかしばなし～」 「絵本はともだち～かがくやちしきの絵本～」を作成し配布した。

ア 「絵本はともだち」

(ア) 期 日 7月2日

(イ) 会 場 喜多方市松山公民館

(ウ) 参加者 子どもと保護者・保育従事者・読書ボランティア・その他関係者等 60名

(エ) 内 容

講演・実演（おはなしかい等）

- ・テーマ 「おはなしかい いっしょにね」
- ・講 師 幼児教育専門家 藤田 浩子

イ 「本はともだち」

(ア) 期 日 10月29日

(イ) 会 場 福島県男女共生センター

(ウ) 参加者 子どもと保護者・学校・保育関係者・読書ボランティア・その他 31名

(エ) 内 容

講演・実演（おはなしかい等）

- ・テーマ 「おはなしや本の世界を楽しもう」
- ・講 師 浦安市企画部主査 伊藤 明美

(6) 県内大学図書館間との連携

県内の大学図書館及び公共図書館間における、「図書館資料の相互貸借」「複写」「参考業務」及び「一般社会人への共通利用証発行」等の協力体制を推進するため、“福島県内大学図書館連絡協議会”の公共図書館唯一の加盟館として、「福島県内大学図書館間相互利用制度」の維持に努めた。

同協議会には、県立図書館の他、県内 20 の市町村立図書館が参加館として参加している。参加している図書館は、福島市立図書館、二本松市立二本松図書館、郡山市中央図書館、須賀川市図書館、白河市立図書館、会津若松市立会津図書館、喜多方市立図書館、相馬市図書館、南相馬市立中央図書館、いわき市立いわき総合図書館、田村市図書館、小野町ふるさと文化の館、三春町民図書館、鏡石町図書館、矢吹町図書館、双葉町図書館、大熊町図書館、新地町図書館、浪江町図書館、本宮市立しらさわ夢図書館である。

さらに、福島大学附属図書館、及び、福島県立医科大学附属学術情報センター図書館とは、相互協力のための「ふくふくネット」を締結しており、それに基づき活動を行った。

第13節 福島県立美術館

1 概要

1984年に開館した福島県立美術館は、さまざまなテーマに基づく展覧会、創作や芸術鑑賞のための各種講座等の事業を実施している。また、文化財としての美術作品の収集保存、美術や地域の芸術運動に関する調査研究を継続的に実施している。これらの活動を基盤に、美術の情報センターとしての機能を担っている。

当年度の美術館活動の概要は以下のとおりである。

(1) 美術館運営協議会

ア 委員

山口 功	福島県中学校教育研究会美術専門部所属 (平成 25. 1. 1～)
番匠あつみ	福島県高等学校教育研究会美術工芸部会所属 (平成 27. 1. 1～)
杉 昭重	公益財団法人福島県文化振興財団理事長兼 福島県文化センター館長 (平成 29. 1. 1～)
坂本節子	福島県家庭教育インストラクターいわきの会事務局長 (平成 25. 1. 1～)
齋藤勝正	福島県美術家連盟会長 (平成 29. 1. 1～)
鈴木 仁	日本放送協会福島放送局長 (平成 29. 8. 19～)
星眞智子	西会津国際芸術村事務局長 (平成 27. 1. 1～)
清水眞砂	世田谷美術館分館長 (平成 27. 1. 1～)
齋藤美保子	郡山女子大学短期大学部教授 (平成 27. 1. 1～)
舟木藤弘	福島県立美術館友の会理事 (平成 29. 1. 1～)

イ 協議会の開催

(ア) 期日 平成 30 年 3 月 6 日(火)

(イ) 内容 ・平成 29 年度事業実施の概要
・平成 30 年度事業計画案の概要
・県立美術館の運営等

(2) 他館等との連携

県内外の博物館施設および全国組織等との連携を図り運営・事業等に関する情報交換や研修等を実施した。

加盟団体	・全国美術館会議 (理事)
	・日本博物館協会 (会員)
	・日本博物館協会東北支部 (監事)
	・東北地区博物館協会 (監事)
	・福島県博物館連絡協議会 (理事)

2 美術品の収集・保存

優れた美術作品鑑賞の機会を提供し、文化財を保存継承するために、コレクション(収集作品)の収集活動を継続的にを行っている(ただし平成 22 年度以降、作品購入実績はない)。

今年度は作品 28 点および美術資料 1 件を寄贈により収集した。

(1) 収集作品点数(平成 30 年 3 月 31 日現在)

海外作品	450 点
日本画	353 点
洋画	907 点
版画	1,148 点
立体	139 点
工芸	155 点
書	39 点
素描・下絵	215 点
写真	410 点
計	3,816 点 美術資料 63 件

(2) 収集評価委員会

ア 委員

原田 光	元岩手県立美術館長 (平成 23. 12. 1～)
村田眞宏	豊田市美術館長 (平成 23. 12. 1～)
荒屋鋪透	中部大学民族資料博物館長 (平成 23. 12. 1～)
三上満良	宮城県美術館副館長 (平成 23. 12. 1～)
佐々木吉晴	いわき市立美術館長、宇都宮美術館長 (平成 23. 12. 1～)

イ 委員会の開催

(ア) 期日 平成 30 年 2 月 22 日(木)

(イ) 内容 ・平成 28 年度収集作品の報告
・平成 29 年度収集候補作品について

(3) 平成 29 年度収集作品

ア 美術作品及び美術資料の収集

国内：日本画	小川千甕	2 点
	荻生天泉	4 点
	勝田蕉琴	1 点
	室井東志生	3 点
国内：洋画	大岩オスカル	2 点
	佐藤二郎	1 点
	寺田政明	1 点
	秀島由己男	1 点
国内：素描・下絵	朝倉 撰	7 点
	横山 操	4 点
国内：立体	入江比呂	1 点
国内：工芸	森田恒友	1 点
国内：資料	荻生天泉資料	1 件
	計 28 点 美術資料 1 件	

イ 図書資料の収集(平成 30 年 2 月 28 日現在)

収集図書数 58,687 冊

(4) 保存管理

美術品の状態を維持回復し、美術品の保管・展示の環境を良好に保つために、計画的に美術品の修復や館内の保存環境調査を実施している。

ア 保存環境調査の実施

- (ア) 時期 平成29年6月5日～19日、8月11日～26日
- (イ) 内容 展示室、収蔵庫、搬入口およびその他の館内外の虫菌害調査、酸アルカリ濃度測定等

イ 美術作品の修復

今年度は酒井三良《冬暖》、朝倉撰《寮》ほか6点、田口安男《回転と移行》ほか2点、青木繁《催合傘》ほか1点、ジョルジュ・ルオー《ミセレーレ》(58点組)の修復を実施した。

ウ 敷地内の放射線測定

- (ア) 時期 毎月1回、計12回測定
- (イ) 場所 美術館内および敷地内 計45か所

3 展示事業

(1) 常設展

収蔵および寄託の美術作品を展示している。美術の多様な領域や数多くの作家を紹介するとともに、作品の状態の保全に配慮して、年4回(版画は年8回)展示替えを行っている。

ア 常設展示

(ア) 第Ⅰ期常設展

会期 平成29年4月8日(土)～7月9日(日)
主な内容

- ・福島の工芸：宗像豊意《飴釉白流壺》など
- ・日本画の女性像：速水御舟《女二題》など
- ・ヨーロッパの美術：モネ《ジヴェルニーの草原》など
- ・斎藤清の版画：《海の幻想》《ヌード(A)》など

(イ) 第Ⅱ期常設展

会期 平成29年7月15日(土)～9月24日(日)
主な内容

- ・佐藤玄々(朝山)の彫刻：《春》《冬眠》など
- ・夏の日本画：山口華揚《畑》、池田遙邨《大漁》など
- ・抽象絵画／彫刻：田中敦子《WORK1968》など
- ・小関庄太郎の芸術写真：《田舎の風景》《夕照》など

(ウ) 第Ⅲ期常設展

会期 平成29年9月30日(土)～12月24日(日)
主な内容

- ・現代の日本画：齋藤隆《ドラマ》など
- ・関根正二と大正期の洋画：《一本杉の風景》など
- ・河野保雄コレクション：清宮質文《夜明け》など
- ・『月映』と恩地孝四郎

(エ) 第Ⅳ期常設展

会期 平成30年1月6日(土)～3月11日(日)
主な内容

- ・酒井三良と日本画の名品：下村観山《寒空》など
- ・朝倉撰の日本画：《おんな》《ズリ山》など

- ・いわきの絵画：田口安男《波から焔へ》など
- ・それぞれの黒あるいは闇：鏑木昌弥、秀島由己男

イ 移動美術館

当館所蔵作品の一部を、県内の文化施設で公開展示する事業で、開催館との協働でテーマ、作品選定から実務までを行う。今年度は富岡町で開催した。

(ア) 「世界／日本／福島の名作」

- a 会期 平成29年11月8日(水)～22日(水)
- b 会場 富岡町文化交流センター学びの森 小ホール(双葉郡富岡町大字本岡字王塚622-1)
- c 展示数 40点
- d 主催 富岡町、富岡町教育委員会、福島県立美術館
- e 観覧料 無料
- f 観覧者数 346名
- g 概要

東日本大震災発生から6年後の2017年4月、富岡町は帰町宣言した(帰還困難区域を除く)。当館では被災地域復興支援として「移動美術館」を提案し、同町でも地域活性化事業の一つとしてこれを受け入れた。会場となった文化交流センターは、震災で大きな被害を受けたが、その後の改修工事で使用可能な状態まで復旧していた。

展示内容は同町の希望をもとに展示構成を図り、ロダン、ルノワール、シャガール、ルオーら世界の名作、佐藤忠良や舟越保武ら日本を代表する彫刻家、福島県にゆかりのある斎藤清や富岡高校の校長を勤めたことがある渡辺良雄の作品など40点を展示した。

移動展開催当時の同町の帰町人口は304人だが、展覧会はこれを上回る346人の観覧者があった。

h 関連事業

ギャラリートーク

期日 11月12日(日)

解説 伊藤匡(当館専門員) 参加者10名

(2) 企画展

今年度は6回の企画展示を開催し、国内外の様々な文化を紹介した。

ア 国立西洋美術館所蔵

ミューズ：まなざしの先の女性たち

(ア) 会期 平成29年4月22日(土)～7月2日(日)

(イ) 分野 絵画、彫刻、版画、工芸

(ウ) 展示数 103点

(エ) 主催 国立西洋美術館、福島県立美術館、福島県教育委員会

後援 福島民報社、福島民友新聞社、朝日新聞福島総局、毎日新聞福島支局、読売新聞東京本社福島支局、産経新聞福島支局、河北新報社、時事通信社福島支局、共同通信社福島支局、NHK福島放送局、ラジオ福島、福島テレビ、福島中央テレビ、福島放送、テレビユー福島、ふくしまFM

(オ) 観覧料 一般・大学生 1,000 円、高校生 600 円、
小・中学生 400 円

(カ) 観覧者数 10,571 名

(キ) 概要

本展では、東京・上野の国立西洋美術館のコレクションから、女性にまつわる西洋美術の名品を 8 つのテーマに沿って展示した。ルネサンスから印象派を経て 20 世紀に至るまで約 500 年の西洋絵画 (40 点)、彫刻 (6 点)、版画 (47 点) に加え、貴重な指輪作品 (10 点) も出品された。

福島県ではあまり見る機会の少ない西洋美術 (特に印象派以前) に焦点を当てた展覧会として、有意義な機会となった。なお、本展は平成 29 年度国立美術館巡回展として、その後秋田県立近代美術館に巡回した。

(ク) 関連事業

a 講演会①「国立西洋美術館と松方コレクション」

期日 5 月 20 日 (土)

講師 村上博哉 (国立西洋美術館副館長兼学芸課長)

会場 当館講堂 参加者 60 名

b 講演会②「アルカディアの女性たち」

期日 6 月 3 日 (土)

講師 高橋健一 (和歌山大学准教授)

会場 当館講堂 参加者 65 名

c スライドトーク

期日 6 月 24 日 (土)

講師 川瀬佑介 (国立西洋美術館主任研究員)

会場 当館講堂 参加者 50 名

d ギャラリートーク

①5 月 13 日 (土) 解説 坂本篤史 (当館副主任学芸員)

②6 月 10 日 (土) 解説 坂本篤史 (当館副主任学芸員)

イ ジャック=アンリ・ラルティエグ

幸せの瞬間をつかまえて

(ア) 会期 平成 29 年 7 月 22 日 (土)～9 月 10 日 (日)

(イ) 分野 写真

(ウ) 展示数 205 点

(エ) 主催 福島県立美術館

後援 在日フランス大使館、アンスティチュ・フランス日本

協力 富士フィルムイメージングシステムズ株式会社

企画協力 (株) コンタクト

(オ) 観覧料 一般・大学生 1,000 円、高校生 600 円、
小・中学生 400 円

(カ) 観覧者数 4,142 名

(キ) 概要

ジャック=アンリ・ラルティエグは、1894 年生まれのフランスの写真家。8 歳で写真と出会い、アマチュア写真家として幸せな時間を記録し続けた。裕福な家庭に育ち、20 世紀初頭のベル・エポックとよばれた時代の最先端の風俗、自動車レース、飛行機、テニス、海辺のヴァカンス、最新モード女性などが生き生きと捉えられた作品か

らは、郷愁と臨場感が伝わってくる。

本展ではフランス、ラルティエグ財団所蔵の幼少期から晩年までの代表作品に加え、日本初公開を含むカラー写真作品など、写真約 160 点、資料 45 点を展示し、ラルティエグが終生追い求めた幸福の姿を紹介した。

また、関連展示として、同時代の福島を中心とした芸術写真家たちの当館コレクション作品も展示し、写真愛好の広がりを見せた。

(ク) 関連事業

a ゲストトーク

「ラルティエグ ; アマチュアから写真史の巨匠へ」

期日 8 月 6 日 (日)

講師 金子隆一 (写真史家)

会場 当館企画展示室 参加者 : 60 名

b スペシャルトーク

「ラルティエグと堀内誠一のはなし」

期日 8 月 27 日 (日)

講師 堀内花子 (堀内誠一長女)

会場 当館講堂 参加者 60 名

c ギャラリートーク

①7 月 29 日 (土) 解説 堀 宜雄 (当館専門学芸員)
参加者 45 名

②8 月 19 日 (土) 解説 白木ゆう美 (当館学芸員)
参加者 52 名

③9 月 8 日 (金) 解説 橋本恵里 (当館学芸員)
参加者 60 名

ウ 生誕 110 年・没後 20 年記念 斎藤清からのメッセージ

(ア) 会期 平成 29 年 10 月 7 日 (土)～12 月 10 日 (日)

(イ) 分野 版画

(ウ) 展示数 231 点

(エ) 主催 福島県立美術館

共催 斎藤清画伯顕彰協議会

特別協力 福島民報社、福島民友新聞社、福島テレビ

後援 福島市、朝日新聞福島総局、毎日新聞福島支局、読売新聞東京本社福島支局、産経新聞福島支局、河北新報社、時事通信社福島支局、共同通信社福島支局、NHK 福島放送局、ラジオ福島、福島中央テレビ、福島放送、テレビユー福島、ふくしま FM

協力 やないづ町立斎藤清美術館

助成 公益財団法人花王芸術・科学財団

(オ) 観覧料 一般・大学生 1,000 円、高校生 600 円、
小・中学生 400 円

(カ) 観覧者数 9,534 名

(キ) 概要

福島県会津坂下町出身の版画家・斎藤清の生誕 110 年、没後 20 年を記念して、10 年ぶりの展覧会を開催した。展覧会は 2 部構成とし、第 1 部では「斎藤清の造形」として代表作を年代ごとにその表現に着目、第 2 部では「斎藤清と会津」として、会津を主題とした

作品、特に1970年からの《会津の冬》シリーズ全115点を展示した。木版画、コラグラフ、ドライポイント、墨画、スケッチなど作品231点のほか、版木などの資料も展示し、斎藤の生涯にわたる造形表現の変化を追った。初期の装幀や挿絵の仕事や、斎藤の作品が県内で親しまれるようになった背景について、県内における支援の有り様などを紹介した。

展覧会はやないづ町立斎藤清美術館と同時期に開催し、斎藤清画伯顕彰協議会の協力も得て、多くの人に斎藤清の芸術について改めて知ってもらう機会となった。

(ク) 関連事業

a 講演会「斎藤清の芸術—その国際的評価をめぐって」

期日 10月29日(日)

講師 桑原規子(聖徳大学教授)

会場 当館講堂 参加者 50名

b 講演会「斎藤清の創造力と美」

期日 11月23日(木・祝)

講師 早川博明(当館館長)

会場 当館講堂 参加者 60名

c ギャラリートーク

①11月4日(火) 参加者 40名

②11月16日(木) 参加者 5名

③11月30日(木) 参加者 10名

④12月2日(土) 参加者 40名

解説 紺野朋子(当館副主任学芸員)

エ Gallery F 2018 コレクション再発見

(ア) 会期 平成30年2月3日(土)～3月4日(日)

(イ) 分野 絵画、版画、立体、工芸、資料

(ウ) 展示数 164点

(エ) 主催 被災地からの発信・心の復興支援事業実行委員会

(構成員: 福島県立美術館、あだたら高原美術館-ao-, 美術館とまちづくり研究会、福島造形サークル、福島大学H29芸術文化クラス)

*平成29年度文化庁地域の核となる美術館・歴史博物館支援事業

(オ) 観覧料 無料

(カ) 観覧者数 1,528名

(キ) 概要

「Gallery F」とは、当館のコレクションの中から、今まで紹介できなかった作品や新収蔵・寄託作品を取り上げ、あるいはテーマを絞って掘り下げる小さな展覧会である。今年度は3つのGallery Fを開催した。

「生誕110年渡部菊二展」は会津若松出身の水彩画家・渡部菊二生誕110年を記念した展覧会。戦前、菊二と共に若松で切磋琢磨した若き水彩画家たちの活動も含めて紹介した。

「小川千甕と門間春雄」では、大正期に福島を訪れた京都の画家・小川千甕と千甕を招いた福島の歌人・門間春雄の作品や資料を紹介し、福島の文芸と美術の交流を振り返った。

「実践福島県立美術館アートカード」は、今年度から活用が開始された鑑賞用補助教材「福島県立美術館アートカード」を使って、桜の聖母学院小学校5年生28名が考えた「みて、かんじて、あじわう展覧会」を開催した。

(ク) 関連事業

a ギャラリートーク

①2月10日(土) 解説 増渕鏡子(当館専門学芸員)

参加者 30名

②2月24日(土) 解説 荒木康子(当館学芸課長)

参加者 20名

b スペシャル・ギャラリートーク

期日 2月3日(土)

解説 後藤 學(喜多方市美術館長)

参加者 50名

c 桜の聖母小学生によるギャラリートーク

期日 2月17日(土)

解説 桜の聖母学院小学校5年生28名

参加者 80名

オ 長谷川利行展

(ア) 会期 平成30年3月24日(土)～4月22日(日)

(イ) 分野 絵画

(ウ) 展示数 140点

(エ) 主催 福島県立美術館

協力 長谷川利行の会

(オ) 観覧料 一般・大学生1,000円、高校生600円、小・中学生400円

(カ) 観覧者数(平成30年3月31日まで) 600名

(キ) 概要

伝説の洋画家、長谷川利行(1891-1940)。木賃宿をめぐらし、友人知人の肖像を素早い筆さばきで描いては、その絵を売りつけ金をせびる風来坊。しかし、対象の本質をわしづかみにする利行の作品は、近代日本絵画の到達した一つの極である。原色を多用しながら、水墨画の静けさすら感じさせる長谷川利行の芸術を回顧した。

本展は、福島会場を立ち上がり、東京、愛知、福岡、栃木に巡回する。

(ク) 関連事業

a ゲストトーク

期日 3月24日(土)

解説 小林真結(府中市美術館学芸員)

参加者 50名

b 担当学芸員によるギャラリートーク

期日 3月25日(日)

解説 堀 宜雄(当館専門学芸員)

参加者 30名

4 調査研究事業

(1) 調査研究

調査研究は美術館活動の基礎をなし、また広く県民に対して美術の情報センター機能を果たすためにデータ集積が欠かせない。県内外の美術家や作品の調査、教育普及、保存、展示等の調査を継続的に実施している。

今年度は県内の美術品調査と、県内出身作家やゆかりの作家、収蔵作家（斎藤清、渡部菊二、小川千甕、横山操等）の調査を重点的に行った。

5 普及事業

美術をより深く知る喜びを得る機会を提供する事業として、さまざまな講座を開催している。また、つくる楽しみを経験する契機として、各種の実技講座や、学校と連携しての出張講座等を行っている。

(1) 館内解説

学校や公民館その他の団体での鑑賞者のために、鑑賞前に学芸員が美術館の概要、鑑賞のマナー、代表的な収蔵作品の解説、常設展示や企画展示の概要等のガイダンスを行っている。

今年度の団体総数は104団体2,856人、そのうち解説を行ったのは63団体1,987人である。

(2) 鑑賞講座

館長講座「パリの異邦人 エコール・ド・パリの画家たち」

講師：早川博明（当館館長）

第1回「モディリアーニ」

日時 平成29年5月13日（土） 参加者 34名

第2回「シャガール」

日時 平成29年7月8日（土） 参加者 35名

第3回「キスリングとパスキン」

日時 平成29年9月9日（土） 参加者 31名

第4回「藤田嗣治」

日時 平成29年11月11日（土） 参加者 38名

第5回「スーティンとザッキン」

日時 平成30年1月13日（土） 参加者 23名

第6回「ユトリロとマリー・ローランサン」

日時 平成30年3月10日（土） 参加者 30名

(3) 創作プログラム

広く県民各層の美術に関する関心をふまえ、美術創作と鑑賞の理解を深める一助とする目的で、各種プログラムを実施している。

「親子で作ろう！シルバーアクセサリー」

期日 平成29年5月3日（水）

講師 竹田智美（PMC ジャパン認定講師）

参加者 16名

「リトグラフで描こう」

期日 平成29年6月17日（土）、18日（土）

講師 宮崎文子（版画家） 参加者 12名

「水鉄砲でTシャツ作り！」

期日 平成29年7月15日（土）

講師 青山ひろゆき（画家） 参加者 16名

「チェキで撮ろう！〇〇の瞬間」

期日 平成29年7月30日（日）、8月2日（水）、5日（土）

講師 白木ゆう美（当館学芸員）、國島敏（当館主任学芸員） 参加者 34名

「ぐるぐるまわる！回転絵画をえがこう！」

期日 平成29年8月20日（日）

講師 國島敏（当館主任学芸員） 参加者 8名

「どきどきわくわく！ピンホールカメラ体験」

期日 平成29年9月2日（土）、3日（日）

講師 千葉奈穂子（写真家） 参加者 8名

「多色木版画の制作 木目と色彩のハーモニー」

期日 平成29年10月9日（月）、14日（土）、21日（土）、29日（日）

講師 太田隆明（版画家） 参加者 12名

「なりきり！清先生 版でつくる動物たち」

期日 平成29年11月5日（日）

講師 白木ゆう美（当館学芸員）、國島敏（当館主任学芸員） 参加者 5名

「軽銀でつくるキャンドルトレー」

期日 平成29年12月23日（日）

講師 牧野広大（金属工芸作家） 参加者 16名

「湧水画（わきみずが）」

期日 平成30年2月11日（日）

講師 古川弓子（美術家） 参加者 9名

(4) 美術館・学校教育連携事業

ア 学校連携共同ワークショップ

学校からの要望をもとに平成15年度より開催する連携事業。子どもたちが作家と触れ合う機会として、作家・学校・美術館の共同による創作活動を中心にした「出張ワークショップ」を開催している。この事業により相互の協力関係を密にし、新鮮な体験を通して美術や美術館への関心を高めるとともに、通常は美術館を利用しにくい地域へも文化事業の還元を図る。

今年度は幼稚園・小・中・高校合わせて12校で開催した。ワークショップ作品は平成29年12月16日（土）～24日（日）、および平成30年1月6日（土）～14日（日）の期間、当館企画展示室Bにて活動中のスナップ写真とあわせて展示。さらに平成30年2月7日（水）～12日（月）までいわき市暮らしの伝承郷でも展示した。

ア 「デコって張りこる！不思議で楽しい張り子づくり」

講師 橋本彰一（工芸家）

開催校および参加人数

学校法人富田幼稚園 参加者 103名

認定こども園ぼだい樹 参加者 44名

二本松市立渋川小学校 参加者 14名

いわき市立平第二小学校（特別支援） 参加者 10名

二本松市立安達中学校 参加者 13名

会津若松市立第一中学校 参加者 20名

福島県立小野高等学校 参加者 25名

福島市立福島養護学校高等部 参加者 16名

(イ) 「紙で絵地図をつくろう！」

講師 佐藤洋美 (デザイナー、コラージュ作家)

開催校および参加人数

学校法人西郷幼稚園	参加者 136名
福島市立杉妻幼稚園	参加者 45名
学校法人開南幼稚園	参加者 38名
会津美里町立高田中学校	参加者 86名

イ 先生と考える美術館ミーティング

小学校図画工作、中学校・高等学校美術の鑑賞指導について講座を開講する福島県教育センターと連携しながら、学校における美術館の活用方法を考える。

今年度は、前期 (県教育センター) 後期 (当館) の 2 回に分けて開催した。

期日 平成 29 年 8 月 7 日 (月)、11 月 9 日 (木)

参加者 小学校教諭 3 名、中学校教諭 5 名、高等学校教諭 2 名、支援学校 1 名 計 11 名

(5) 美術館への年賀状展

県内の小中学生から寄せられた手作り年賀状を展示した。

会期 平成 30 年 1 月 12 日 (金) ~ 31 日 (水)

応募数 427 枚

(6) 博物館実習

学芸員資格取得のため実習を希望する大学生を受け入れ、カリキュラムを組んで指導している。

期日 平成 29 年 8 月 22 日 (火) ~ 27 日 (日)

実習生 6 名

(7) 友の会、協力会との連携事業

ア 友の会通常総会

期日 平成 29 年 5 月 21 日 (日)

会場 美術館講義室 参加者 20 名

イ 友の会美術鑑賞講座

「斎藤清からのメッセージ」

期日 平成 29 年 10 月 14 日 (土)

講師 早川博明 (館長) 参加者 20 名

ウ 友の会実技講座

「サイアノタイプ体験」

期日 平成 29 年 9 月 10 日 (日)

講師 國島 敏 (当館主任学芸員) 参加者 6 名

エ 友の会研修旅行

「本間美術館、土門拳記念館」

期日 平成 29 年 9 月 3 日 (日)

参加者 酒井哲朗 (名誉館長)、早川博明 (館長)、伊藤匡 (当館専門員) ほか 計 45 名

オ 友の会アートチャリティ・バザー

会期 平成 29 年 12 月 3 日 (土)

会場 当館エントランスホール 参加者 約 200 名

カ ミュージアム・コンサート

福島県立美術館協力会、福島県立美術館友の会との共同開催によるコンサート。

「春を呼ぶジャズ&ポピュラー名曲の宴」

期日 平成 30 年 3 月 3 日 (土)

会場 当館エントランスホール (参加無料)

演奏 斎藤栞 (ヴォーカル)、三鈿美香 (キーボード)、岩谷真 (ベース)、Mr. Gretch (ドラムス)

参加者 約 250 名

キ ワークショップマート~ものづくりの庭~

美術館庭園にテントを設置して当館収蔵作品をテーマに「もの作りワークショップ」を開催した。

期日 平成 29 年 9 月 23 日 (土)

会場 当館庭園

協力 福島県立美術館協力会

参加者 約 700 名

ク 触って、話して、見て楽しむ美術鑑賞ワークショップ

斎藤清「会津の冬」を取り上げ、視覚障がい者と晴眼者と一緒に作品鑑賞を楽しんだ。

期日 平成 29 年 11 月 3 日 (金)

会場 当館実習室、企画展示室 (参加無料)

講師 真下弥生 (ルーテル学院大学非常勤講師)、半田こづえ (明治学院大学非常勤講師)

協力 福島県点字図書館、福島県立美術館協力会

参加者 20 名

ケ アートカード『ぼけっとアート』貸し出し

平成 29 年度 4 月より鑑賞補助教材『ぼけっとアート』の貸し出しをはじめた。

対象 県内の小・中・高校その他教育関係機関

貸出総数 78 か所、368 セット

協力 福島県立美術館協力会

(8) その他の事業

ア 県立図書館との連携事業「アートなおはなしかい」

小学生とその保護者を対象にした、図書館での絵本の読み聞かせと工作ワークショップ。

期日 平成 29 年 12 月 9 日 (土)

参加者 30 名

イ 館外での活動

(ア) 委員の委嘱等

- ・いわき市立美術館収集評価委員 (荒木康子学芸課長)
- ・「新しいAIZU の美術展」選考委員 (荒木康子学芸課長)
- ・福島市写真美術館運営委員 (堀宜雄専門学芸員)
- ・裏磐梯猪苗代フォトコンテスト審査員 (堀宜雄専門学芸員)
- ・宇都宮美術館美術作品等収集評価委員 (増渕鏡子専門学芸員)
- ・相馬市史調査編さん委員 (増渕鏡子専門学芸員)
- ・須賀川市歴史文化基本構想策定委員 (増渕鏡子専門学芸員)
- ・一般財団法人可月亭庭園美術館評議員 (増渕鏡子専門学芸員)
- ・西会津国際芸術村公募展審査員 (坂本篤史副主任学芸員)

(イ) 寄稿、発表、受賞等

- ・福島大学行政政策学類「博物館経営論」講師 平成 29 年 4 月 11 日 (火) ~ 7 月 15 日 (火) 全 15 回 (伊藤匡専門員)
- ・宮城県美術館「ミニレクチャー+ディスカッション 美術館の『コレクション』をめぐる」平成 29 年 6 月 11 日 (日) (荒木康子学芸課長)

- ・福島民報社講座「民報ブランチ会7月例会 世界的版画家・斎藤清氏に学ぶ講演会」講師 平成29年7月25日(火)、27日(木) (紺野朋子副主任学芸員)
- ・国見町小坂総合農村管理センター「斎藤清と西洋の名画」講師 平成29年8月27日(日) (早川博明館長)
- ・二本松市レポートあだち「レモン忌講演会 智恵子の横貌—『青鞥』表紙絵のナゾ—」講師 平成29年10月1日(日) (堀宜雄専門学芸員)
- ・福島民友新聞社講座「第35期民友カルチャー教室教養講座『斎藤清からのメッセージ展』解説」講師 平成29年10月27日(金) (紺野朋子副主任学芸員)
- ・喜多方市美術館ギャラリートーク「喜多方美術倶楽部から100年—大正時代・昭和の美術—」講師 平成29年12月16日(土) (増淵鏡子専門学芸員)
- ・福島市アクティブシニアセンターアオウゼ講座「名画でたどる美の世界～福島県立美術館コレクションより～」講師 平成30年2月23日(金) (坂本篤史副主任学芸員)

第14節 福島県立博物館

1 概要

福島県立博物館は、資料収集・展示・調査研究・教育普及事業を中心に、内容の充実を図っている。平成29年度の博物館活動の概要は次のとおりである。

(1) 運営協議会

博物館の運営に関し館長の諮問に応ずるとともに、館長に対して意見を述べる機関である。

ア 運営協議会委員

学校教育及び社会教育の関係者並びに学識経験のある者10名に委嘱している。平成13年1月からは、委員の選考に一部公募方式を導入した。

学校教育	鈴木 充子	いわき市立長倉小学校長
	和田 節子	飯館村立飯館中学校長
	加藤 知道	会津学鳳高等学校長
社会教育	杉 昭重	(公財)福島県文化振興財団理事長
	鈴木 静人	いわき市立中央公民館長
学識経験者	佐藤彌右衛門	合資会社 大和川酒造店代表社員
	長尾 修	博物館友の会幹事長
	秋月 順子	会津若松市教育委員会委員
	大友 靖子	福島県家庭教育インストラクター連絡協議会理事
公 募	山口昂太郎	棚倉町文化団体連絡協議会長

イ 会議

第1回 平成29年6月8日(木)

議題

- ① 会長・副会長の選出について
- ② 平成29年度事業計画について
- ③ 中期目標の達成状況について

第2回 平成30年2月15日(木)

議題

- ① 平成29年度事業の概要について
- ② 平成29年度実績中期目標(12月末現在)について
- ③ 平成30年度事業計画について

2 資料収集事業

(1) 収集展示委員会

ア 収集展示委員会委員

館の収集資料、企画展の計画等についての審議のため、12人を委嘱している。

福島県立博物館収集展示委員会 委員名簿

氏名	役職名	備考
有賀 祥隆	東北大学名誉教授・東京藝術大学客員教授	委員長
野沢 謙治	郡山女子大学短期大学部文化学科教授	副委員長

氏名	役職名	備考
入間田宣夫	一関市博物館館長	委員
大石 雅之	岩手県立博物館研究協力員、東北大学総合学術博物館協力研究員	委員
岡田 清一	東北福祉大学大学院嘱託教授	委員
佐々木利和	北海道大学アイヌ・先住民研究センター客員教授	委員
原田 一敏	東京藝術大学大学美術館教授	委員
三上 喜孝	国立歴史民俗博物館准教授	委員
村川 友彦	福島県史学会会長、元福島県歴史資料館課長	委員
柳田 俊雄	東北大学名誉教授、東北大学総合学術博物館協力研究員	委員

イ 会議

平成29年8月3日(木)

議題

- ① 今後3年間の展示計画について
- ② 平成29年度冬及び30・31年度開催予定企画展について
- ③ 平成28・29年度購入・寄贈資料について
- ④ その他

(2) 受贈・受託

ア 歴史資料

(ア) 受贈

米軍ビラほか	21件	個人
渋谷源蔵旧蔵資料	6件	個人
商家教誡秘録	1件	個人
土津神社告文(鳥羽伏見開戦一同奮戦につき)ほか	7件	個人

(イ) 受託

藤原尚古筆 会津藩白虎殉難図ほか	54件	個人
松平容保肖像ほか	3件	個人
松平容保書状(原田対馬宛)ほか	2件	個人
石井家文書ほか	7件	個人
会津藩弾薬箱	1件	個人
松平容保肖像 説明板	1件	個人
会津藩蠟漆制度秘書	1件	個人

イ 美術資料

(ア) 受贈

金地松喰鶴漆絵屠蘇器七ツ揃	1件	個人
一分銀ほか	4件	個人
盆踊り漆絵盃 附黒漆椀ほか	12件	個人
遠藤香村他書画寄書	1件	個人
遠藤香村筆「十六橋図」ほか	2件	個人
朱塗高砂図沈金三ツ組盃	1件	個人
藤蒔絵平棗ほか	4件	個人
遠藤香村筆「山水図屏風」ほか	17件	個人

(イ) 受託

佐竹永海筆「太公望図」ほか	3件	個人
開発好明制作写真・造形作品 「新世界ピクニック(福島篇)」	1件	個人
小平瀧天神御本殿七分の一之建図ほか	10件	個人
聖徳大神鐘 天人像 拓本ほか	5件	個人
稲穂小判図ほか	37件	個人
竹内澤与「朝陽図」	1件	個人

ウ 民俗資料

(ア) 受贈

掛け時計ほか	14件	個人
図面類ほか	17件	個人
木製スキー板ほか	2件	個人
前掛け(森永牛乳)	1件	個人
家相図	1件	個人
手漉き和紙一式ほか	2件	個人
真空管ラジオ(叡山号四号)ほか	2件	個人
万石	1件	個人
蓑ほか	27件	個人
手回し式計算機	1件	個人
鋸ほか	7件	個人
鋸ほか	20件	個人
必要上曲線自由定規	1件	個人
諸織物覚帳ほか	2件	個人
写真(アルバム等)ほか	4件	個人
電気掃除機	1件	個人

(イ) 受託

旧修験高橋家所蔵修験資料(県指定重要文化財含む)	242件	個人
--------------------------	------	----

エ 考古資料

(ア) 受託

荒屋敷遺跡出土品	18件	三島町教育委員会教育長
----------	-----	-------------

オ 自然資料

(ア) 受贈

浅貝層産玄能石	1件	個人
---------	----	----

(イ) 受託

南相馬地域産化石標本	36件	個人
------------	-----	----

カ 震災遺産

(ア) 受贈

避難所対応関係文書	7件	
公益財団法人福島県都市公園・緑化協会理事長 久之浜商店街案内板	1件	
西武企画株式会社 代表取締役		
久之浜ふるさとの記憶模型	1件	
いわき市立久之浜第一小学校長		
久之浜街並み模型(小型)	1件	
久之浜大久地区まちづくりサポートチーム		

(3) 購入

ア 民俗資料

民俗文化映像研究所 映像民俗学シリーズ DVD「日本の姿」	1件
----------------------------------	----

イ 美術資料

竹内澤與筆「朝陽図」	1件
------------	----

ウ 自然資料

放散虫アクリル樹脂立体模型	2件
ペルム紀魚類化石(レプリカ)ほか	8件

エ 図書資料

(ア) 一般図書

考古分野 28冊、民俗分野 33冊、美術分野 15冊、
自然分野 29冊、保存分野 10冊、共通 2冊 計 122冊

(イ) 定期刊行物

定期刊行物リスト (平成30年3月31日現在)

No.	定期購読雑誌	分野
1	考古学研究	考古
2	宗教研究	民俗
3	民具研究	民俗
4	ナショナルジオグラフィック	共通
5	第四紀研究	自然
6	ヒストリア	歴史
7	考古学雑誌	考古
8	日本民俗学	民俗
9	信濃	共通
10	ミュゼ	共通
11	史林	共通
12	史学雑誌	歴史
13	歴史評論	歴史
14	地方史研究	歴史
15	日本史研究	歴史
16	日本歴史	歴史
17	歴史学研究	歴史
18	美術手帳	美術
19	芸術新潮	美術
20	国華	美術
21	古代文化	考古
22	文化財発掘出土情報	考古
23	考古学ジャーナル	考古
24	季刊考古学	考古
25	日経サイエンス	自然
26	科学	自然
27	化学	保存科学
28	海洋	自然
29	地球	自然
30	月刊文化財	共通
31	たくさんのふしぎ	共通
32	ニュートン	共通

3 保存管理事業

(1) 資料の収蔵

ア 博物館資料

資料受入れ時点における収蔵資料件数の、現在までの累計を示す。件数は概数であり、「一括」で受け入れた資料も1件と数える。

収蔵資料数 (平成30年3月31日現在)

分野	件数	備 考
考古	20,419	土器・石器・金属器ほか
民俗	13,509	生活・生業・交通・信仰・芸用具ほか
歴史	22,242	書籍・文書資料ほか
美術	6,566	絵画・彫刻・工芸資料ほか
自然	49,644	化石・岩石・鉱物ほか
震災遺産	39	文書資料ほか
合計	112,419	

イ 図書および映像資料

(ア) 収蔵図書数 (平成30年3月31日現在)

考古分野：26,963冊 民俗分野：4,884冊
 歴史分野：10,581冊 美術分野：4,361冊
 自然分野：17,209冊 保存分野：1,758冊
 その他：56,610冊 合計：122,366冊

(イ) 収蔵映像資料数 (平成29年3月31日現在)

収蔵映像資料総数：1,373点

(2) 登録・整理

ア 資料管理システムの運用

平成25年度中に、それまでのサーバークライアント方式による資料管理システムに換えて、新たにASP方式の博物館資料管理専用システムである早稲田システム開発株

式会社製 I.B. Museum SaaS を導入した。新システムは県教育委員会のFKS回線を介してインターネットに接続した端末パソコンより使用するものとし、それまで使用してきた資料管理システム専用LAN回線はFKS回線に一本化した。

新システムでは多数のデータの一括登録や一括修正が可能となり、また、経年的なランニングコストが削減された。更に、インターネット上での資料情報の外部公開が可能となった。

資料管理システム本来の目的である資料の登録および資料情報の外部公開に関しては運用が軌道に乗り、各種登録作業などがほぼ順調に進められるようになった。しかし運用が本格化するにつれ、使用中に発見される書式や登録方法の設定ミス等は引き続き散見され、これらはそのつど修正に努めており、自力で修正出来ないものについては内容を書き出して、一括して早稲田システムに修正を依頼する必要がある。また、有償の改修が必要な一部項目の再構成については、予算措置を待って改修する予定である。

イ 資料の登録・資料情報の外部公開

整理が終了した資料のデータを資料管理システムに入力し、資料の登録を行った。表中の数値は登録済み資料の件数を示す。また、システムの資料情報外部公開機能を使用し、インターネット上で公開する所蔵資料情報を新たに追加した。本年度は、収蔵資料の登録数および資料情報の外部公開数ともに中期目標の評価指標を達成した。ただし各分野により達成度にばらつきが見られる。引き続き資料情報の外部公開において検索機能をより使いやすく改良することが望まれるが、システムがASP方式であるため実施可能な修正に制限があり、相当の工夫と時間が必要となる。

平成29年度収蔵指定文化財一覧

(平成30年3月31日現在)

連番	指定者	指定種別	資料種類	指定番号	資料名	点数	単位	備考
1	国	重要文化財	絵画	1903	絹本着色阿弥陀二十五菩薩来迎図	1	幅	館蔵
2	国	重要文化財	絵画	6	紙本着色蒲生氏郷像	1	幅	寄託
3	国	重要文化財	工芸品	2065	銅鉢	2	口	指定4口中の2口寄託
4	国	重要文化財	工芸品	2187	椿彫木彩漆笈	1	背	館蔵
5	国	重要文化財	工芸品	981	白銅三鈷杵	1	点	寄託
6	国	重要文化財	工芸品	2055	刺繍阿弥陀名号掛幅	1	幅	寄託
7	国	重要文化財	考古資料	352	会津大塚山古墳出土品	一括		寄託
8	福島県	重要文化財	絵画	7	絹本着色仏涅槃図・如意輪観音像・愛染明王像	3	幅	寄託
9	福島県	重要文化財	絵画	10	絹本着色松平楽翁像	1	幅	館蔵
10	福島県	重要文化財	絵画	25	絹本着色達磨図	1	幅	寄託
11	福島県	重要文化財	絵画	26	絹本墨画著色寒山図・絹本墨画著色拾得図	2	幅	寄託
12	福島県	重要文化財	絵画	9	絹本着色十六善神像	1	幅	寄託
13	福島県	重要文化財	絵画	3	紙本着色千葉妙見寺縁起	2	巻	寄託
14	福島県	重要文化財	絵画	13	絹本着色名体不離阿弥陀画像	1	幅	寄託
15	福島県	重要文化財	絵画	27	絹本着色熊野曼陀羅図	1	幅	寄託

連番	指定者	指定種別	資料種類	指定番号	資料名	点数	単位	備考
16	福島県	重要文化財	絵画	28	絹本着色普賢菩薩像	1	幅	寄託
17	福島県	重要文化財	絵画	2	紙本着色両界種子曼荼羅	2	幅	寄託
18	福島県	重要文化財	絵画	6	絹本着色土津神社霊神画像	1	幅	指定9幅中の1幅寄託
19	福島県	重要文化財	彫刻	4	木造大日如来坐像	1	軀	寄託
20	福島県	重要文化財	彫刻	29	木造地藏菩薩坐像	1	軀	寄託
21	福島県	重要文化財	彫刻	81	銅造聖観音菩薩立像（羽黒山湯上神社）	1	軀	寄託
22	福島県	重要文化財	彫刻	23	銅造聖観音菩薩立像（福聚寺）	1	軀	寄託
23	福島県	重要文化財	工芸品	58	銅鉢	1	口	寄託
24	福島県	重要文化財	工芸品	55	青磁牡丹唐草文大瓶	1	口	寄託
25	福島県	重要文化財	工芸品	18	鉄製の燈籠	1	箇	寄託
26	福島県	重要文化財	工芸品	40	十一面観音版木	1	枚	寄託
27	福島県	重要文化財	工芸品	42	刺繍阿弥陀三尊来迎掛幅	1	幅	寄託
28	福島県	重要文化財	工芸品	53	大名家婚礼調度等	47	件	寄託
29	福島県	重要文化財	書跡	8	紙本墨書猪苗代兼載書八代集秀逸	1	巻	寄託
30	福島県	重要文化財	書跡	10	相馬家系図	1	巻	寄託
31	福島県	重要文化財	典籍	3	家世実紀	277	冊	館蔵
32	福島県	重要文化財	古文書	10	築田家文書	一括		寄託
33	福島県	重要文化財	考古資料	35	流麿寺跡出土金銀象嵌鉄剣	1	口	寄託
34	福島県	重要文化財	考古資料	1	福島信夫山出土品	一括		館蔵
35	福島県	重要文化財	考古資料	14	金銅製双魚袋金具	2	枚	館蔵
36	福島県	重要文化財	考古資料	21	原山1号墳出土埴輪	一括		館蔵
37	福島県	重要文化財	考古資料	28	常世原田遺跡出土品	一括		館蔵
38	福島県	重要文化財	考古資料	2	田村山古墳出土品	一括		寄託
39	福島県	重要文化財	考古資料	46	相馬・双葉地方の弥生時代石器	一括		館蔵
40	福島県	重要文化財	考古資料	23	松野千光寺経塚出土品	一括		寄託
41	福島県	重要文化財	考古資料	20	五職神経塚出土銅製経筒 附 石製外容器 3口	3	口	寄託
42	福島県	重要文化財	考古資料	33	森北1号墳出土品	一括		寄託
43	福島県	重要文化財	考古資料	40	荒屋敷遺跡出土品	一括		寄託
44	福島県	重要文化財	歴史資料	4	絹本着色恵日寺絵図	1	幅	寄託
45	福島県	重要文化財	歴史資料	5	陸奥国会津城絵図	1	鋪	館蔵
46	福島県	重要文化財	歴史資料	15	絹本着色飯豊山山道絵図	1	巻	寄託
47	福島県	有形民俗文化財		16	上行合人形	368	点	寄託
48	福島県	有形民俗文化財		3	(宇内薬師堂) 古絵馬	3	面	指定6面中の3面寄託
49	福島県	有形民俗文化財		31	旧修験高橋家所蔵修験資料	241	点	寄託
50	福島県	天然記念物	化石	63	パレオパラドキシア化石梁川標本	1	体	館蔵

登録資料数・資料情報の外部公開数

(平成30年3月31日現在)

資料類別	登録資料 (平成29年度)	登録資料 (累計)	資料情報の外部公開 (平成29年度)	資料情報の外部公開 (累計)
考古資料類	96	12,130	769	3,532
民俗資料類	221	14,251	1,008	3,405
歴史資料類	427	41,468	2,284	8,520
美術工芸品類	1	6,229	0	23
自然標本類	279	24,969	1,215	10,398
合計	1,024	99,047	5,276	25,878

ウ ボランティア

博物館資料の整理のため、次の通り資料整理ボランティアを受け入れ、資料の整理を行った。

(ア) 自然資料整理

桑原 功 企画展「ふくしま5億年の自然史」展示作業補助 12日、化石標本整理 5日

星総一郎 企画展「ふくしま5億年の自然史」展示作業補助 3日

(イ) 古文書整理

古文書整理ボランティア登録者のうち9名が延べ54日参加し、斎藤美恵子家文書・本田徳壽家文書・本田信英家文書の整理作業（表題・年代・法量などのデータ採取）を行った。終了したのは191点。参加者は五十嵐晴日子、大堀義子、小関栄助、小檜山裕二、佐藤敏子、佐野喜惣次、鈴木清二、馬場純、星弘明の諸氏。

(3) 貸出

ア 博物館資料

貸出資料一覧

資料名	貸出先	貸出期間	展覧会名
蒲生記 2冊 蒲生氏郷画像(当館受託資料) 1幅	仙台市博物館	平成29年9月～12月	特別展「伊達政宗―生誕450年記念」
原山1号墳出土埴輪のうち 冠を付けた男子像 1点 琴を弾く男子像 1点 女子像 1点 円筒埴輪 1点 円筒埴輪 1点	福島県文化財センター 白河館	平成29年9月5日～ 12月15日	企画展「はにわ行進曲」
三貫地貝塚出土品のうち 縄文土器深鉢 2点 縄文土器台付鉢 1点 縄文土器浅鉢 1点 縄文土器注口土器 1点 骨角器ヤス 4点	宮畑遺跡史跡公園 じょーもびあ宮畑	平成29年7月13日～ 11月30日	企画展 「上岡遺跡発掘物語」
浦上玉堂「山林読書図」 1幅 浦上玉堂「野橋可立図」 1幅 浦上玉堂「青山弹琴図」 1幅	足利市立美術館	平成29年10月27日～ 平成30年1月10日	企画展「涯テノ詩聲 詩人 吉増剛造展」
蒲生羅漢「虚空蔵菩薩像・十一面観音像」 2幅 浦上玉堂「布袋山水図」 3幅	白河集古苑	平成29年8月～11月	特別企画展「文晁門人 蒲生羅漢―白河のまちを飾った絵師―」
棚倉町流麁寺跡出土品のうち 13号平場 土師器杯 1点 13号平場 土師器高台付杯 1点 13号平場 鉄剣 1点	大田原市なす風土記の 丘湯津上資料館	平成29年8月29日～ 12月28日	特別展 「那須の人々の心とほとけ」
正直9号墳出土石製模造品「斧」 2点	新潟市文化財センター	平成29年9月19日～ 12月27日	企画展 「古墳時代のお祭り」
木造建築継ぎ手一式	福島県森林保全課	平成29年9月24日～25日	平成29年度「福島県もりの案内人養成講座」
富岡町関連震災遺産(当館保管) 4点	大安場史跡公園	平成29年10月19日～ 12月17日	企画展「遺跡と災害」
久之浜張り子 熊乗り金太郎 1点 久之浜張り子 馬 1点 久之浜張り子 お多福面 1点	いわき市暮らしの伝承館	平成29年11月29日～ 平成30年3月25日	企画展 「久之浜張り子の世界展」

資料名	貸出先	貸出期間	展覧会名
桐蔭絵鼓 1点 紫檀能尽蔭絵煙草盆 1点 松平容保書「和致芳」 1点 京都戦争之図 1点 松平容保書状 文久4年2月18日付 1点	桑名市博物館	平成29年8月～12月	特別企画展 「幕末維新と桑名藩」
近習人別帳(当館受託資料) 1冊 外様人別帳(当館受託資料) 1冊 告文(中将様京都守護職正四位下被仰付ニ付報告状(当館受託資料) 1通 告文(守護職中御役知五万石被下金三万兩拝借ニ付報告状)(当館受託資料) 1通	若松城天守閣郷土博物館	平成29年9月1日～ 11月30日	秋季企画展「戊辰前夜」
家訓 1幅 藤蔭絵提重 松平容保所用 1具 夕顔蔭絵 松平容保所用 1挺	茨城県立歴史館	平成29年9月27日～ 12月12日	特別展Ⅰ「志士のかたち —桜田門,天狗党,そして 新選組」
野口英世千円冊3番券 1点 日本の古代の貨幣 12点 日本の中世の渡来銭 21点 日本の近世の渡来銭 49点 日本の近世の藩札 9点	いわき市勿来関文学歴史館	平成29年12月15日～ 平成30年2月	企画展「銭の話」
浦上玉堂「山林読書図」 1幅 浦上玉堂「野橋可立図」 1幅 浦上玉堂「青山弾琴図」 1幅	沖縄県立博物館・美術館	平成30年1月11日～ 平成30年6月24日	「涯テノ詩聲 詩人 吉 増剛造展」
会津戦争記聞 3枚続 会津軍記 3枚続 家訓 1幅 会津藩弾薬箱(以下、当館受託資料) 1箱 斗南移転海行人別 1冊 戸南移転際行衛不知人別 1冊 戸南移転陸行人別 1冊 斗南藩記録 1冊 斗南藩家族移転ニ付ケ条書 1冊 会津藩戦死人別 1冊 会津藩士人別帳 1冊	高知県立高知城歴史博物館	平成30年2月～ 平成30年6月	特別企画展 「明治元年の日本と土 佐～戊辰戦争 それぞ れの信義～」
追鳥狩図 1点 会津藩士人別帳 1冊	若松城天守閣郷土博物館	平成30年3月1日～ 平成30年12月31日	企画展
十二天図(恵日寺旧蔵)旧軸木2本(修復銘有) ①延宝三年銘 ②文政九年銘	磐梯町磐梯山恵日寺資料館	平成30年3月28日～ 平成30年12月4日	常設展
阿弥陀二十五菩薩来迎図 1幅	埼玉県立歴史と民俗の博物館	平成31年2月20日～ 平成31年5月20日	特別展 「東国の地獄極楽」

イ 写真資料

総数：143件 261点

考古：13件 29点 民俗：14件 41点

歴史：83件 143点 美術：26件 36点

自然：7件 12点

(4) 保存

収蔵資料を適切に保存するため、収蔵庫および展示室など主要箇所での保存環境の定期調査、新規収蔵資料の生物被害防除を実施している。

ア 保存管理

(7) 保存環境調査

常設展示室・収蔵資料展示室・企画展示室、収蔵庫（一時、第1～第6収蔵庫）、エントランスホール、体験学習室、講堂、事務室、会議室、研究室、図書室、空調機械室など主要なスペースについて昆虫、室内塵埃中昆虫、空中浮遊菌、空中浮遊塵埃数、化学物質（環境モニター、ホルムアルデヒド、酢酸、アンモニアの気中濃度）及び温度、湿度、照度等について調査を行った。

調査は季節による生息害虫等の状況を確認するため、6月18日～7月15日、12月3日～1月8日の2回にわたり実施した。

(イ) 生物被害防除

7月、2月、3月に各1回、新収蔵資料などを対象に燻蒸処理を実施した。燻蒸処理件数は、合計166件であった。平成27年度に燻蒸設備の故障が判明してから館内で燻蒸処理をできないため、平成29年度は7月にトラックの荷台内部にビニールシートを貼り付けて、仮設の被覆とした。2月、3月は、専門業者の設備へ搬入して燻蒸処理を実施した。

12月、新規に受託した民俗資料を文化財用のシート(エスカル)にバックして、文化財害虫発生監視を始めた。

4 展示事業

(1) 常設展示

総合展示と部門展示からなる。総合展示は、原始から現代までの福島の歴史を通観し、人々の暮らしを時系列に沿って展示している。原始・古代・中世・近世・近現代・自然と人間の6つのテーマで構成される。部門展示は、テーマ性の高い専門的な展示であり、民俗・自然・考古・歴史美術の展示に分かれる。平成21年度から、常設展示室内においてテーマ展・ポイント展を実施している。

ア テーマ展

常設展示室内において、特定のテーマを設定した小・中規模展示を「テーマ展」として実施した。平成29年度が9年目である。全7回実施。うち「檜枝岐村文書の世界」は公益財団法人福島県文化振興財団との連携事業として実施した。

① 「ふるさとの考古資料6【飯館村】遺跡探訪展」

(部門：考古展示室)

前年度～5月14日(日)

② 「心の四季 美術工芸に見る春・夏・秋・冬」

(部門：歴史・美術展示室)

4月22日(土)～6月4日(日)

③ 「託されたおもい 寄贈・寄託の名品たち」

(部門：歴史・美術展示室)

6月10日(土)～7月17日(月・祝)

④ 「ふるさとの考古資料7【檜葉町歴史資料館】移動展

(部門：考古展示室)

7月1日(土)～平成30年5月20日(日)

⑤ 「祈りのふくしま～収蔵仏教美術展～」

(部門：歴史・美術展示室)

8月5日(土)～9月18日(月・祝)

⑥ 「檜枝岐村文書の世界」(部門：歴史・美術展示室)

9月23日(土・祝)～12月10日(日)

⑦ 「けんぱくの宝2017」(部門：歴史・美術展示室)

12月23日(土)～平成30年2月18日(日)

イ ポイント展

常設展示室内において、特定資料の公開を目的とした小規模展示を「ポイント展」として実施した。平成29年度が9年目である。全14回実施。

① 「収蔵史料にみる戦国の群雄」(総合：中世展示室)

4月15日(土)～7月16日(日)

② 「端午の節供と五月飾り」(部門：民俗展示室)

4月21日(金)～6月21日(水)

③ 「いろんなダルマ集まれ！」(部門：民俗展示室)

6月23日(金)～8月30日(水)

④ 「ふくしまの戦争資料」(総合：近現代展示室)

7月15日(土)～8月21日(月・祝)

⑤ 「会津石譜」(総合：近世展示室)

7月15日(土)～9月18日(月・祝)

⑥ 「お日市のお札～会津・夏の風物詩～」

(部門：民俗展示室)

9月1日(金)～11月22日(水)

⑦ 「戊辰戦争回顧の足跡」(総合：近現代展示室)

9月2日(土)～10月1日(日)

⑧ 「斎藤一の肖像写真」(展示ロビー)

9月16日(土)～9月24日(日)

⑨ 「近代学校の誕生」(総合：近現代展示室)

10月21日(土)～11月24日(金)

⑩ 「東山水力発電所－自然を技術で利用する－

若松に電灯がともった！」(エントランス)

会期：10月28日(土)～12月3日(日)

⑪ 「会津農書の世界」(総合：近世展示室)

11月1日(水)～平成30年3月31日(土)

⑫ 「火をつかう昔の道具」(部門：民俗展示室)

11月24日(金)～平成30年2月28日(水)

⑬ 「鉱山の鉱物」(展示ロビー)

平成30年1月27日(土)～3月4日(日)

⑭ 「安産・成長へのねがい～会津のカサボコ」

(部門：民俗展示室)

平成30年3月1日(木)～3月28日(水)

(2) 企画展示

歴史・美術・民俗・考古・自然の各分野が単独もしくは協力し企画した館のオリジナルなテーマに基づいた展示を中心に、期間を限定して開催している。平成29年度は、4本の企画展示を開催した。福島県立博物館は季節毎に年間の展示のコンセプトを設定している。春は、会津をテーマにした展示をとおして会津の魅力を見ることができるような内容。夏は、学校の夏休みの時期に、子どもたちが興味を持ち、家族や親子で楽しめる内容。秋は、福島をテーマにした展示をとおして県民が広く文化や歴史に親しむ機会を提供する内容。

ア 春の企画展「寄贈記念 自然をうつす 漆芸家・関谷浩二が挑んだ漆表現の可能性」

(ア) 会 期 平成 29 年 4 月 29 日(土・祝)～6 月 4 日(日)

開館日数：32 日間

(イ) 会 場 企画展示室

(ウ) 入館者数 (総務課に確認) 人

(エ) 担当学芸員 美術分野：小林めぐみ

(オ) 趣 旨

福島県文化功労賞受賞者で会津を代表する漆芸家・関谷浩二。福島県川俣町出身で、会津若松市の蒔絵師・関谷彦蔵に学び、後にその養子となり、養父の没後は日本を代表する漆芸家・六角大塚、田口善国の門下となった。

日々、自然に向き合い、対象の質感、気配までうつし取ろうとするかのように丹念に行われた写生と秀逸な技が融合した関谷浩二の漆の新たな表現。

本展は、近年、本人よりご寄贈いただいた漆作品約 40 点の当館での初公開と代表作の展示により、関谷浩二の漆表現への挑戦の軌跡を紹介した。会津伝統の漆の技、日本を代表する技術、それらを基盤とした漆表現の数々。会津が生んだ珠玉の作品たちをご覧いただく機会とした。

(カ) 展示構成

関谷浩二の漆芸作品 67 点、写生帖、図案等。

主な展示作品「湿原蒔絵箱」(個人蔵)、「霧氷蒔絵箱」(当館蔵)、「出穂の頃蒔絵飾箱」(当館蔵)、「ごぜんたちばな割貝蒔絵飾箱」(当館蔵)、「穂波蒔絵盤」(当館蔵)など。

(キ) 関連事業

・アーティストトーク「漆との出会い、自然との出会い」

講師：関谷浩二(漆芸家)

日時：4 月 29 日(土) 13：30～14：30

会場：企画展示室、申込不要

(一般・大学生は要企画展チケット)

・ワークショップ

「自然を描く・漆で描く 第 1 部写生編」全 2 回

講師：古川弓子(アーティスト)、

古川裕司(野鳥研究家)

日時：5 月 6 日(土)13：30～15：30、

5 月 7 日(日)9：30～12：30

会場：実習室、定員：15 名(要申込・先着順)、

参加費：無料

・ワークショップ

「自然を描く・漆で描く 第 2 部蒔絵編」全 3 回

講師：八木由紀子(蒔絵師)

日時：5 月 14 日(日)、5 月 21 日(日)、5 月 28 日(日)

3 日間とも 13：30～15：60

会場：実習室、定員：15 名(要申込・先着順)、

参加費：1,000 円

(ク) 成果と課題

会津を拠点に活躍した漆芸家・関谷浩二の作品とその

制作の背景となる思想を伝える展示は、作家の制作姿勢を通して、あらためて自然との向き合い方を問いかけるものとなった。

あわせて、本展が作家を知るきっかけとなったことへの評価もいただいた。

会期中に行った作家本人による講演会、また作家の制作の一端を体験することを目的として行った 2 種類のワークショップは、展示を補完し、展示の意図への理解をより深めるものとして高評価を得るとともに、体験への要望や当館への期待を認識する場ともなった。

年度初めの開催のため広報が遅れたことは、今後の課題である。また、会期中、学習支援班との連携により、学校団体向きの鑑賞の仕掛けを行えたことは今後の可能性を探る大きな試行となった。

イ 夏の企画展「ふくしま 5 億年の自然史」

(ア) 会 期 平成 29 年 7 月 15 日(土)～9 月 18 日(月)

館日数：58 日間

(イ) 会 場 福島県立博物館企画展示室

(ウ) 入館者数 6,637 人

(エ) 担当学芸員 自然分野：相田優、猪瀬弘瑛

(オ) 趣 旨

この展示は、これまで当館で地学分野を担当してきた学芸員が、博物館設立準備時代より 30 数年に渡り、県内をくまなく歩き、本県の自然史に関する調査、研究と資料収集を積み重ねてきた成果の集大成であった。これまでに当館で収集した豊富な自然史資料に基づき、ふくしまのたどってきた自然史の位置づけを具体的に紹介した。

(カ) 展示構成

a 古生代のふくしま

b 中生代のふくしま

c 新生代のふくしま

d 現在のふくしま―地震・火山・津波―

e 化石にさわってみよう

出品点数 松ヶ平変成岩、阿武隈花崗岩類、カルデラ火山岩類、古生代腕足類、三葉虫、ジュラ紀アンモナイトほか軟体動物、白亜紀アンモナイトほか軟体動物、チンタオサウルス全身骨格復元、新生代植物、パレオパラドキシア、ナウマンゾウ全身骨格復元、活断層断面剥ぎ取りなど 1,023 点

(キ) 関連事業

・企画展展示解説会「化石の見方、教えます！」

日時：7 月 16 日(日)、7 月 23 日(日)、8 月 6

日(日)、8 月 13 日(日)、9 月 17 日(日)

(各日) 13 時 30 分～14 時 30 分

場所：企画展示室

講師：当館学芸員

・ワークショップ「―ふくしま最古の岩石がもらえる！―アンモナイトの名前を当てよう！」

日時：7 月 30 日(日)、8 月 20 日(日)

(各日) 13 時 30 分～15 時

場所：企画展示室

講師：当館学芸員

・気象庁福島地方気象台出前講座

演題：「地震と津波について」

日時：8月10日（木）13時30分～14時30分

場所：講堂

講師：大和田淳（福島地方気象台地震津波防災官）

(ク) 成果と課題

最新の研究成果を基に福島県の大地の成り立ちを紹介することができた。1,500枚以上回収されたアンケートの集計結果によれば、85%以上の観覧者が本展を「おもしろかった」と評価しており、観覧時間も30分以上の人が50%を越えている。展示内容では「化石にさわってみよう」が特に高い人気を得ており、体験型展示の有効性が示された。一方、「解説文が長く難しい」、「鉱物にさわれなかった」などの改善を求める意見もあったので、今後の展示の参考にしていきたい。

ウ 秋の企画展

「発掘ふくしま4 一土中の声に耳をすませば」

(ア) 会 期 平成29年10月7日(土)～11月26日(日)

開館日数：44日間

(イ) 会 場 福島県立博物館企画展示室

(ウ) 入館者数 3,741人

(エ) 担当学芸員 考古分野：森幸彦

(オ) 趣 旨

「発掘ふくしま」シリーズの第4回目。「発掘ふくしま3」から14年ぶりの開催で、近年10年間の県内発掘調査成果を紹介する展示。

旧石器時代、縄文時代、弥生時代、古墳時代、奈良・平安時代・中世、申請以降近代までの70遺跡を扱った。また、古墳時代の特別展示として5年間の再修理を経た会津大塚山古墳出土品全資料を展示し、さらに、近年国史跡に指定された縄文時代の福島市和台遺跡、宮瀧遺跡、南相馬市浦尻貝塚、中世の伊達市宮脇遺跡を扱った。

(カ) 展示構成

a 旧石器時代 一浜通りの旧石器時代人ー

b 縄文時代ーふくしまが列島文化の中心だった!?ー

c 弥生時代 一墓は語るー

d 古墳時代 一新資料が語るふくしま古墳文化の成り立ちー

e 奈良・平安時代 一県内ぐるっと郡家の旅ー

f 中世 一進む中世城館の調査

g 近世以降 一城・城下・産業遺跡

出品点数 大谷上ノ原遺跡出土ナイフ形石器など

74遺跡 1,104点

(キ) 関連事業

・記念講演会

○「ふくしまの考古学この10年」

日時：10月7日(土)13時30分～15時

講師：福島県考古学会会長 玉川一郎

○「最新 ふくしまの古墳時代研究」

日時：11月3日（金・祝）13時30分～15時

講師：福島大学行政政策学類教授 菊地芳朗

○「世界初！核DNA抽出に成功ー三貫地貝塚の人骨は語る」

日時：11月23日（金・祝）13時30分～15時

講師：国立遺伝学研究所教授 斎藤成也

・ゲスト解説会

日時：11月18日（土）13時30分～14時30分

講師：中央大学文学部教授 小林謙一

・展示解説会

日時：10月7日（土）15時15分～16時15分

10月22日（日）11時15分～16時15分

11月3日（金・祝）15時15分～16時15分

11月12日（日）13時30分～14時30分

11月23日（金・祝）15時15分～16時15分

講師：当館考古担当学芸員

(ク) 成果と課題

世界で初めて縄文人の核DNAが解析された新地町三貫地貝塚出土人骨は興味深く観覧する人が多く縄文人と現代人の関係を改めて認識したようである。弥生時代末から古墳時代初期にかけての湯川村桜町遺跡や喜多方市家西遺跡の資料は、今後の議論の材料として意義ある展示であった。5年の修復期間を経て一同に展示した会津大塚山古墳出土品の人気は高かった。

講演会講師玉川一郎氏の言を借りれば、この10年の考古学的成果を総括すると、大規模開発事業が収束し、各地域の歴史資料として各遺跡の再評価がなされ、地域の財産として主要遺跡の史跡整備などが進められた時期と言える。

アンケートでは、キャプションが総じて小さかった点と距離のある壁面のパネルの文字が小さかった点の指摘が多かった。

エ 冬の企画展

「山水憧憬 一雪舟・蕪村・応挙 水墨の山野に遊ぶ」

(ア) 会 期 平成30年1月13日(土)～2月18日(日)

開館日数：32日間

(イ) 会 場 企画展示室

(ウ) 入館者数 (総務課に確認)人

(エ) 担当学芸員 美術分野：川延安直、小林めぐみ

(オ) 趣 旨

本展では、東京国立博物館の協力により同館が所蔵する「山水」をテーマとする水墨画の名品から10件、工芸品から8件を紹介。日本美術の主要な画題の一つである「山水」を描いた作品から、日本人の自然への憧憬、畏怖を捉えなおした。

水墨画の大成者とされる雪舟等楊の「秋冬山水図」(国宝)をはじめ、江戸時代の与謝蕪村、円山応挙らの作品を通して水墨画の多様な表現と画家の個性に触れ、平安時代から江戸時代にわたる工芸品の数々から人々の思いを受け止めて表現してきた日本の工芸の技と美の素

晴らしさを伝えた。

本展にあわせて、常設展では、当館が収蔵する水墨画・工芸品を紹介するテーマ展「けんぱくの宝」を開催。地域の文化史理解を深める場も同時に設けた。

(カ) 展示構成

雪舟等楊筆「秋冬山水図」（国宝）、与謝蕪村「山野行楽図屏風」（重要文化財）、雪村周継「鷹山水図屏風」（重要美術品）、「山水蒔絵鏡箱」、「楼閣山水蒔絵宝石箱」など18件23点

(キ) 関連事業

講演会

「国宝とは何か—文化財保護・博物館・美術工芸品」

日時：平成30年1月13日（土）13：30～15：00

講師：佐藤康宏（東京大学教授）

会場：福島県立博物館 企画展示室

(ク) 成果と課題

独立行政法人国立文化財機構東京国立博物館平成29年度収蔵品貸与促進事業として開催した本展は、東京国立博物館から福島への文化的な復興支援として開催された。

東京国立博物館が収蔵する名品を一堂にご覧いただく機会とすることができた。

来場者からは名品を間近に観覧できたことに高い評価をいただいた。

冬季の開催であったが、水墨画と館外の雪景色を重ねた広報戦略で、冬季開催への好印象を得ることもできた。

(3) 特集展

特集展は、新しく収集した寄贈・寄託資料を中心に、特定のテーマに基づいて一定の期間開催する展示会である。平成29年度は、第2期中期目標で掲げている次世代ミュージアム機能の充実を図る活動として、冬に「はま・なか・あいづ文化連携プロジェクト成果展」および「震災遺産を考える」を同時に開催した。福島県立博物館は、季節毎に年間の展示のコンセプトを設定している。冬は、東日本大震災や復興に関連する内容。

企画展示のように特別の観覧料金を設定せずに、特集展ごとに常設展観覧料で観覧できるか、無料で観覧できるように対応した。

ア 特集展

「はま・なか・あいづ文化連携プロジェクト成果展」

(ア) 会期

第1会場：平成29年2月4日（土）～4月11日（火）

開館日数：57日間（平成29年度の会期11日間）

第2会場：平成29年2月11日（土）～4月11日（火）

開館日数：51日間（平成29年度の会期11日間）

(イ) 会場

第1会場：常設展部門歴史美術展示室

第2会場：企画展示室

(ウ) 観覧者数 1,020人（会期中の累計観覧者数3,616人）

(エ) 担当学芸員 川延安直・小林めぐみ・塚本麻衣子

(オ) 趣旨

東日本大震災と東京電力福島第一原子力発電所事故から5年を迎え、その記憶も薄れつつある。しかし、巨大地震と原子力発電所事故が福島に限らない課題であることはこの国の多くの人が共有し続けなければならない課題である。はま・なか・あいづ文化連携プロジェクトは、文化・芸術の視点から2011年以降福島が抱えている課題に向き合ってきた。地域に新たなアートを定着させ、アーティストとともに被災地の記憶をとどめ、未来そのものである子供たちにアートワークショップを通じて触れあってきた。2011年以降の福島を伝え、ともに考えることを目的に制作されたはま・なか・あいづ文化連携プロジェクトの成果作品を展示。はま・なか・あいづ文化連携プロジェクトの5年間の成果をまとめて公開した。

(カ) 展示構成

岡部昌生「被爆樹×被曝し続ける樹、他」【フロアージュ作品】、片桐功敦「sacrifice」【写真作品】等、出品点数約100点

イ 特集展「震災遺産を考える～6本の年輪～」

(ア) 会期 平成29年2月11日（土・祝）～4月11日（火）

開館日数：51日間（平成29年度の会期11日間）

(イ) 会場 エントランスホール・企画展示室

(ウ) 観覧者数 1,020人（会期中の累計観覧者数3,616人）

(エ) 担当学芸員 森幸彦・栗原祐斗

(オ) 趣旨

ふくしま震災遺産保全プロジェクトは、東日本大震災を「歴史」と位置づけ、震災が産み出したモノや震災を示すバシヨを「震災遺産」と名付けて、収集・保全、そして公開する取り組みを平成26年から実施してきた。本展示では、これまでに収集・保全した震災遺産からふくしまが経験した東日本大震災を振り返り、未来のふくしまについて考える機会にしようとして実施したものである。

(カ) 展示構成

a あの日・あの時から

b 断絶する「日常」

c 思いがけない「未来」

※出品点数 火災で溶けた街頭、富岡町災害対策本部のホワイトボード、東京電力女子サッカー部マリーゼのマスコットキャラクター「マリちゃん」の着ぐるみ、飯舘村綿津見神社大杉の輪切り、津波で被災したJR常磐線の線路など107件

(キ) 関連事業

・展示解説会

会期中に2回実施した。参加者は15名である。

・柏崎市被災者サポートセンター「あまやどり」活動報告パネル展示

エントランスホールにおいて3月5日（日）から4月11日（火）にかけて実施した。

・参加型パネル展示「はじまりのごはん」

3.11 オモイデアーカイブ・3 がつ 11 にちをわすれないためにセンター(せんだいメディアテーク)が企画し、エントランスホールにおいて2月16日(木)から4月11日(火)にかけて実施した。この展示は東日本大震災発生翌日の朝ごはんの思い出や震災当時のことを付箋に記し、ブースに貼り付けていく参加型展示である。

ウ 特集展

「はま・なか・あいづ文化連携プロジェクト成果展」

(ア) 会 期 平成30年3月3日(土)～4月11日(水)

開館日数：33日間(3月31日時点で24日間)

(イ) 会 場 部門歴史美術展示室・収蔵資料展示室

(ウ) 観覧者数 1,677人(会期中の累計観覧者数2,388人)

(エ) 担当学芸員 川延安直・小林めぐみ・塚本麻衣子

(オ) 趣 旨

東日本大震災と東京電力福島第一原子力発電所事故から7年を迎え、その記憶も薄れつつある。しかし、巨大地震と原子力発電所事故が福島に限らない課題であることはこの国の多くの人々が共有し続けなければならない課題である。はま・なか・あいづ文化連携プロジェクトは、文化・芸術の視点から2011年以降福島が抱えている課題に向き合ってきた。地域に新たなアートを定着させ、アーティストとともに被災地の記憶をとどめ、未来そのものである子供たちにアートワークショップを通じて触れあってきた。はま・なか・あいづ文化連携プロジェクトで生まれた作品は、どれも、2011年以降の福島を伝え、ともに考えようと語りかけている。はま・なか・あいづ文化連携プロジェクトの6年間の成果の一部を展示公開し、芸術文化を通して福島の経験を共有し、共に考える場とした。

(カ) 展示構成

岡部昌生「被曝し続ける樹、他」【フロッタージュ作品】、安田佐智種「みち<<未知の道>>」「みち<<未知の地>>」【写真作品】、岩根愛「Island in my mind」【写真作品】、土田ヒロミ「願う者はかなえられるか」【写真作品】、藤井光「福島・文化・文化財～被災地のミュージアムと文化財のこれから～」【映像作品】。

出品点数 約100点。

(キ) 関連事業

・ギャラリートーク「アートで伝える考える」

日時：3月3日(土)14:00～

会場：福島県立博物館企画展示室・部門展示室歴史美術

講師：当館学芸員

・ファイナルラウンドテーブル

「岡部昌生フロッタージュプロジェクトの6年」

日時：3月4日(日)14:00～

会場：福島県立博物館企画展示室

講師：岡部昌生(美術家)×港千尋(著述家)×赤坂憲雄(福島県立博物館長/実行委員会委員長)

進行：川延安直(福島県立博物館専門学芸員/実行委員会事務局)

(ク) 成果と課題

2011年から6年間に渡って実施してきた事業の成果を公表・共有する場として開催した成果展。2011年からの福島の復興の様子と変化を伝えることを意図した。3月11日を挟んだ会期の間には、作品という形での東日本大震災と原発事故の記録への協力者も数多く来場し、あらためて将来に伝える残し伝えることの意義を考えることができた。

また、本展にはこれまでの当該事業の県外での協力者も遠方より来場し、本事業を通じて築かれた県外の大学や文化団体とのネットワークが「福島」を共有の場として堅固なものとなっていることを改めて認識させた。

県立の博物館として、震災と大事故をいかに伝え残していくか、共有の議論の場を設けていくかは、今後、当館にとってより重要な役割となっていくと思われる。

エ 特集展

「震災遺産を考える－災害の歴史と東日本大震災－」

(ア) 会 期 平成30年3月3日(土)～4月11日(水)

開館日数：33日間(3月31日時点で24日間)

(イ) 会 場 企画展示室

(ウ) 共 催 大熊町、双葉町、浪江町

(エ) 特別協力 久之浜・大久地区復興対策協議会、いわき市立久之浜第一小学校、久之浜大久地区まちづくりサポートチーム、久之浜町商工会、いわき市

(オ) 観覧者数 1,677人(3月31日時点)

(カ) 担当学芸員

猪瀬弘瑛、大里正樹、栗原祐斗(震災遺産保全チーム)

(キ) 趣 旨

ふくしま震災遺産保全プロジェクトは、東日本大震災を「歴史」と位置づけ、震災が産み出したモノや震災を示すバシヨを「震災遺産」と名付けて、収集・保全、そして公開する取り組みを平成26年度から平成28年度まで実施してきた。本展示では、これまでに収集・保全した「震災遺産」と過去に起こった災害に関する資料を合わせて展示し、震災を地域の歴史としてとらえ直した。

(ク) 展示構成

(第1章) 歴史の中の災害

(第2章) 東日本大震災の“歴史”

※出品点数 69件 津波堆積物断面剥ぎ取り(小高区、広野町)、浪江・大熊・双葉関連資料、浜風商店街関連資料、久之浜地区町並み模型、久之浜地区案内看板、被災街灯(久之浜)、磐梯山噴火図(各種)、書状(御屋敷普請につき)、九州大悪風津波大破損之事、白亜紀津波化石、ワークショップの成果物など

(ケ) 関連事業

・ 展示解説会

展示解説会は各回にテーマを設け、企画展示室において当館学芸員を講師として実施した。ただし、3月4日の回については大熊町、双葉町、浪江町の担当者、3月15日の回については、久之浜大久地区まちづくりサポートチームの方々にも解説していただいた。

日時「テーマ」：

3月3日（土）13時～13時30分「歴史の中の災害」

3月4日（日）13時～13時30分

「大熊・双葉・浪江の取組み」

3月11日（日）11時～11時30分

「久之浜から見る震災の前と後」

3月15日（木）14時45分～15時15分

「久之浜「ふるさとの記憶」模型について」

3月18日（日）13時30分～14時「災害からの避難」

3月25日（日）11時～11時30分「会津の災害」

・ ワークショップ「段ボールトイレを作ろう」

日時：3月18日（日）10時～11時30分

場所：企画展示室

講師：宮崎賢哉（一般社団法人 防災教育普及協会）

(コ) 成果と課題

会期中に実施したアンケートには「過去の災害と対比できることなどがよかったです」、「形に残すということがいかに重要か7年たった今ずっと考えています」といったように、展示や取り組みに対して好意的なご意見を頂いた。その一方で、「物も重要だが体験者の言葉が真実を伝えると思う」といったご意見も寄せられた。今後の活動を考える上で参考にしたい。

(4) 移動展

県立博物館と市町村の博物館・資料館と連携を促進するために、移動展を共催して県立博物館の企画展、収蔵品を展示公開している。開催が活発化するよう、移動展のパッケージプランを用意している。

ア 移動展「東北の仕事着コレクション」

主催：いわき市暮らしの伝承郷／福島県立博物館

(ア) 会 期 平成29年6月3日（土）～7月2日（日）

開館日数：26日間

(イ) 会 場 いわき市暮らしの伝承郷 企画展示室

（いわき市鹿島町下矢田散野 14-16）

(ウ) 入館者数 1,095人

(エ) 担当学芸員 大里正樹・山口拓（以上 当館）、
長谷川由美・渡邊彩（以上 いわき市暮らしの伝承郷）

(オ) 趣 旨

日本海と太平洋に面した東北地方は、気候的にもそれぞれ独自の風土を持ち、気候の相違は、伝統的な服装にも表れている。東北地方という寒冷積雪地における労働時の服装、仕事着は東北地方の風土をよく示す資料といえる。当館には、故・渡部つとむ氏が長年にわたり収集

された東北地方の仕事着コレクション 1,320点が寄託されており、会津地方はじめ、広く東北地方各地の仕事着が含まれている。

本移動展では、渡部つとむコレクションを中心に東北地方各地の仕事着を展示し、東北地方の風土やその厳しい自然に生きた人々の衣服と暮らしを紹介した。また今回は開催地（いわき市）にちなんだ資料として、漁師の祝い着であるマイワイ（万祝）を展示した。

(カ) 展示構成

a マイワイと漁業の仕事着

～海の男たちのユニフォーム～

b 福島県内の仕事着 ～仕事着が語るメッセージ～

c 様々な素材と手仕事の美 ～麻や木綿だけじゃない？多様な素材と、東北の刺し子の美～

d 庄内地方の仕事着

～実用性に裏付けられたデザイン～

(キ) 関連事業

展示解説会

講師：大里正樹（当館学芸員）

日時：6月17日（土）13時30分～14時

会場：いわき市暮らしの伝承郷 企画展示室

(ク) 成果と課題

・ 出品点数 37点

当館寄託資料「東北地方の仕事着コレクション」（全1,320点）から34点、当館所蔵資料3点

・ 主な展示資料

マイワイ（いわき市、宮城県）、ジバン（会津若松市、新潟県）、ヌノモモヒキ（昭和村）、モモヒキ（青森県）、サキオリソデナン（山形県）、コギンキモノ（青森県津軽地方）、南郷サシコ（南会津町）など

・ 展示内容

当館寄託資料である「東北地方の仕事着コレクション」（1,320点）を中心に暮らしの中で発達した衣服の民俗を紹介。当館所蔵資料を加え、全37点の資料を展示した。

展示観覧者の反応はおおむね好意的であった。来館者アンケートからは、いわき市内の手仕事サークルの人々が複数訪れていたことが分かった。東北地方各地の古い刺し子の実物を展示したことから、単に歴史への興味関心を持つ人々のみならず、広く手仕事に興味を持つ人々の観覧につながったと考えられる。他方、アンケートでは一部、パネル類の文字の大きさや展示方法について見にくいとのご意見もあった。

なお今回、いわきへの「里帰り」資料として、戦前期に小名浜で作られたマイワイ（万祝＝漁師の祝い着）を展示したところ、船名などから新たに資料の来歴が判明、開催地に密着した情報を得ることができたのは移動展ならではの利点であった。

(5) 指定文化財の公開

平成 29 年度の展示で以下の指定文化財の公開を行った（館蔵・寄託品などは除く）。

ア 国指定

〈国宝〉

(ア) 「秋冬山水図」（雪舟等揚筆）二幅 東京国立博物館
〈重文〉

(イ) 「山水図」（岳翁蔵丘筆・天隠龍澤賛）一幅 東京国立博物館

(ウ) 「山野行楽図屏風」（与謝蕪村筆）六曲一双 東京国立博物館

（以上、3 件は企画展「山水憧憬－雪舟・蕪村・応挙水墨の山野に遊ぶ－」で展示公開）

〈重文〉

(ア) 磐城檜葉天神原遺跡出土品のうち 92 点 檜葉町教育委員会（福島県）（テーマ展「ふるさとの考古資料 7」で展示公開）

(イ) 磐城檜葉天神原遺跡出土品のうち 2 点 檜葉町教育委員会（福島県）（総合：原始展示室）

イ 県指定（福島県指定）

(ア) 和台遺跡出土人体文土器及び狩猟文土器 2 箇
福島市教育委員会

(イ) 夏井廃寺跡出土品のうち 10 点いわき市教育委員会

(ウ) 根岸官衙遺跡出土品のうち 4 点いわき市教育委員会
（以上、3 件は企画展「発掘ふくしま 4－土中の声に耳をすませば－」で展示公開）

(エ) 関和久官衙遺跡出土品のうち 2 点
福島県教育委員会（総合：古代展示室）

(オ) 森北 1 号墳出土品のうち 4 点
会津坂下町教育委員会（総合：古代展示室）

(6) 展示解説

ア 展示解説員

平成 29 年度の展示解説員は 13 名で前年度と変わらなかった。これに加えて前年度と同様に常設展示室内で 2 名分の監視員を委託できる予算を確保したが、展示解説員の増員を図ることができなかった。企画展についても、展示予算の中で監視員 1 名を予算化し、通常の展示解説員 1 名に監視員 1 名を交えた体制で展示室の対応をせざるをえない状況であった。

さらに、企画展開催時には企画展示室の入口のモギリに人数を割かれるなどするため、常設展示室内に対応できる人員が不足する状況が恒常的に続いている。これらの状況に対して、学芸員による解説活動を増やし、定数減の状況を乗り切る対策をとっている。

このような展示解説員の減員により、過去に実施されていた解説員が主となる講座などは、今年度も実施できない状況であった。

また、展示解説員は来館者に展示を解説・案内することが第一の役割であるが、定数減により展示解説員 1 人に対応しなければならないエリアが広がった関係で十

分な解説活動ができない場合が少なくなく、最低限の監視業務を行うので精一杯の状況であることが多かった。きめ細やかな展示解説活動をはじめとしたより質の高い行政サービスを保障するために、展示解説員に対する研修を実施するなど、質的向上に向けた努力を行っているが、展示解説員の人数不足という量的課題については、引き続き検討をしていく必要がある。

展示解説員の業務は、総合ガイダンスと名付けられた受付での来館者への対応をはじめとして展示や館内の業務をよく知っている職員でなければ担当できない内容がほとんどである。現在の減員状況の中でどうにか対応している状況であるが、現在の定数では通常業務を実施する上では限界の状態であり、来館者への解説サービスを考えた場合、定数増が図られなければ、本来の業務にも支障を来す可能性が出てくる。

(ア) けんぱくハイライトツアー

展示解説員による常設展の定時解説で、平成 28 年度に開館 30 周年記念行事としてそれまで実施していた「やさしい展示解説会」をリニューアルさせたものである。原則的に他の行事の入っていない土曜と日曜日・祝日の午前 11 時、午後 2 時の 2 回開催を基本に実施している。1 回の所要時間は約 30 分。各解説員が独自の解説ルートを開発し、それぞれ展示解説員ごとのテーマで解説会を実施している。今年度の「けんぱくハイライトツアー」は 5 月 3 日から 3 月 25 日の期間実施した。

＜実施状況＞ 実施日数：67 日

総参加人数：335 人

(イ) 通し解説

不定期的に行われる常設展・企画展の解説。主として来館の個人・団体の要望に応じて展示解説員 1 名が全体を解説するもの。解説員の減員のため、通し解説は困難になってきているが、予約の団体の要望にこたえる形で実施してきていることが多い。

実施回数：11 回

(ウ) 部屋送り解説

不定期的常設展・企画展の解説。主として来館する個人の要望に応じ、各展示室の担当として立っている解説員が順に引き継いで解説する。

実施回数：19 回

(エ) 体験講座

体験講座などの解説員が主体となって実施する講座は、解説員業務に比して人数が少ないために平成 29 年度も実施されなかった。

ただし、七夕の時期には竹飾り、クリスマスには手製のクリスマスツリー、小正月に合わせての団子飾り、ひな祭りの時期に自作の雛人形の段飾りなど、解説員が自分たちで作ったものを体験学習室内に展示することは継続している。

また、ゴールデンウィークを中心に時代衣装の試着体験に加え、期間限定で甲冑の試着体験も行うなど、体験

的な活動の充実を図っている。

イ 学芸員

企画展および特集展の開催中は展示解説のために職員を配置する場が増えることになり、展示解説員だけでは解説員の昼休みや休憩時間の減員に対応できない状況であるため、学芸員が代わって展示室に立つことになっている。原則1コマ45分である。29年度は年間で475回を数えた。学芸員が展示室に立つことは単なる解説員の肩代わりではなく、実際に展示室に立つことにより得るもの、気づくものが多かったが、通常業務とのバランスの点で今後の検討が必要である。

また、企画展、テーマ展、特集展については、公民館、研究団体などからの依頼に応じて、担当分野の学芸員が展示解説を実施した。

ウ 展示解説のための資料等

(ア) 『今月のおすすめ』

展示室見学の参考とするため、常設展示総合展示室(A～F)の各部屋から月別に1点ずつおすすめ資料を選定し、資料に関するキャッチコピーと簡単な紹介を展示室内の表示と常設展入り口にデジタルフォトフレームによる表示を行っている。月別に紹介する資料が変わり、見学するポイントが分かることから、常設展示に対する観覧者の興味・関心を高めることに役立っている。

(イ) 福島県立博物館ガイドブック

常設展の展示内容をコンパクトに解説したもの(28ページ)で、館活動についても紹介している。昭和61年に発行され、一部改訂をしながら観覧補助資料として有償配布している。

(ウ) Fukushima Museum Permanent Exhibition Guide Book

ガイドブックを要約した英文の展示解説パンフレット(14ページ)で、平成18年に発行され、一部改訂を行いながら観覧補助資料として、希望する来館者に無償配布している。

(7) 体験学習室

エントランスホール隣に設置してある無料で使用できる場所。囲炉裏のついた畳敷きの座敷と木のフローリングの部分がある。昔のおもちゃが用意されていて、自由に遊べるほか、季節ごとに昔の着物を着ることができる。着付けは衣服の上からだがかなり本格的で好評を得ている。また、資料に触れるハンズオンコーナーは半年ごとの入れ替えになっている。この部屋には展示解説員が常駐し来館者に対応している。

ア 衣装

(ア) 衣装着付け

体験学習室で時代衣装の着付け体験を行っている。着衣のままその上に着る形ではあるが、かなり本格的な衣装着付けであり、展示解説員は着付けの技術をきちんと学ばなければならないし、一回の時間もかかる。しかし、他の博物館ではここまできちんと着つけることはそれ

ほど多くはないと思われ、当館の体験学習室のセールス・ポイントでもある。

a 衣装着付け件数 499件

b 着付けた衣装

春：打掛・番具足

夏：水干・半袴

秋：壺装束・武士旅姿

冬：白拍子・山伏

衣装の着付けはかなり本格的なものなので、そのため解説員の研修時間も長くなり、多人数の要望には一度に応え難い面もある。しかし、着終わった姿を鏡に映したり、デジカメで撮影したりして満足する来館者が多く見られる。

(イ) 衣装展示

春：小直衣・十二単

夏：大鎧・稚児鎧

秋：町人旅姿・南蛮装束

冬：推古朝朝服・天武朝女官朝服

イ 手作り資料展示

季節に関する手作りの資料を展示した。製作は展示解説員が担当。

7月：七夕飾り / 12月：クリスマスツリー /

1月：団子さし / 3月：手作り雛人形

ウ おもちゃ

畳の上で幼児におもちゃで遊ばせるお母さんや家族連れが多くみられる。壁の引き出しに用意されているおもちゃの利用も多い。修理を必要とするおもちゃもあり、解説員の係で担当している。

おもちゃの修理：39件

エ ハンズオンコーナー

来館者が展示品を実際に手に取り使用法を体験できるコーナー。春と秋は、企画展に関連した資料を展示した。

平成29年4月～平成29年6月

「漆器の工程」(美術分野)

平成29年7月～平成29年9月

「蚊帳体験」(民俗分野)

平成29年10月～平成29年12月

「古代の土器にさわってみよう」(考古分野)

平成29年12月～平成30年3月

「雪国のはきもの・かぶりもの」(民俗分野)

(8) リニューアルの検討

リニューアルに向けて、調査・研究を行うためにリニューアル推進チームを設置して活動した。会議は通年で18回実施し、下記の内容について協議した。

ア リニューアル基本構想原案の作成・検討

イ 検討委員会の設置など次年度以後の事業について検討
今年度は、チームで基本構想原案を作成し、館内で協議・検討しながら、よりよい基本構想案の形に整えてゆく作業を進めた。

5 調査研究事業

(1) 展示資料調査研究

将来の博物館リニューアルに向けて、新たな研究成果と展示資料の収集のため、考古・歴史・民俗・美術・自然・保存の各分野がテーマを設定して調査を実施している。また分野合同での研究テーマも設定し、併せて調査研究を進めている。平成 29 年度は、以下の 7 テーマの調査を実施した。

ア 山口弥一郎調査資料の研究

(ア) 分野 民俗

(イ) 趣旨

山口弥一郎(1902-2000)は旧・新鶴村に生まれ、東北の地理学・民俗学研究に多大な業績を残した。近年では東日本大震災を経て著書『津浪と村』(1943 年刊)が復刊され、津波災害と集落移動に関する研究が全国的に注目を集めている。しかし、磐梯山慧日寺資料館(磐梯町)に一括して収蔵されている山口が残した調査ノートや写真、蔵書などは、体系的な整理や目録作成にまで至っていない。本研究では磐梯町の協力のもと、同資料の整理・調査を進めることで、山口弥一郎の調査研究を見直し、人文科学的側面からの災害研究の新しい方向性を探っていく。

(ウ) 調査概要

磐梯町と福島県立博物館で取り交わした協約書にもとづいて資料の整理を進めた。調査ノートや文書類について標題・年代等を目録化し、写真撮影等を行った。また早くから当該資料の調査を行い、また研究者資料アーカイブについても実績のある辻本侑生氏(浜銀総合研究所研究員)に指導を依頼し、助言を仰いだ。

イ 考古資料による原始・古代の画期の再検討

(ア) 分野 考古

(イ) 趣旨

I 縄文時代後半期から弥生時代初頭と II 古墳時代終末期から奈良時代(6世紀末～8世紀)の2つの時期を取り上げ、当館収蔵の当該期の考古資料を中心に引き上げ、資料の有する社会的背景を考察し、本県における原始・古代の時代変遷の画期を検討し考古地域史の確立を目指すものである。

(ウ) 調査概要

縄文時代では、「複式炉文化の再検討」として昨年度抽出した南相馬市東町遺跡の複式炉土壌サンプル内の炭化種実同定を行った。結果は、オニグルミが主体でこれにクルミが伴う状況が明らかになった。「福島県内出土古人骨の研究」では、南相馬市宮田貝塚及び浦尻貝塚出土古人骨の年代測定を東京大学と共同研究として実施し、同位体分析の成果を年代軸で検討する準備を整えた。また手計測の実測が困難な荒屋敷遺跡出土編組製品と原山古墳出土埴輪のデジタル写真計測による図化を行った。

ウ 福島県産中生代軟体動物化石の研究

(ア) 分野 自然

(イ) 趣旨

福島県内には相馬地方にジュラ系相馬中村層群、いわき地方に白亜系双葉層群という中生代の地層が分布している。これらの地層からはアンモナイトや二枚貝や巻貝といった軟体動物化石を豊富に産することが知られ、特に近年は地元の化石収集家の努力によって多くの標本が発見されてきた。

しかし、これらの標本については鑑定が不十分なものもあり、論文などで発表されていないものも多い。そこで、これらの中生代軟体動物化石について鑑定内容を確認した上で成果を論文として記録・公表し、当館所蔵標本を充実させることを目指す。また、新たに追加した標本を展示する機会を設け、さらなる標本の発見・評価につなげる。

(ウ) 調査概要

相馬地方のジュラ系相馬中村層群の化石産地について現地調査を行った。現地調査の際には、特に巻貝の産状を確認、採取した。福島県立博物館に所蔵されている巻貝化石について鑑定作業を行った。いわき地方の白亜系双葉層群から新たに発見したアンモナイト化石について紀要で報告した。

エ 戊辰戦争資料の研究

(ア) 分野 歴史

(イ) 趣旨

平成 30 年に戊辰戦争から 150 年の節目をむかえる。戦争の激戦地となり、日本の歴史が転換する舞台となった本県でも、改めて戊辰戦争の意義について問い直す必要がある。そのため戦争の経過及び戦後の復興過程までを対象として3年計画で資料調査を進め、新たな資料の発掘を行い、3年目の平成 30 年には調査成果を盛り込んだ企画展の開催を目指す。

(ウ) 調査概要

研究の2年目となる本年は、戦争の勝敗を分けたいわゆる錦旗の調査、新政府側の分捕品として伝来した会津藩旗の調査、奥羽列藩同盟側の政権構想を示す新資料、籠城戦の最中のようなすを記した貴重な絵画資料などの調査を行った。いずれも平成 30 年度の当館企画展への出品依頼をあわせて行った。

オ 会津の三十三観音めぐりの調査研究

(ア) 分野 美術・民俗

(イ) 趣旨

会津の三十三観音めぐりは、近世以降、女性を中心に連綿と行われてきた。仏教信仰のみならず、観音講におけるコミュニティ形成や御詠歌など多様な要素を含む非常に重要な文化と言える。その一方で、参加人口の減少などにより、継承が危惧されてもいる。本調査研究では、聞き取り調査等を実施し、会津の信仰文化・民俗を掘り下げ、地域の文化の新たな見直し・活用を目指す。

(ウ) 調査概要

会津の三十三観音を構成する観音堂を実際にめぐり、各観音堂の歴史や地域において果たしてきた役割等について現地調査を行った。また、三十三観音めぐり経験者に、観音講の運営や観音めぐりの実施方法等について聞き取り調査を行った。

カ 災害史の学際的研究と災害史展示の構築

(ア) 分野 震災遺産保全チーム

(イ) 趣旨

東日本大震災の発生以来、災害史の研究はこれまで以上に盛んに行われるようになった。これまで当館では、慶長大地震や磐梯山噴火などに関する資料の収集や会津藩の社倉制の研究、山口弥一郎資料の研究など多様な災害に関わる調査研究を進めてきたが、いずれも個々の分野が断片的に行ってきた活動であった。東日本大震災や原発事故のような大規模災害の経験を後世に語り継いでいくためには、自然史や歴史、民俗、考古、保存科学等の分野が総合的に資料を調査研究していく必要があり、また学際的な見地から歴史上の災害を整理し直し、資料調査を進めたうえで展示に反映していくことも求められる。本研究では東日本大震災と災害史に関する資料の収集や調査研究を分野横断的なチームで進め、将来的な常設展示のリニューアルにおいてそれらを福島県の歴史として位置づけることを目指す。

(ウ) 調査概要

本年度は主に東日本大震災に関連する資料の保全と、それを特集展に反映するための調査研究を進めた。具体的には南相馬市における津波堆積物の剥ぎ取り標本の製作や、原発事故により置き去りにされた牛が餌代わりに齧った木柱のレプリカ製作などを進めた。いずれも自然史や民俗学・考古学的手法による調査と、保存科学的な手法を用いた資料保全であった。さらにこれらの一部を特集展「震災遺産を考える―災害の歴史と東日本大震災―」に展示した。

キ 古墳出土金属製品の現代保存修復と展示公開

(ア) 分野 保存科学分野

(イ) 趣旨

発掘調査で出土した金属製品は、歴史上、過去の社会・経済・産業・流通などを考える上で貴重な資料であり、博物館等の収蔵施設での保存・展示のために、クリーニング、埋没環境下で進行した腐食の安定化(脱塩処理)、形態を保つための樹脂含浸、破片の復元等の一連のプロセス(保存処理)が要求される。保存処理の後には、温度、湿度、空気質(金属の腐食促進ガス、塵埃等)、照明等の環境を適切に構築することによって、保存処理の効果が持続する。

維持管理において、適切な環境構築手法を検討する。

(ウ) 調査概要

本年度は、福島市梅本古墳出土象嵌刀装具の保存修復、福島県立博物館展示室における金属腐食ガスの実態を把握するため、パッシブインジケーターを用いて半定量分析した。

(2) その他の調査研究事業

ア 古文書整理事業

古文書類の調査・研究は、福島県の歴史をさぐるために欠かせない。しかし古文書を歴史資料として活用するためには、1点ずつ整理を行い、表題・年代・形態・法量・状態などのデータを採取した上で、博物館資料として登録する必要がある。このため、購入・寄贈・寄託などにより当館で受け入れた古文書の整理・登録作業を行っている。また古文書原本を状態よく保存し後世に伝えていくため、古文書をマイクロ撮影し、原本のかわりに閲覧用に提供している。

平成29年度は、前年度に引き続き斎藤美恵子家寄託資料(会津藩士篠澤家文書)および安斎勇雄コレクションの整理を継続して実施したほか、新たに浅羽興一家寄贈資料、本田徳壽家寄託資料、本田信英家寄託資料の整理を行った。また整理済みで未登録であった久米幹男家寄贈資料(絵はがき類)と松崎達夫家寄贈資料(若松城下菓種問屋資料)の一部を登録し、登録済みだが未公開であった田中野狐禅コレクションの公開も併せて行った。マイクロ撮影は、前年度に引き続き「築田家追加寄託資料」の撮影を行った。

(3) 職員の研究活動

ア 研究成果の公表(職員の氏名あいうえお順)

(ア) 印刷物(単行本・自治体史・図録・報告書・紀要・学術雑誌)

相田優・猪瀬弘瑛・香内修・竹谷陽二郎 2017.7 福島県立博物館企画展図録『ふくしま 5億年の自然史』88p. 福島県立博物館

荒木隆・高橋満・田中敏・藤原妃敏・森幸彦 2017.10 福島県立博物館企画展図録『発掘ふくしま4』福島県立博物館

荒木隆 2018.3 「学校支援を中核とした博物館における多様な社会教育活動の実践と展望―学校・博物館・地域・市町村教育委員会の連携を模索して―」『福島県立博物館紀要』第32号 p. 1-32 福島県立博物館

荒木隆 2018.3 「平安時代の山林寺院に表された神仏習合の姿―史跡流廃寺後の仏堂・社殿遺構から検証する―」『福島県立博物館紀要』第32号 p. 33-62 福島県立博物館

荒木隆 2018.3 「江戸時代交通路からみた南奥州の諸藩配置の意味―南奥州における幕府支配体制確立期における丹羽家の役割―」『福島県立博物館紀要』第32号 p. 63-82 福島県立博物館

J. Tazawa, H. Inose and N. Kaneko 2017.8 「*Cyrtospirifer ainosawensis* sp. nov., from the Upper Devonian Ainosawa Formation, Soma, Abukuma Mountains, northeastern Japan」『地質学雑誌』第123巻 p. 653-656 日本地質学会

猪瀬弘瑛 2018.3 「福島県いわき市の上部白亜系双葉層群足沢層大久川部層から産出したアンモナイト

Yezoites perrini (Anderson, 1902) 『福島県立博物館紀要』第32号 p. 93-96 福島県立博物館

内山大介 2018.1「博物館資料としての『震災遺産』—場所・モノ・物語の継承のために—」ふくしま歴史資料保存ネットワーク事務局編『ふくしまの未来へつなぐ、伝える シンポジウム記録集◆2017』p. 21-26

内山大介 2018.2「博物館における『民俗分野』の位置—震災を起点とした活動から—」『日本民俗学』第293号 p. 146-151 日本民俗学会

内山大介 2018.3『会津の御田植祭』（共著）会津の御田植祭調査委員会

内山大介 2018.3『間々田のジャガマイタ調査報告書』（共著）小山市教育委員会

内山大介 2018.3「民俗資料の保全をめぐる限界と可能性—福島県における民具の救出を事例に—」西村慎太郎編『新しい地域文化研究の可能性を求めて』Vol. 5 地域歴史資料救出の先へ（人間文化研究機構広領域連携型基幹研究プロジェクト「日本列島における地域社会変貌・災害からの地域文化の再構築」ブックレット）p. 8-19

内山大介 2018.3「福島県における震災・原発被災と博物館活動—文化財の救出から『震災遺産』の保全へ—」科学研究費補助金基盤研究（S）「災害文化形成を担う地域歴史資料学の確立—東日本大震災を踏まえて」研究グループ編『被災地フォーラム新潟2017報告書』p. 16-19

内山大介 2018.3「展示批評 千葉県立関宿城博物館『鯛は弱いが役に立つ—肥料の王様 干鯛—』」『民具研究』第157号 p. 91-94 日本民具学会

内山大介 2018.3「書評 中原正男『白河踊り—奥州白河からふるさとへ伝えた盆踊り』」『福島の民俗』第46号 p. 90-91 福島県民俗学会

大里正樹 2017.9「第3章 衣食住 2 食生活」『野田市民俗調査報告書 10 二川・関宿地区の民俗』pp. 81-97 野田市

大里正樹 2017.9「第4章 人生儀礼 4 葬送」『野田市民俗調査報告書 10 二川・関宿地区の民俗』pp. 52-65 野田市

大里正樹 2018.3「郷友会の存続と村落社会—沖縄県内の郷友会数調査から—」古家信平編『現代民俗学のフィールド』p. 259-273 吉川弘文館

大里正樹 2018.3「書評 鈴木節子『どごんわらしえ—故郷福島県「正直」の言葉』」『福島の民俗』第46号 p. 91-92 福島県民俗学会

Motoyama, I., Itaki, T., Kamikuri, S., Taketani, Y. and Okada, M. 2017.10 Cenozoic biostratigraphy, chronostratigraphy and paleoceanography in the Boso Peninsula and Bandai Volcano in the Aizu region, East Japan. (InterRad XV in Niigata 2017 Excursion Guide). *Sci. Rep., Niigata Univ. (Geology)*,

no. 32 (Supplement), p. 1-27.

高橋充 2018.3「郡山陣中からの伊達政宗書状」『南奥中世史への挑戦』p. 76-85 福島県中世史研究会

高橋充 2018.3「墨書のある部材について」『名勝会津松平氏庭園御茶屋御殿修理工事報告書』p. 70-80 会津若松市教育委員会

時枝務・高橋充 2018.3「信夫山頂遺跡出土品の研究（6）」『福島県立博物館紀要』第32号 p. 83-92 福島県立博物館

高橋 満 2017.9「縄文時代土器製塩研究の展開と課題」『縄文の塩—土器製塩の技術と展開—シンポジウム予稿集』p. 1-8

(イ) 学会発表

安藤佑介・御前明洋・猪瀬弘瑛・服部創紀・古野竹志・森木和則・疋田吉識・嶋田智恵子・加藤久佳 2017.6「道北地域の白亜系および新第三系から産出した十脚類化石の追加記録」日本古生物学会 2017年年会 於北九州市立自然史・歴史博物館

内山大介 2017.6.17「博物館資料としての『震災遺産』—場所・モノ・物語の継承のために—」シンポジウム「ふくしまの未来へつなぐ、伝える—歴史・文化・震災遺産の保全と活用の今—」ふくしま歴史資料保存ネットワーク主催 於 郡山市民プラザ

内山大介 2017.9.2「民俗資料の保全をめぐる限界と可能性—福島県における民具の救出を事例に—」シンポジウム「地域歴史資料救出の先へ」人間文化研究機構広領域型基幹研究プロジェクト国文学研究資料館ユニット「人命環境アーカイブズの過去・現在・未来に関する双方向的研究」主催 於 いわき市文化センター

内山大介 2017.10.13「東北における傘と吊るし物の奉納習俗—会津と庄内の比較から—」第4回山鉾屋台研究会 於 京都市職員会館かもがわ

内山大介 2017.10.15「奉納物としてのカサボコー 観音・地藏信仰と吊るし物の民俗—」（グループ発表「祭礼・行事の傘・鉾・傘ブク」）日本民俗学会 第69回年会 於 佛教大学

内山大介 2017.12.2「福島県における震災・原発被災と博物館活動—文化財の救出から『震災遺産』の保全へ—」シンポジウム「被災地フォーラム新潟」科学研究費基盤研究（S）「災害文化形成を担う地域歴史資料学の確立—東日本大震災を踏まえて」、新潟大学災害・復興科学研究所 地震・火山噴火予知研究協議会史料・考古部会「日本海沿岸地域を中心とした地震・火山噴火災害関連史料の収集と分析」研究グループ主催 於 新潟大学

大里正樹 2017.10.15「行事の継承におけるコスト—福島県郡山市『笹川のあばれ地藏保存会』の事例—」日本民俗学会 第69回年会 於 佛教大学

杉崎佐保恵・高橋 満・松田隆嗣 2017.6「象嵌線

に潜む古墳時代の象嵌技法の顕在化」 日本文化財科学会第34回大会 於東北芸術工科大学

杉崎佐保恵・高橋 満・松田隆嗣 2017.6 「象嵌線の観察から導く古墳時代の象嵌技法」 文化財科保存修復学会第39回大会 於金沢歌舞伎座

高橋 充 2017.11 「馬の流通からみた戦国期奥羽の城下町」 城下町科研総括シンポジウムⅡ 於大阪市立大学(科学研究費助成事業「中世・近世移行期における守護所・城下町の総合的研究」)

高橋 満 2017.6 「東日本大震災と博物館－福島県立博物館の取組み－」文化庁第10回指定文化財(美術工芸品)企画・展示セミナー 於東京国立博物館

高橋 満 2017.10 「縄文時代土器製塩研究の展開と課題」明治大学資源利用史研究クラスター研究成果公開シンポジウム「縄文の塩－土器製塩の技術と展開－」於明治大学

安藤佑介・御前明洋・猪瀬弘瑛・服部創紀・古野竹志・森木和則・疋田吉識・嶋田智恵子・加藤久佳 2017.6 「道北地域の白亜系および新第三系から産出した十脚類化石の追加記録」 日本古生物学会 2017年年会 於北九州市立自然史・歴史博物館

Taketani, Y. 2017.10 Lowermost Cretaceous radiolarian assemblage from the South Kitakami Terrane, Northeast Japan. InterRad XV in Niigata 2017, General Symposium Session 19(Poster) (第15回国際放散虫研究集会 ポスター発表)

イ 他団体による委嘱等

阿部綾子：青森県史編さん調査研究員 青森県

阿部綾子：相馬市史編さん調査執筆員 相馬市教育委員会

阿部綾子：郡山市文化財保護審議委員

荒木 隆：会津坂下町史編さん委員 会津坂下町教育委員会

荒木 隆：堂後遺跡及び勝常寺跡調査指導委員会委員 湯川村教育委員会

猪瀬弘瑛：ふくしまサイエンスぶらっとフォーム連携コーディネーター

内山大介：共同研究員 共同研究「地域における歴史文化研究拠点の構築」国立歴史民俗博物館

内山大介：非常勤講師 福島県立医科大学医学部

内山大介：評議員 日本民具学会

内山大介：委員 第42回日本民具学会大会実行委員会

内山大介：副委員長 会津の御田植祭調査委員会

内山大介：三島町史編さん専門委員 三島町教育委員会

内山大介：会津坂下町史編さん専門委員 会津坂下町教育委員会

内山大介：委員 郡山市文化財保護審議委員会

内山大介：事務局 福島県民俗学会

内山大介：委員 小山市国選択無形民俗文化財間々田のジャガマイタ調査委員会

大里正樹：研究協力者 科研費基盤研究(C)「民俗文化の継承におけるコストとモチベーションに関する基礎的研究」聖徳大学

大里正樹：三島町史編さん専門委員 三島町教育委員会

大里正樹：会津坂下町史編さん専門委員 会津坂下町教育委員会

大里正樹：福島県民俗学会事務局 福島県民俗学会

大里正樹：野田市史編さん調査研究員 野田市

川延安直：喜多方市美術館収集委員会委員 喜多方市教育委員会

川延安直：「ふるさとの風景展」審査員 喜多方市美術館

川延安直：いわき市文化財保護審議委員会委員 いわき市教育委員会

川延安直：須賀川市文化財保護審議委員会委員 須賀川市教育委員会

川延安直：白河市文化財保護審議委員会委員 白河市教育委員会

川延安直：福島県文学賞エッセー・ノンフィクション部門審査委員

川延安直：福島大学芸術による地域創造研究所研究員 福島大学

川延安直：やないづ町立斎藤清美術館運営協議会委員

小林めぐみ：福島芸術計画×Art Support TOHOKU-TO KYO 運営委員会委員 福島県、東京都

小林めぐみ：会津漆器技術後継者訓練校講師 会津漆器協同組合

小林めぐみ：やないづ町立斎藤清美術館運営協議会委員 柳津町

小林めぐみ：会津若松市文化のまちづくり事業委員会委員 公益財団法人会津若松文化振興財団

小林めぐみ：只見町ユネスコエコパーク支援委員会委員 只見町ユネスコエコパーク推進協議会

小林めぐみ：福島大学芸術による地域創造研究所研究員 福島大学

小林めぐみ：調査委員会委員 会津の御田植祭調査委員会

小林めぐみ：会津坂下町史編さん委員 会津坂下町教育委員会

小林めぐみ：西会津町歴史文化基本構想等策定委員会委員 西会津町

佐藤洋一：南会津町伝統的建造物群保存地区保存審議会委員

佐藤洋一：共同研究「『聆涛閣集古帖』の総合資料学的研究」共同研究員 国立歴史民俗博物館

高橋 充：二本松城跡整備検討委員会委員 二本松市教育委員会

高橋 充：向羽黒山城跡調査整備委員会委員 会津美里町教育委員会

高橋 充：相馬市史編さん専門委員 相馬市教育委員会

高橋 充：会津藩主松平家墓所及び名勝会津松平氏庭園整備指導会議委員 会津若松市教育委員会

高橋 充：阿津賀志山防塁調査・整備指導委員会委員
国見町教育委員会

高橋 充：伊達市宮脇廃寺跡保存管理計画策定委員会
委員 伊達市教育委員会

高橋 充：伊達市立博物館（仮称）整備検討委員会委
員 伊達市教育委員会

高橋 充：棚倉城跡調査指導委員会委員 棚倉町教育
委員会

高橋 充：会津坂下町史編さん委員会委員 会津坂下町

高橋 充：北塩原村城館等保存・整備・活用検討委員
会委員 北塩原村教育委員会

高橋 充：小峰城跡石垣検討委員会委員 白河市

高橋 充：堂後遺跡及び勝常寺跡調査指導委員会委員
湯川村教育委員会

高橋 充：日本学術振興会「中世・近世移行期における
守護所・城下町の総合的研究」大阪市立大学

高橋 充：医学部講義「芸術と文化（博物館からみた
地域文化）」福島県立医科大学

高橋 充：只見町教育振興基本計画検討委員会委員
只見町教育委員会

高橋 満：会津坂下町史編さん委員 会津坂下町教育委
員会

高橋 満：「日本先史文化の多視点的研究」研究推進員
明治大学

高橋 満：富岡町アーカイブ施設検討町民会議委員（会
長） 富岡町

高橋 満：富岡町アーカイブ施設整備識者検討部会委員
富岡町

竹谷陽二郎：原町市史編さん専門委員 相馬市教育委
員会

竹谷陽二郎：南相馬市博物館協議会委員 南相馬市博
物館

竹谷陽二郎：南相馬市博物館「小高の自然」調査員 南
相馬市博物館

竹谷陽二郎：磐梯山ジオパーク協議会運営委員長 磐
梯山ジオパーク協議会

竹谷陽二郎：ジオパーク支援委員 日本地質学会

竹谷陽二郎：ふくしまサイエンスぶらっとフォーム運
営協議委員

竹谷陽二郎：サポートセンター員 福島大学うつくし
まふくしま未来支援センター

田中 敏：会津坂下町史編さん委員 会津坂下町教育
委員会

田中 敏：郷土研究奨励賞選考委員 会津若松市教育
委員会

田中 敏：喜多方市立美術館運営協議会委員 喜多方
市教育委員会

藤原妃敏：会津若松市文化財保護審議委員 会津若松
市教育委員会

藤原妃敏：原町市史編さん専門研究委員 南相馬市教
育委員会

藤原妃敏：新鶴民俗資料館運営委員 会津美里町教育
委員会

藤原妃敏：喜多方市文化財保護審議委員会委員 喜多
方市教育委員会

藤原妃敏：笹山原No.16 遺跡調査指導委員 郡山女子短
期大学

藤原妃敏：福島県考古学会副会長 福島県考古学会

藤原妃敏：南相馬市博物館運営協議会委員 南相馬市
博物館

藤原妃敏：会津坂下町史編さん委員 会津坂下町教育
委員会

森 幸彦：福島県の森林文化に係わる調査検討委員会委
員 福島県森林計画課

6 教育普及事業

(1) 講座・講演会

当館では館長と学芸員による各種講座を開催しているが、そのほかにも、外部に講師を依頼しさまざまな講座・講演会等を実施している。また、新規事業として「子育て世代対応支援事業」を立ち上げた。平成29年度の各講座開催数は154、総参加者数は9,905人であった。

前年度（平成28年度）の開催回数は120回で今年度は34回多かった。総参加者数は前年度8,229人で、1,676人の増加、前年比120%であった。次頁は個別講座・講演等の一覧である。

テ ー マ	回数	参加者数
(1) 館長講座	12	721
(2) 考古学講座	22	403
(3) 民俗講座	4	103
(4) 歴史講座	8	842
(5) 自然史講座	3	91
(6) 保存科学講座	1	6
(7) 美術講座	3	107
(8) ギャラリートーク	8	162

テ ー マ	回数	参加者数
(9) 指導者向け研修	1	8
(10) 実技講座	5	32
(11) 実演	2	44
(12) 企画展関連行事（記念講演・シンポジウム・講座・展示解説会等）	34	1,049
(13) ミュージアムイベント	9	1,370
(14) 子育て世代対応事業	14	2262
(15) 共催事業	10	913
(16) 後援事業	12	1232
(17) 企画展・特集展内覧会（友の会）	7	558
(18) 復興応援パートナー事業	2	208
計	157	10,111

平成 29 年度講座・講演会等行事一覧

ア 館長講座

テ ー マ	講師・所属等	期 日	参加人数
『北のはやり歌』①「リンゴの唄」	赤坂憲雄（館長）	4月20日（木）	56
『北のはやり歌』②「北上夜曲」	赤坂憲雄（館長）	5月18日（木）	59
『北のはやり歌』③「北帰行」	赤坂憲雄（館長）	6月15日（木）	57
『北のはやり歌』④「ああ上野駅」	赤坂憲雄（館長）	7月20日（木）	70
『北のはやり歌』⑤「港町ブルース」	赤坂憲雄（館長）	8月17日（木）	65
『北のはやり歌』⑥「浜屋顔」	赤坂憲雄（館長）	9月21日（木）	49
『北のはやり歌』⑦「北国の春」	赤坂憲雄（館長）	10月19日（木）	52
『北のはやり歌』⑧「津軽海峡・冬景色」	赤坂憲雄（館長）	11月16日（木）	42
『北のはやり歌』⑨「俺ら東京さ行ぐだ」	赤坂憲雄（館長）	12月21日（木）	60
『北のはやり歌』⑩「みだれ髪」	赤坂憲雄（館長）	1月18日（木）	80
『東日本大震災を考える』① クロストーク「語りがたきものに触れて」	赤坂憲雄（館長） 久保田翠（クリエイティブサポートレッツ理事長） 小松理虔（ヘキレキ舎主宰）	2月15日（木）	56
『東日本大震災を考える』② 対談「歌と能一鎮魂はいかにして可能か」	赤坂憲雄（館長）・笠井賢一（演出家）	3月15日（木）	75

イ 考古学講座

テ ー マ	講師・所属等	期 日	参加人数
ハニワ大王の講談スーパー古事記1	荒木隆（学芸員）	4月16日（日）	16
「パワーアップ サロンド 考古学 1」	荒木隆（学芸員）	4月22日（土）	12
ハニワ大王の講談スーパー古事記2	荒木隆（学芸員）	5月21日（日）	19
「パワーアップ サロンド 考古学 2」	荒木隆（学芸員）	5月27日（土）	10
ハニワ大王の講談スーパー古事記3	荒木隆（学芸員）	6月18日（日）	19
「パワーアップ サロンド 考古学 3」	荒木隆（学芸員）	6月24日（土）	10
ハニワ大王の講談スーパー古事記4	荒木隆（学芸員）	7月16日（日）	32
「パワーアップ サロンド 考古学 4」	荒木隆（学芸員）	7月22日（土）	8
「縄文土器を作ろう！①」	森幸彦（学芸員）	8月5日（土）	11
「縄文土器を作ろう！②」	森幸彦（学芸員）	8月6日（日）	11
ハニワ大王の講談スーパー古事記5	荒木隆（学芸員）	8月20日（日）	22

テ ー マ	講師・所属等	期 日	参加人数
「パワーアップ サロンド 考古学 5」	荒木隆 (学芸員)	8月26日(土)	20
ハニワ大王の講談スーパー古事記6	荒木隆 (学芸員)	9月17日(日)	10
「出張 パワーアップ サロンド 考古学 i n 会津まつり」	荒木隆 (学芸員)	9月24日(日)	25
「縄文土器の野焼き」	森幸彦 (学芸員)	10月15日(日)	11
ハニワ大王の講談スーパー古事記7	荒木隆 (学芸員)	10月15日(日)	10
「交通路からみた幕藩体制確立期における丹羽氏の役割」	荒木隆 (学芸員)	10月22日(日)	17
「パワーアップ サロンド 考古学7」	荒木隆 (学芸員)	10月28日(土)	10
ハニワ大王の講談スーパー古事記8	荒木隆 (学芸員)	11月19日(日)	32
「パワーアップ サロンド 考古学8」	荒木隆 (学芸員)	11月25日(土)	10
「縄文と弥生」	田中敏・森幸彦 (学芸員)	3月10日(土)	68
「勾玉・ガラス玉を作ろう」	高橋満 (学芸員)	3月24日(土)	20

ウ 民俗講座

テ ー マ	講師・所属等	期 日	参加人数
おもしろ民俗学ゼミナール1 「どうして玄関では靴を脱ぐの? -住まいと暮らしの民俗入門-」	内山大介 (学芸員)	5月27日(土)	34
おもしろ民俗学ゼミナール2 「昔はみんなお見合い結婚だったの? -家族と結婚の民俗入門-」	大里正樹 (学芸員)	7月1日(土)	10
おもしろ民俗学ゼミナール3 「なぜ七・五・三にお祝いをするの? -子供と成長祈願の民俗入門-」	山口拓 (学芸員)	11月4日(土)	21
おもしろ民俗学ゼミナール4 「大正月と小正月はどうちがうの? -暦と行事の民俗入門-」	江川トヨ子 (学芸員)	1月13日(土)	38

エ 歴史講座

テ ー マ	講師・所属等	期 日	参加人数
はじめてさんの古文書講座①	阿部綾子 (学芸員)	6月17日(土)	32
はじめてさんの古文書講座②	高橋充 (学芸員)	7月15日(土)	31
はじめてさんの古文書講座③	栗原祐斗 (学芸員)	8月19日(土)	30
史料でよむ戊辰戦争 第1回「会津藩雪辱の書～渋谷源蔵「雪冤一弁」をよむ～」	阿部綾子 (学芸員)	9月16日(土)	150
史料でよむ戊辰戦争 第2回「戦場・会津の7日間～「酒井安右衛門覚書」をよむ～」	高橋充 (学芸員)	10月21日(土)	156
史料でよむ戊辰戦争 第3回「民政局とは何か?～築田家文書「公用簿籍」をよむ～」	田中伸一 (学芸員)	11月18日(土)	151
史料でよむ戊辰戦争 第4回「県庁文書にみる戦後の会津～若松県「日誌」をよむ～」	栗原祐斗 (学芸員)	12月16日(土)	117
史料でよむ戊辰戦争 第5回「新島八重の回顧談～「男装して会津城に入りたる当時の苦心」をよむ～」	佐藤洋一 (学芸員)	1月20日(土)	175

オ 自然史講座

テ ー マ	講師・所属等	期 日	参加人数
野外講座「化石をさがそう」	相田優 (学芸員)	10月7日(土)	40
実技講座「化石標本をつくろう」	香内修 (学芸員)	10月8日(日)	36
野外講座「鶴ヶ城の野鳥」	古川裕司 (野鳥研究家)	11月12日(日)	15

カ 保存科学講座

テ ー マ	講師・所属等	期 日	参加人数
「犯人はおまえだ！—原因を見極めて博物館資料の寿命を延ばす—」	杉崎佐保恵（学芸員）	4月22日（土）	6

キ 美術講座

テ ー マ	講師・所属等	期 日	参加人数
「仏像のキホン①」	塚本麻衣子（学芸員）	8月11日（金・祝）	38
「仏像のキホン②」	塚本麻衣子（学芸員）	8月25日（金）	33
「仏像のキホン③」	塚本麻衣子（学芸員）	9月8日（金）	36

ク ギャラリートーク

テ ー マ	講師・所属等	期 日	参加人数
ハニワ大王のさわってギャラリー1	荒木隆（学芸員）	4月2日（日）	36
ハニワ大王のさわってギャラリー2	荒木隆（学芸員）	5月7日（日）	18
ハニワ大王のさわってギャラリー3	荒木隆（学芸員）	6月4日（日）	16
ハニワ大王のさわってギャラリー4	荒木隆（学芸員）	7月2日（日）	24
ハニワ大王のさわってギャラリー5	荒木隆（学芸員）	8月6日（日）	25
ハニワ大王のさわってギャラリー6	荒木隆（学芸員）	9月3日（日）	11
ハニワ大王のさわってギャラリー7	荒木隆（学芸員）	10月1日（日）	12
ハニワ大王のさわってギャラリー8	荒木隆（学芸員）	11月5日（日）	20

ケ 指導者向け研修

テ ー マ	講師・所属等	期 日	参加人数
博物館利用指導者研修会	荒木隆（学芸員）	8月18日（金）	18

コ 実技講座

テ ー マ	講師・所属等	期 日	参加人数
「須賀川の絵のぼり・小旗をつくろう」	大野青峯・大野久子（伝統技術保持者）	5月5日（金・祝）	11
会津・三島の編み組み細工1・2	渡部ユキ子・角田キイ子（三島町生活工芸館）	7月8日（土）・9日（日）	10
「唐人和風をつくろう」	斎藤誠一（伝統技術保持者）	7月29日（土）	4
「縄文時代の編み物を再現しよう！」	本間一恵（バスケットリー作家）	11月11日（土）	7

サ 実演

テ ー マ	講師・所属等	期 日	参加人数
「大堀相馬焼の絵付け」	山田慎一（いかりや商店白河工房）	6月18日（日）	30
「昔語り」	横山幸子（語り部）	9月30日（土）	14

シ 企画展開連行事（記念講演・シンポジウム・講座・展示解説会等）

テ ー マ	講師・所属等	期 日	参加人数
「漆との出会い、自然との出会い」	関谷浩二（漆芸家）	4月29日（土・祝）	115
「自然を描く・漆で描く I部写生編1」	古川弓子（アーティスト）	5月6日（土）	16
「自然を描く・漆で描く I部写生編2」	古川弓子（アーティスト）	5月7日（日）	13
「自然を描く・漆で描く II部蒔絵編1」	八木由紀子（蒔絵師）	5月14日（日）	15
「自然を描く・漆で描く II部蒔絵編2」	八木由紀子（蒔絵師）	5月21日（日）	15
「自然を描く・漆で描く II部蒔絵編3」	八木由紀子（蒔絵師）	5月28日（日）	15

テ ー マ	講師・所属等	期 日	参加人数
企画展「自然をうつす」より自然のものをスケッチする	小林めぐみ (学芸員)	6月6日 (火)	21
企画展「ふくしま5億年の自然史」展示解説会	自然分野学芸員	7月16日 (日)	22
企画展「ふくしま5億年の自然史」展示解説会	自然分野学芸員	7月23日 (日)	6
ワークショップ「—ふくしま最古の岩石がもらえる！— アンモナイトの名前を当てよう！」	自然分野学芸員	7月30日 (日)	47
企画展「ふくしま5億年の自然史」展示解説会	自然分野学芸員	8月6日 (日)	24
気象庁福島地方気象台出前講座「地震と津波について(仮題)」	大和田 淳 (福島地方気象台地 震津波防災官)	8月10日 (木)	34
企画展「ふくしま5億年の自然史」展示解説会	自然分野学芸員	8月13日 (日)	35
ワークショップ「—ふくしま最古の岩石がもらえる！— アンモナイトの名前を当てよう！」	自然分野学芸員	8月20日 (日)	48
企画展「ふくしま5億年の自然史」展示解説会	自然分野学芸員	9月17日 (日)	24
企画展「発掘ふくしま4～土中の声に耳をすませば～」 記念講演会1	玉川一郎 (福島県考古学会会長)	10月7日 (土)	30
企画展「発掘ふくしま4～土中の声に耳をすませば～」 展示解説会1	高橋満 (学芸員)	10月7日 (土)	20
企画展「発掘ふくしま4～土中の声に耳をすませば～」 展示解説会2	荒木隆 (学芸員)	10月22日 (日)	4
企画展「発掘ふくしま4～土中の声に耳をすませば～」 記念講演会2	菊地芳朗 (福島大学人間発達文 化学類教授)	11月3日 (金・祝)	63
企画展「発掘ふくしま4～土中の声に耳をすませば～」 展示解説会3	荒木隆 (学芸員)	11月3日 (金・祝)	30
企画展「発掘ふくしま4～土中の声に耳をすませば～」 展示解説会4	森幸彦 (学芸員)	11月12日 (日)	2
「檜葉町上ノ台遺跡の発掘調査」	小林謙一 (中央大学文学部)	11月18日 (土)	38
企画展「発掘ふくしま4～土中の声に耳をすませば～」 記念講演会3	斎藤成也 (国立遺伝学研究所教 授)	11月23日 (木・祝)	70
企画展「発掘ふくしま4～土中の声に耳をすませば～」 展示解説会5	森幸彦 (学芸員)	11月23日 (金・祝)	20
講演会「国宝とは何か？」	佐藤康宏 (東京大学教授)	1月13日 (土)	136
特集展解説会「歴史の中の災害」	震災遺産保全チーム担当学芸員	3月3日 (土)	22
ギャラリートーク「アートで伝える考える」	はま・なか・あいづ文化連携プ ロジェクト担当学芸員	3月3日 (土)	13
グランド・ラウンドテーブルファイナル 「岡部昌生フロッタージュプロジェクトの6年」	岡部昌生 (美術家)・港千尋 (著 述家)・赤坂憲雄 (館長)	3月4日 (日)	41
特集展解説会「大熊・双葉・浪江の取組み」	震災遺産保全チーム担当学芸員	3月4日 (日)	41
特集展解説会「久之浜から見る震災の前と後」	震災遺産保全チーム担当学芸員	3月11日 (日)	9
特集展解説会久之浜「ふるさとの記憶」模型について	震災遺産保全チーム担当学芸員	3月15日 (木)	15
特集展ワークショップ「段ボールトイレを作ろう」	宮崎賢哉 (防災教育普及協会)	3月18日 (日)	20
特集展解説会「災害からの避難」	震災遺産保全チーム担当学芸員	3月18日 (日)	10
特集展解説会「会津の災害」	震災遺産保全チーム担当学芸員	3月25日 (日)	15

ス ミュージアムイベント

テ ー マ	出演・講師	期 日	参加人数
「玄如節と日本の民謡」	玄如節顕彰会	6月24日(土)	79
夏休み子ども野外映画会「ペット」	学芸員	7月17日(月・祝)	40
会津磐梯山・市民盆踊り	会津磐梯山盆踊り保存会	8月15日(火)	130
夏休みナイトミュージアム	学芸員	8月19日(土)	78
ハワイアン in けんぱく	モハル・ハワイアンズ	8月26日(土)	130
会津室内楽団アンサンブル「Coderanni」コンサート	会津室内楽団アンサンブル「Coderanni」	9月18日(月・祝)	275
クリスマス ジャズ ライブ	羽賀秀樹・眞鍋伸(ギター デュオ)	12月17日(日)	191
会津の彼岸獅子	本滝沢獅子舞保存会	3月11日(日)	161
coderanniコンサート	会津室内楽団アンサンブル「Coderanni」	3月25日(日)	286

セ 子育て世代対応事業

テ ー マ	講 師	期 日	参加人数
博物館でも読み聞かせ1	読み聞かせグループ	4月8日(土)	45
子供ミニミニ博物館	学習支援班	4月29日(土・祝)～5月7日(日)	806
博物館でも読み聞かせ2	読み聞かせグループ	5月13日(土)	38
博物館でも読み聞かせ3	読み聞かせグループ	6月10日(土)	48
博物館でも読み聞かせ4	読み聞かせグループ	7月8日(土)	50
博物館でも読み聞かせ特別編	会津短大幼児教育学科	7月9日(日)	18
博物館でも読みきかせ～夏休み編	会津短大	8月6日(日)	18
子供ミニミニ博物館	学習支援班	8月11日(金・祝)～8月17日(木)	923
博物館でも読み聞かせ5	読み聞かせグループ	8月12日(土)	42
博物館でも読み聞かせ6	読み聞かせグループ	9月9日(土)	31
博物館でも読み聞かせ7	読み聞かせグループ	10月14日(土)	38
親子でやすらぐ子守唄コンサート	西館好子・稲村なお子・川口京子・長谷川芙美子(NPO法人日本子守唄協会)	10月20日(金)	152
博物館でも読み聞かせ8	読み聞かせグループ	11月11日(土)	38
博物館でも読み聞かせ 特別編	会津短大幼児教育学科	1月20日(土)	15

ソ 共催事業

テ ー マ	主 催	期 日	参加人数
ふくしま史料ネットシンポジウム 「ふくしまの未来へつなぐ、伝える」	ふくしま歴史資料保存ネットワーク	6月17日(土)	108
福島県博物館連絡協議会総会		7月6日(木)	28
福島県博物館連絡協議会 研修会		10月12日(木)	22
福島県高等学校家庭クラブ連盟研究発表大会	福島県高等学校家庭クラブ連盟	10月18日(水)	80
平成29年度 文化財保護指導者研修会	公益財団法人福島県文化振興財団	10月24日(火)	85
平成29年度 文化財保護指導者研修会	公益財団法人福島県文化振興財団	10月25日(水)	63
子どもの読書活動推進ネットワークフォーラム	社会教育課	11月21日(火)	105
福島県考古学会大会	福島県考古学会	11月25日(土)	70
福島県考古学会総会・大会	福島県考古学会	11月26日(日)	52
spffサイエンス屋台村 in 会津	ふくしまサイエンスぷらっとフォーム運営協議会	12月24日(日)	300

タ 後援事業

テ ー マ	主 催	講師・所属	期 日	参加人数
「温故知新の旅 4 漆工職人五十二年 今想 う事・好奇心」(会津漆器協同組合青年部)	会津漆器協同組合 青年部	佐藤阡朗(工芸家)	6月23日(金)	85
「ふくしま 星と宇宙の展覧会」	日新館天文台跡保護 推進プロジェクト	渡部潤一(国立天文台副台長)	7月22日(土)	121
「ふくしま 星と宇宙の展覧会」	日新館天文台跡保護 推進プロジェクト	鳴沢真也(西はりま天文台天文 科学専門員)	7月23日(日)	48
福島県造形サークル連合大会	福島県造形サークル	三浦浩喜(福島大教授)	7月29日(土)	31
会津熱中塾	会津熱中塾	河合祐子(日本銀行金融機構局 城跡考査役) 阪井和夫(明治 大学サービス創新研究所所長)	9月17日(日)	34
「夢あるき」創立20周年事業	特定非営利活動法 人 夢あるき		10月8日(日)	86
あいづまちなかあーとプロジェクト講演会	あいづまちなかあ ーとプロジェクト	四柳嘉章(輪島漆芸美術館長)	10月14日(土)	68
会津史学会講演会「平成の風土記～奥会津書 房の立ち上げとその後」	会津史学会	遠藤由美子	10月29日(日)	100
五色百人一首福島県大会	五色百人一首福島 県協会		11月5日(日)	70
会津史談会公開文化史講座「戊辰戦争と錦旗」	会津史談会	栗原祐斗(学芸員)	11月22日(水)	155
青木山を守る会講演会「青木山麓の歴史と文化」	青木山を守る会	滝沢洋之、長尾修、東瀬紘一	12月3日(日)	118
会津民俗研究会公開講演会「会津三十三観音 を歩く」	会津民俗研究会	吉田邦吉、吉田博子、塚本麻衣 子(学芸員)	2月25日(日)	316

チ 企画展・特集展内覧会等(友の会)

テ ー マ	主催	講師・所属等	期 日	参加人数
Coderanniコンサート	友の会	会津室内楽団「アンサ ンプル・Coderanni」	4月1日(土)	211
企画展「自然をうつす」内覧会		小林めぐみ(学芸員)	4月28日(金)	25
企画展「ふくしま5億年の自然史」内覧会		相田優(学芸員)	7月14日(金)	35
企画展「発掘ふくしま4」内覧会		森幸彦(学芸員)	10月6日(金)	30
友の会 映画祭(午前:「アマゾン大冒険」、午後:「天地明察」)	友の会		10月28日(土)	203
企画展「山水憧憬」内覧会		小林めぐみ(学芸員)	1月12日(金)	43
友の会総会	友の会		3月17日(土)	11

ツ 復興応援パートナー事業

テ ー マ	講師・所属等	期 日	参加人数
ちいさな黄色い手紙プロジェクト	会津短期大学他	11月4日(土)～23日(木・祝)	185
映画会「地球交響曲 第8番(ガイアシンフォニーNo.8)」 映画会「ドキュメンタリー映画 新地町の漁師たち」 トークライブ「新地町の漁師たち」を語る	山田徹(映画監督)	2月24日(土)	23

(2) 学校・文化施設との連携

各種学校および文化施設との連携を図りながら、次の事業を展開した。

県内外の学校団体や文化施設主催団体が訪れた際の学習効果をさらに高めるために、新たに学習支援のためのプログラムを開発した。学習支援班が電話の受付を担当し、各団体からの相談対応をしながら、目的ニーズに応じた効果的な学習プログラムをプロデュースした。

ア 展示室での自主学习

常設展示室における児童・生徒の学習活動が有意義なものとなるように、発達段階や見学の目的などに応じた2種類のワークシートを準備している。

(ア) 博物館見学のしおり (小・中学生用)

常設展示室の展示資料を見る際のポイントを与えるように設問形式で構成されており、資料を観察しながら設問に答えられるように「考える」ことを重視したものになっている。難易度により3種類のシートがあり、当館ホームページからダウンロードできるようになっている。団体利用する学校等は事前に学校で印刷・配布し、事前学習を踏まえて当館を見学できるような形になっている。

(イ) 博物館探検シート

小学校高学年から中学生向けに作成されており、常設展示を構成する6つの大テーマに沿うかたちで、展示室内の主要な資料を題材に取り上げている。当館ホームページからダウンロードすることができるようになっているため、見学学習の目的に応じて選択できるとともに、事前の課題意識を持って児童・生徒が来館できるような形になっている。また、小学校低学年向けには「展示室探検ビンゴ」を作成した。

○学習プログラム実施状況

- ・講堂・視聴覚室におけるレクチャー 31回 1614名
- ・総合展示室におけるレクチャー 30回 1253名
- ・体験学習室におけるレクチャー 22回 847名
- ・企画展示室におけるレクチャー 24回 1046名

イ 団体体験学習プログラム

児童・生徒が博物館の資料を用いながら体験学習をすることは、多様なものの見方や考え方を育む上で有効である。当館では、入館団体の多様なニーズに対応すべく、事前申込制で「原始・古代のワザに挑戦 (考古分野)」「化石にふれてみよう (自然分野)」「紙すきハガキづくり (民俗分野)」「昔の道具体験 (民俗分野)」「度量衡の統一と農民の暮らし (歴史分野)」の5つの団体体験学習プログラムを準備している。特に、「昔の道具体験」は小学校3年生の授業と連動した内容となっており、実施回数、人数とも増加した。

○体験学習プログラム実施状況

- 「原始・古代のワザに挑戦 (考古分野)」 13回 218名
 - ・勾玉づくり 10回 179名
 - ・火おこし 3回 39名
- 「化石にふれてみよう (自然分野)」 2回 45名
- 「昔の道具体験 (民俗分野)」 13回 452名
- 合計 28回 715名 (公民館研修等を除く)

ウ 指導者向け研修

学校教育・生涯教育関係者を対象に博物館利用指導者研修会を実施していたが、平成29年度から主に教職員の博物館利用促進を図るために、博物館を利用した日常授業と博物館見学を組み合わせた学習プログラムの取り組み方、さらに個別の体験学習、日常授業を進めるうえでの参考情報などを提供する研修会として内容を一新し、博物館を活用した学校活動の充実をねらう講習会として「博物館を活用した学校教育プログラム研修会 ―小学校社会科:会津地方の古墳時代をどう教材化するか?―」と題して実施した。

今年度は、「古墳時代」をテーマに取り上げ、8月18日(金)に8名の参加者により実施した。

エ 学習用具・教材等の貸出

学校での授業づくりや生涯教育関連施設における活動等を支援するため、考古・歴史・民俗・自然の各分野で学習用具・教材等の貸出を行っている。

○学習用具・教材等の貸出実績

- ・実体顕微鏡 2台
特定非営利活動法人 Wunder ground
- ・実体顕微鏡照明装置 2台
特定非営利活動法人 Wunder ground
- ・実体顕微鏡用接眼レンズ(×10) 2組
特定非営利活動法人 Wunder ground
- ・実体顕微鏡用接眼レンズ(×20) 2組
特定非営利活動法人 Wunder ground

オ ゲストティーチャー

当館学芸員がもつ専門知識や経験を館外で有効に活用してもらうため、学校等教育機関の要請に応じて現地に赴き、体験学習や講話を中心とした授業を担当している。また、8月13日(日)うすい百貨店において開催された福島民報社主催の「夏休みキッズワールド」に民俗分野の体験学習プログラム「紙すき体験」を実施した。

実施状況-50名参加

平成 29 年度 博物館を活用した学校教育プログラム研修会（定員 30 名）

時 間	内 容	場 所
10:00～10:10	開講式・オリエンテーション	視聴覚室
10:10～10:30	研修 1「当館における学校団体活用プログラムの概要」	視聴覚室
10:30～11:30	研修 2「教科書分析/発掘調査成果からの補足事項【巨大古墳と豪族・和朝廷と国土の統一】」	視聴覚室
11:30～12:00	研修 3「展示資料の活用ポイント」	展示室
－ 昼 食 －		
13:00～13:45	研修 4「児童対象プログラム【会津の古墳時代を探ろう】体験」	視聴覚室
13:55～15:25	研修 5「体験学習メニューの実際：勾玉作り」	実習室
15:25～15:50	博物館活用に関する意見交換	実習室
15:50～16:00	閉講式・修了証授与	実習室

ゲストティーチャー実施一覧

月 日	講 師	分野	内 容	実施先	科目
6月14日	田中伸一	歴史	会津から世界へ～見つけよう宝人	会津若松市立東山小学校	総合的な学習の時間
9月13日	小林めぐみ	美術	地域に根ざす日本の伝統文化を学ぶ	会津若松市立第二中学校	総合的な学習の時間
9月27日	高橋 充	歴史	ガイダンス	福島県立医科大学	芸術と文化
10月 3日	川延安直、小林めぐみ	美術	絵画資料から見る幕末の政治・社会	会津坂下町立坂下中学校	社会
10月 4日	川延安直	美術	博物館と美術館①	福島県立医科大学	芸術と文化
10月10日	高橋 満、田中伸一	震災	震災遺産に学ぶ震災の記憶・記録と防災	福島県立南会津高等学校	総合的な学習の時間
10月11日	川延安直、小林めぐみ	美術	絵画資料から見る幕末の政治・社会	会津坂下町立坂下中学校	社会
10月11日	高橋 充	歴史	檜枝岐文書の世界	福島県立医科大学	芸術と文化
10月11日	相田 優	自然	環境教育～自然に学ぶ	慈光第二幼稚園	行事
10月13日	相田 優	自然	環境教育～自然に学ぶ	会津慈光こども園	行事
10月18日	内山大介	民俗	生と死をめぐる民俗	福島県立医科大学	芸術と文化
10月25日	内山大介	民俗	盆と正月をめぐる民俗	福島県立医科大学	芸術と文化
11月11日	田中伸一、大里正樹、猪瀬弘瑛、栗原祐斗	震災	被災地フィールドワーク	福島県立会津高等学校	総合的な学習の時間
11月15日	猪瀬弘瑛	自然	化石の宝庫・福島県①	福島県立医科大学	芸術と文化
11月22日	猪瀬弘瑛	自然	化石の宝庫・福島県②	福島県立医科大学	芸術と文化
12月 6日	高橋 充	歴史	伊達政宗からの手紙	福島県立医科大学	芸術と文化
12月13日	民俗分野	民俗	昔の道具	会津若松市立城北小学校	社会

カ 職場体験

児童・生徒の進路意識の向上や職業観・勤労観の育成に寄与すべく、職場体験を受け入れている。平成 29 年度は 5 校からの要請があり、当館における業務を幅広く体験してもらった。

○職場体験受け入れ実績（児童・生徒のみ）

- ・福島県立若松商業高等学校（2 年生：4 名） 3 日間
- ・会津若松市立第四中学校（2 年生：4 名） 2 日間
- ・会津若松市立第一中学校（2 年生：5 名） 2 日間
- ・三島町立三島中学校（2 年生：1 名） 2 日間
- ・北塩原村立第一中学校（2 年生：3 名） 1 日間

キ 博物館実習

学芸員資格取得のための博物館実習を実施している。平成 29 年度は県内出身および県内大学に在学する学生

11 名を受け入れた。演習「体験学習メニューの企画立案」では、新しい体験学習メニューを企画した。実際に実施することを想定しながら、プレゼンテーション形式で発表したのち積極的な意見交換を行うことができた。

実習期間 8 月 22 日（火）～8 月 27 日（日）

(3) 生涯学習・研究支援

ア 相談コーナー

エントランスホール内に配置された無料空間。展示図録・報告書・紀要など博物館の刊行物、および博物館資料に関連した図書を配架。図書は図鑑・事典類、調べ学習への対応、見て楽しむ本の 3 項目を重視して選定し、入館者が自由に閲覧できる。現在の配架図書数は 2,662 冊である。

相談コーナーは、入館者の展示や資料に関する質問や相談の求めに応じて、入館者と学芸員が面談する場としても利用される。

イ 資料の特別観覧

個人や研究機関による研究活動を支援するため、博物館資料の閲覧や撮影を許可し、実施している。

分野別特別観覧件数

考古：3件13点 歴史：17件294点 美術：6件12点
民俗：4件16点 計30件335点

ウ 講師派遣

大学や公民館、研究団体などからの依頼に応じて、学芸員を講演会や講座に講師として派遣している。

平成29年度の派遣回数は25回であった。

実習生所属大学一覧

No	大学名	人数
1	茨城大学	1
2	神奈川工科大学	1
3	東北芸術工科大学	1
4	東洋大学	1
5	長岡造形大学	1
6	新潟大学	1
7	盛岡大学	1
8	山形県立米沢女子短期大学	2
9	立命館大学	1
10	立正大学	1
	合計	11

講師派遣一覧

No.	月 日	講 師	分野	演 題 ・ 内 容 等	主 催
1	5月11日	大里正樹	民俗	地域の魅力を見つめなおそう～身近な地域の伝統的な祭事を学ぶ～	会津坂下青年会議所
2	5月25日	荒木 隆	考古	会津の歴史	磐梯町教育委員会
3	5月26日	高橋 充	歴史	会津三十三観音巡礼歌について	会津坂下町教育委員会
4	6月1日	高橋 充	歴史	会津三十三観音	東北労働金庫喜多方支店
5	6月1日	竹谷陽二郎	自然	会津盆地と磐梯山、その生い立ちを探る	会津若松市教育委員会
6	6月9日	小林めぐみ	美術	茶の湯の歴史と会津本郷焼	会津美里町公民館
7	6月10日	高橋 充	歴史	会津三十三観音と御詠歌	磐梯町恵日寺資料館
8	6月17日	内山大介	震災	博物館資料としての「震災遺産」～場所・モノ・物語の継承のために～	ふくしま歴史資料保存ネットワーク
9	6月29日	高橋 満	震災	文化庁指定文化財企画・展示セミナー	文化庁
10	7月5日	高橋 充	歴史	会津三十三観音巡礼歌について2	会津坂下町教育委員会
11	7月5日	内山大介	民俗	伊佐須美神社の御田植祭	会津美里町教育委員会
12	7月9日	阿部綾子	歴史	保科家の歴史	猪苗代の偉人を考える会
13	7月28日	荒木 隆	考古	会津の歴史	磐梯町教育委員会
14	8月13日	江川トヨ子 大里正樹 弦巻優太	民俗	紙漉き体験	福島民報社
15	8月23日	山口 拡	民俗	忘れかけた年中行事	喜多方市中央公民館
16	9月2日	内山大介	民俗	民俗資料の保全をめぐる限界と可能性～福島県における民具の救出を事例に～	人間文化研究機構
17	10月11日	猪瀬弘瑛	自然	化石講演会	いわき市アンモナイトセンター
18	10月28日	高橋 充	歴史	伊達政宗	仙台市博物館
19	11月14日	高橋 充	考古	美里大学「資料で読む戊辰戦争」	会津美里町公民館
20	12月2日	内山大介	民俗	福島県における震災・原発被災と博物館活動～文化財の救出から「震災遺産」の保全へ～	新潟大学災害・復興科学研究所
21	1月28日	荒木 隆	考古	石背国建国1300年と国指定史跡上人壇廃寺跡整備事業	須賀川市

No.	月 日	講 師	分野	演 題 ・ 内 容 等	主 催
22	2月10日	山口 拓	民俗	銭湯で働く人々 ～浴場業者のライフヒストリー～	横浜開港資料館・横浜市歴史博物館
23	2月17日	高橋 充	歴史	会津三十三観音と御詠歌	喜多方市教育委員会
24	2月18日	竹谷陽二郎	自然	ミクロの化石からアートへ	NPO法人wunderground
25	3月4日	竹谷陽二郎	自然	ミクロの化石からアートへ	NPO法人wunderground

(4) 博物館友の会活動への支援

当館は、福島県立博物館友の会の活動を支援するため、共催事業などの実施、行事に対する講師の派遣、サークル活動への協力、各会員に対して博物館だよりの送付、展示観覧への便宜、資料や文献の閲覧等、研究活動の支援などを行っている。

ア 友の会の概要

(ア) 発足 平成元年3月10日

(イ) 設立の目的

博物館活動に協力するとともに、会員が「福島県の歴史と文化・自然」についての研修を深め、会員相互の親睦をはかり、あわせて博物館活動の普及発展に寄与することを目的とする。

(ウ) 総会の開催

平成30年3月17日に開催した。平成29年度の事業・会務・会計決算等の報告と平成30年度の計画を協議し、承認された。また、各サークルの活動・会計の報告が行われた。

(エ) 平成29年度会員数

個人会員：176 家族会員：39 高校生会員：0
賛助会員：5 合計：220名

イ 平成29年度事業概要

(ア) 研修旅行

秋の研修旅行を実施した。上野の東京国立博物館にて開催されていた特別展「興福寺 運慶」を観覧する企画で、大変有意義な研修旅行となった。春は、最低人員に達せずやむなく中止となった。

○「春の研修旅行」『青森・弘前 歴史と文化、伝統をめぐる旅』(中止)

○「秋の研修旅行」『興福寺 運慶』

研修先：東京国立博物館

期 日：平成29年11月9日(木)

参加者：会員30名

(イ) 会報の発行

第113号・第114号・第115号と3回の会報を発行し会員に配布した。会長のご挨拶、研修旅行の報告、サークル活動の様子や「友の会映画祭」の報告、さらに私のライフワークの紹介など会員の顔が見える紙面作りに努めた。

(ウ) 博物館事業への協力

○博物館展示観覧

○友の会会員向け企画展内覧会への参加

4月28日(金)「自然をうつす」内覧会 25名参加

7月14日(金)「ふくしま5億年の自然史」内覧会

35名参加

10月6日(金)「発掘ふくしま4」内覧会 30名参加

1月12日(金)「山水憧憬」内覧会 47名参加

○博物館講座への協力

博物館の各種講座へ多くの会員が参加した。

○主な行事

4月1日(土)会津室内楽団Coderanniコンサート

211名参加

10月28日(土)友の会映画祭

午前「アマゾン大冒険」 50名参加

午後「天地明察」 153名参加

ウ サークル活動

化石・鉱物探検隊、古文書愛好会の2サークルが、それぞれの目的に向かって積極的に活動している。サークルごとに主体的に計画し、自立した活動となっている。

(ア) 化石・鉱物探検隊

化石や鉱物に興味をもつ研究サークルで、自然史に関する研鑽と会員相互の親睦を深めることを目的とし、平成11年に設立された。会員数27名。野外での巡検、化石や鉱物の採集、研修会等の活動を行っており、博物館の行事にも随時協力している。

平成29年度は次の活動を行った。

a 4月16日 西会津町漆窪林道での化石採集

b 5月14日 北塩原村大滝での鉱物採集

c 6月11日 下郷町大川右岸での化石採集

d 7月9日 山形県米沢市唐戸屋鉱山での鉱物採集

e 8月20日 栃木県西沢金山での鉱物採集

f 9月23日 化石・鉱物探検隊第2回成果展への取り組み(構想と作業日程)について協議

g 10月1日 郡山市熱海町母成での鉱物採集

h 10月7日 塙町西河内 藤田鉱業採石場での化石採集(博物館自然史講座への協力)

i 10月8日 福島県立博物館実習室での化石のクリーニング(博物館自然史講座への協力)

j 12月3日 化石・鉱物研修(鑑定)会の開催

k 平成30年3月4日 総会・研修会の開催

(イ) 古文書愛好会

平成14年度に発足した古文書愛好会は随時20～25名が参加し、活動を続けてきた。メンバーは5つの藩に分かれ、チームを組んで古文書の解説・考察にあたっている。テキストには当初から県指定文化財の築田家文書

(福島県立博物館寄託)を用いている。築田家は江戸時代に若松城下の検断(町役人)を務めた家で、その文書は城下の様相を伝える良質な資料であり、解説を通して少しずつ会津藩の歴史についての知見を深めている。近年では平成26年度から明治元年の公用簿籍(戊辰戦争直後の若松城下の記録)をテキストとし、戊辰戦争から150年の節目を迎える平成30年度に読み終えるのを目標としている。

平成29年度の活動人数は25名で、前年度に引き続き月1回・第2土曜日の午前中に開催し、班ごとに順番に発表を行い、毎回最後に文字・内容の検討を行った。

7 東日本大震災からの復興支援

平成23年3月11日午後2時46分、宮城県牡鹿半島沖の海底を震源としたマグニチュード9.0の大地震が発生した。震源域は岩手県沖から茨城県沖までの南北約500km、東西約200kmの広範囲に及んだ。福島県立博物館のある会津若松市は震度5強の揺れを被った。福島県立博物館では、建物の躯体そのものには被害はなかった。しかし、設備および資料に若干の被害があり展示室の安全性の確認と修繕工事のため当面のあいだ休館とした。再開したのは平成23年4月12日(火)である。

福島県域は地震とそれに伴う津波、そして東京電力福島第一原子力発電所の事故により甚大な被害を被った。当館では、震災からの復興支援を目的として、平成24年度に新たに「ふくしまの文化・自然遺産の発掘と再生プロジェクト」を立ち上げた。これは次の3つの柱からなっている。

1 ふくしまの宝の発掘と保全

市町村や文化施設および大学等と連携し、被災地域の文化財の救出と保全を図るとともに、地域の宝である文化財や自然史資料を改めて調査・収集し、その価値を明らかにすることに努める。

2 ふくしまの宝の公開と活用

救出および新たに収集した文化財およびその研究成果をさまざまな形で県民に発信し、地域の誇りをとりもどすとともに、それらを教材として、ふくしまの未来を担う子供たちの育成を図る。

3 ふくしまの再生と活性化

文化施設や地域の文化団体、市民グループと連携し、文化資源を活用した地域おこし、文化的事業の開催など、文化の力を用いて地域の再生と活性化を図る。

このコンセプトに基づいて復興支援の事業を展開している。

(1) 文化財・自然資料レスキュー

ア 平成29年度の活動

(7) レスキュー作業の体制

前年度から継続して「福島県被災文化財等救援本部」(以下「救援本部、当館は副代表・幹事・事務局」)に参画して活動した。幹事会3回、会議1回。

(イ) 被災資料への対応

震災後から受け入れてきた資料について、整理作業などを継続し、条件が整ったものについては返還した。

警戒区域の再編や解除が進み、住民の帰還が始まる中で、個人所有の資料の調査依頼があった(1件)。

(ウ) 救出された資料の展示公開

a 当館テーマ展「ふるさとの考古資料6【飯舘村】遺跡探訪」(平成28年度～5月14日)

b 当館テーマ展「託されたおもい 寄贈・寄託の名品たち」(6月10日～7月17日)

c 当館テーマ展「ふるさとの考古資料7【檜葉町歴史資料館】移動展」(7月1日～平成30年5月20日)

d 当館企画展「ふくしま5億年の自然史」(7月16日～9月18日)

e 当館企画展「発掘ふくしま4—土中の声に耳をすませば—」(10月7日～11月26日)

(エ) 研修会・研究会への参加

被災資料の保全に関する講演会やシンポジウムなどに参加した。

(オ) 5年間のレスキュー活動紹介パネル展示

震災後5年間の活動の内容をまとめたパネル展示を、当館展示室内の展示ロビー・エントランスホールにおいて行った。

イ 今後の課題

(7) 受け入れてきた文化財・自然資料への対応(継続)

(イ) 旧警戒区域からの文化財・自然資料の搬出・保全(継続)

a 個人所有資料の保全

b 救出された文化財・自然資料の収蔵・公開施設についての検討

(ウ) 救出された文化財・自然資料の展示公開(継続)

(エ) 今後の災害に備えたしくみづくりや準備

当館での被災文化財等の受け入れ状況

(平成29年度末現在)

受入年度	No.	所有者	資料概要	点数	要因	整理状況	現状
平成23	1	旧相馬女子高校	土器片等	195点	旧校舍収蔵施設の損壊	済み	採集
	2	いわき市の個人	古文書・祭礼道具等	13件 (1509点)	地震による蔵の損壊	未了	受託
	3	南相馬市の個人	野馬追甲冑等	12件 (16点)	原発事故避難により管理不能	不要	返還済み
	4	南相馬市の個人	文書	1点	原発事故避難により管理不能	不要	返還済み
	5	双葉町教育委員会	古文書	253点	原発事故避難により管理不能	不要	受託
	6	南相馬市の神社	棟札・像・文書等	22点	津波による神社の損壊	済み	一時預かり
	7	須賀川市の神社	絵馬	109点	地震による神社の損壊	済み	受託・一部返還
	8	須賀川市の個人	雛人形・五月人形等	4点	地震による建家の損壊	済み	受贈
	9	双葉町教育委員会	刀剣・火縄銃	7点	原発事故避難により管理不能	不要	受託
	10	郡山市の個人	近代史料・書籍等	961点	地震による蔵の損壊	済み	返還済み
	11	双葉町の個人（教育委員会寄託）	太刀	1点	原発事故避難により管理不能	不要	受託
			十三仏画	1点		不要	
	12	浪江町の寺院	両界種子曼荼羅	1点	原発事故避難により管理不能	不要	受託
	13	福島市の個人	雛人形・古写真等	17件 (22点)	地震による建家の損壊	済み	受贈・受託
	14	伊達市の個人	土器・石器・図書・地図	3件 (1647点)	地震による蔵の損壊	済み	受贈
	15	南相馬市の寺院	膳椀漆器	48件 (79点)	原発事故避難により管理不能	未了	受託
	16	会津工業高校	陶磁器	8点	地震による損壊	不要	返還済み
17	南相馬市鹿島歴史民俗資料館	植物化石標本	62件 (66点)	地震による収蔵施設の損壊	済み	返還済み	
平成24	18	浪江町の個人	書跡	2点	原発事故避難により管理不能	不要	受託
	19	富岡町	16ミリフィルム	1点	原発事故避難により管理不能	不要	受託
	20	南相馬市の個人	化石標本	約400点	地震による収蔵施設の損壊	済み	受託
	21	大熊町教育委員会	考古資料（落合B遺跡）	4943点	原発事故避難により管理不能	済み	受託
考古資料（棚和子遺跡）			10箱	済み			
和鏡			1点	済み			
平成25	22	浪江町教育委員会	棚塩地区公民館地図	1点	地震・津波による建物損壊	不要	返還済み
	23	葛尾村の寺院	仏像・仏画・経典等	5件 (604点)	原発事故避難により管理不能	未了	受託
	24	双葉町教育委員会	清戸迫横穴壁画模写	1点	原発事故避難により管理不能	不要	受託
	25	双葉町教育委員会	フタバクジラ化石他	27件	原発事故避難により管理不能	未了	受託
平成28	26	浪江町の個人	大型民具	21点	地震による建物損壊、解体予定	済み	受贈
	27	南相馬市小高区	石仏	5点	津波被害による処分予定	済み	採集
平成29	該当なし						

(2) ふくしま応援ミュージアムイベント

従来実施してきたミュージアムイベントを、「ふくしま応援ミュージアムイベント」と名付け、被災された方々への励ましや、福島県を応援する意図をもったイベントを企画し実施した。

ア 民謡 会津磐梯山と玄如節

- (ア) 日 時 平成 29 年 6 月 24 日(土)13 時 30 分～15 時
- (イ) 会 場 福島県立博物館 エントランスホール
- (ウ) 参加者数 79 人
- (エ) 共 催 玄如節顕彰会
- (オ) 内 容

玄如節は、即興の掛け合いで唄うのを基本とする会津の民謡の源流でもある。今回のイベントでは、会津や全国各地の民謡を歌と踊りをまじえて披露し、最後に来館者の方々から募集した玄如節の歌詞を即興の歌で披露した。

イ 夏休み子ども野外映画会「ペット」

- (ア) 日 時 平成 29 年 7 月 17 日(月・祝)19 時～21 時
※博物館閉館後
- (イ) 会 場 福島県立博物館 前庭
- (ウ) 参加者数 40 人
- (エ) 内 容

ミュージアムイベントとして前年に引き続き野外映画会を開催した。幅広い年齢層に楽しんでいただく映画として「ペット」を上映した。開放的な雰囲気の中で映画を味わえる野外映画会として楽しんでいただいた。

ウ 会津磐梯山・市民盆踊り大会

- (ア) 日 時 平成 29 年 8 月 15 日(火)19 時～20 時 30 分
※博物館閉館後
- (イ) 会 場 福島県立博物館 前庭
- (ウ) 参加者数 130 人
- (エ) 共 催 会津磐梯山盆踊り保存会
- (オ) 内 容

博物館前庭に櫓を組み、会津磐梯山の歌に合わせて自由参加での盆踊り大会を開催した。踊りを通して、先の戦争やこの度の大地震でやむなく生命を奪われてしまった方々に、あらためて追悼と感謝の祈りを捧げた。

エ 夏休みナイトミュージアム

- (ア) 日 時 平成 29 年 8 月 19 日(土)17 時 30 分～19 時
※博物館閉館後
- (イ) 会 場 福島県立博物館 常設展示室
- (ウ) 参加者数 78 人
- (エ) 講 師 相田・高橋満・大里・栗原・佐藤洋
- (オ) 内 容

いつもと違う雰囲気の真っ暗闇な展示室の中を、懐中電灯の光を頼りに見学する「ナイトミュージアム」は、例年人気の高いイベントである。例年参加申込み者数が多いため、一昨年度から定員を 20 名増員した。

オ ハワイアン in けんぱく

- (ア) 日 時 平成 29 年 8 月 26 日(土)13 時 30 分～15 時
- (イ) 会 場 福島県立博物館 講堂

- (ウ) 参加者数 130 人

(エ) 出 演

モハル・ハワイアンズ
フラ・ホニ・ケ・アロハ (辻フラスクール)
メグミフラスクール
ポポレフア
マハロヌイフラスタジオ
ウクレレフレンズ

(オ) 内 容

前年度より開催時期を早めて夏の暑い時期にハワイアン音楽を聴いていただき、いつもとは少し違った博物館に親しんでもらった。福島県内で活躍する多数の出演者の協力もあり、参加者に楽しんでいただいた。

カ 会津室内楽団「アンサンブル・Coderanni」コンサート～ものがたりの音楽～

- (ア) 日 時 平成29年9月18日(月・祝)13時30分～15時
- (イ) 会 場 福島県立博物館 講堂
- (ウ) 参加者数 275 人
- (エ) 出 演 会津室内楽団「アンサンブル・Coderanni」の皆様
- (オ) 内 容

会津地域の室内楽普及を目的として、平成 23 年 7 月に音楽教育学研究者の峯岸創によって設立された楽団による演奏。第 1 部「懐かしの映画音楽」第 2 部 朗読と管弦楽による音楽物語「窓ぎわのトットちゃん」第 3 部「劇・絵画の中のクラシック」と 3 部構成で行われた。また、学芸員が第 2 部から第 3 部の間に「博物館ワンポイントレッスン」のコーナーを設定し、企画展「発掘ふくしま 4」の見所を紹介した。音楽好きのお客様にも博物館を身近に感じていただくよい機会になった。

キ クリスマス・ジャズ・ライブ

- (ア) 日 時 平成 29 年 12 月 17 日(日)13 時 30 分～15 時
- (イ) 会 場 福島県立博物館 エントランスホール
- (ウ) 参加者数 191 人
- (エ) 出 演 羽賀秀樹(ギター)、眞鍋伸(ギター)
- (オ) 内 容

毎年恒例となっている 12 月のクリスマスコンサート。音楽好きの方々にも博物館に親しんでいただく機会とするために実施しており、毎回好評を博している。今回は会津地方在住のジャズ音楽演奏家 2 人による、ボロディン原曲「ストレンジャー・イン・パラダイス」などのジャズ音楽、「川の流れるように」など歌謡曲に加え、「ホワイト・クリスマス」などのクリスマスソングも交えて約 15 曲演奏していただき、0 歳から大人の方まで幅広世代の方に楽しんでいただいた。

ク 会津の彼岸獅子

- (ア) 日 時 平成 30 年 3 月 11 日(日)13 時 30 分～15 時
- (イ) 会 場 福島県立博物館 エントランスホール
- (ウ) 参加者数 161 人
- (エ) 出 演 本滝沢獅子舞保存会

(カ) 内 容

会津の春を彩る風物詩として有名なのが、春のお彼岸に三匹の獅子が舞い踊る「彼岸獅子」。通常は地区ごとに無病息災、五穀豊穡を祈って舞われるが、地区外の方々にも「会津の文化」として親しんでいただくために、県立博物館では彼岸に先駆けて館内での実演を開催した。特に本滝沢獅子舞保存会は後継者育成のために小中学生を踊り手として活動を行っている。立派な舞に感嘆していた観客は、獅子頭を外したあどけない踊り手の姿に驚くとともに、大きな拍手を送っていた。

ケ 会津室内楽団「アンサンブル・Coderanni」コンサート
～懐かしい歌 心の旅 & 管楽器の魅力Ⅱ～

(ア) 日 時 平成30年3月25日(日)13時30分～15時

(イ) 会 場 福島県立博物館 講堂

(ウ) 参加者数 286人

(エ) 出 演 会津室内楽団「アンサンブル・Coderanni」
の皆様

(カ) 内 容

9月に大変好評を博したコンサートを閑散期の3月に実施することで、博物館に足を運んでいただくきっかけづくりとして開催された。第1部「懐かしい歌 心の旅」第2部「管楽器の魅力Ⅱ」の2部構成で演奏された。今回も学芸員が「博物館ワンポイントレッスン」として、開催されている特集展「震災遺産を考える」から展示資料の紹介と春の企画展「匠のふるさと 会津」から見所や関連イベントの詳細について紹介した。

8 次世代ミュージアム機能

第2期中期目標で目標設定している次世代ミュージアム機能に関して、東日本大震災による震災の共有と継承、福島県における新たな文化事業の創出と定着を達成するため、2件のプロジェクト活動を行った。

(1) はま・なか・あいづ文化連携プロジェクト

ア 事業の趣旨

平成23年3月11日の東日本大震災、その後の東京電力福島第一原子力発電所事故により福島県内には津波・地震による被害に加え放射線汚染被害、さらに、そこに由来するコミュニティの分断、風評被害が発生し、今なお多くの局面で復旧・復興が急がれている。

この状況から一歩でも前進するため、福島県立博物館と福島県下の各地域の博物館、文化事業に携わる大学、NPOなどの諸団体が連携し文化活動の支援を行うことを目的に、はま・なか・あいづ文化連携プロジェクトを平成24年にスタートした。

平成24年度は、地域への愛着を象徴するような文化財の活用に配慮し復興につながる文化的事業の継続的な展開をめざした。

平成25年度は前年度の実績を踏まえ、事業をさらに発展させるとともに、福島県立博物館と地域との協働、他分野との連携・融合、地域へのアウトリーチを積極的に

推進した。

平成26年度は、震災後4年目の福島に必要な文化的な事業を、各団体との協議の上で計画し、福島の文化の豊かさの再認識、福島の現状の共有と発信を柱に実施した。

平成27年度は、震災・原発事故からの時間の経過と共に際立つようになった県内各地域が抱える問題・課題の差異に留意しながら、それらの解決につながる文化的なアプローチとなることを目指した。

平成28年度は、避難の長期化により地域の文化の衰退・断絶の恐れが強まる中、文化芸術による復興につながるプロジェクトを継続実施し、あわせて、県内外での震災の記憶の風化に対するため、震災・事故の記憶の作品化とそれら成果による発信・交流事業に力を入れた。

福島県を地理的に区分する「はま・なか・あいづ」は、それぞれの地域の文化や自然の特徴を生み、福島に多様な豊かさをもたらすもの。平成23年以降は、同時に、震災と原発事故による影響の差異を生み出すものもなった。豊さと課題。福島が大事にし、向き合わなくてはならないそれらを多くの方と共有することを目的に、平成29年度は7つのプロジェクトを実施した。

イ 組織

(ア) 主催：はま・なか・あいづ文化連携プロジェクト実行委員会

構成団体：南相馬市博物館、福島大学うつくしまふくしま未来支援センター、福島大学芸術による地域創造研究所、いいたてまでの会、NPO法人喜多方市民活動サポートネットワーク、はじまりの美術館

事務局：福島県立博物館

(イ) 協力団体

南相馬市国際交流協会／朝日座を楽しむ会／NPO法人まちづくりNPO新町なみえ／NPO法人西会津ローカルレンズ／NPO法人Wunder ground

(ウ) 実行委員会委員長：赤坂憲雄（福島県立博物館長）

(エ) 事務局：福島県立博物館

ウ 実施期間

(ア) 実施期間：平成29年4月3日～平成30年3月31日

(イ) プロジェクト活動期間：

平成29年4月30日～平成30年3月3日

エ 参加アーティスト 約20人

オ 主な活動エリア

(ア) 福島県内：南相馬市、浪江町、大熊町、双葉町、いわき市、飯館村、福島市、郡山市、須賀川市、喜多方市、会津若松市、西会津町、三島町、他

(イ) 福島県外：京都府京都市、大分県別府市

カ 助成

平成29年度文化庁地域の核となる美術館・歴史博物館支援事業

キ 事業内容

(ア) 福島交流・発信プログラム

はま・なか・あいづ文化連携プロジェクトの成果を活用した成果展を、県内外の歴史的建造物、文化施設、コミュニティスペース等を会場に開催。震災と復興について広く共に考え体験の場を創出するとともに、県内外諸団体との連携の構築を図った。これまでの成果となる震災・原発事故を記録した作品の整理作業、これまでの活動をまとめた記録集の作成も行った。

a 成果展

- ・芸術文化で伝える考える福島の今、未来 in KORIYAMA (2会場)
- ・アートで伝える考える福島の今、未来 in FUKUSHIMA × FUREアーカイブ事業成果展 第1期～第3期 (1会場)
- ・アートで伝える考える福島の今、未来 in BEPPU (4会場)
- ・はま・なか・あいづ文化連携プロジェクト成果展 語りがたきものに触れて (4会場)
- ・アートで伝える考える福島の今、未来 at Fukushima Museum (1会場)

b トークイベント

- ・芸術文化で伝える考える福島の今、未来 in KORIYAMA トークイベント+標葉せんだん太鼓公演「文化でつながるさと」など、22件開催。

c 成果物

- ・語り合う希望 はま・なか・あいづ文化連携プロジェクトトーク集 (750部)
- ・岡部昌生フロッタージュプロジェクト記録集 (1000部)

(イ) 震災の記録・継承プログラム

暮らしの記憶プロジェクト

福島県沿岸部の津波被災地に残る流失家屋の基礎の撮影記録と元住人からの聞き取りによって東日本大震災と東京電力福島第一原子力発電所事故により失われた暮らしの記憶をとどめ伝えるプロジェクト。

形式：調査・制作

担当作家：安田佐智種

(ウ) 震災の記録・継承プログラム

避難の記憶プロジェクト

東日本大震災と東京電力福島第一原子力発電所事故により浪江町は二本松市に役場機能を移し、町立の小学校も二本松市に仮校舎を開校した。避難とそれがもたらした事象、取り組みの記憶を残し伝えるプロジェクト。

形式：調査・制作

担当作家：赤間政昭

(エ) 福島の今を伝えるプログラム

福島祝いの膳プロジェクト

多様な自然環境、歴史に育まれた福島。はま・なか

・あいづ各地域の食材・郷土食のリサーチを通じて、原発事故で大きく損なわれた福島の食文化の再興を目指すプロジェクト。リサーチを県内各地で数回実施。

形式：調査

担当作家：中山晴奈

(オ) 福島の今を伝えるプログラム

震災・大事故と文化財を考えるプロジェクト

東日本大震災、東京電力福島第一原子力発電所事故により多くの文化財も被害を受け、レスキュー活動が行われた。土地の歴史やアイデンティティと深く結びつく文化財。震災・大事故が起きた時にそれらにどう向き合い、対処するのか。文化財関係者への聞き取り調査と記録・公開を行った。

形式：調査

担当作家：藤井光

(カ) 福島の今を伝えるプログラム

岡部昌生フロッタージュプロジェクト

南相馬市、石川町、飯館村、大熊町などで、フロッタージュの技法により震災の記録、原発事故に至った福島の近代史を掘り下げる活動を続けてきたプロジェクト。

形式：調査・制作

担当作家：岡部昌生

(キ) 福島の今を伝えるプログラム

福島写真美術館プロジェクト

写真家・美術家らの映像・画像による福島の現状の記録にとどまらず、その撮影、調査過程において、地域との連携を生み出しているプロジェクト。

形式：調査・制作

担当作家：土田ヒロミ、岩根愛

全事業の参加者：22,047人

(2) ふくしま震災遺産保全プロジェクト

平成23年3月11日の東北地方太平洋沖地震とそれともなう津波・原発事故は、福島県内に甚大な被害を及ぼした。未だに多くの方々が避難生活を余儀なくされ、一方で復興や除染工事等により地域の景観は大きく変わりつつある。当館では平成26年度から28年度まで文化庁芸術振興費補助金の採択を受けて、県内の資料館や研究会とともに実行委員会を組織し「ふくしま震災遺産保全プロジェクト」を推進してきた。大震災を契機に起こった様々な出来事を歴史として共有し未来へ継承するため、震災を物語る資料を「震災遺産」と位置付けて、その保全や県内外での展覧会・シンポジウム等のアウトリーチ活動を行った。平成29年度からは当館の事業として、引き続き「震災遺産」の保全や発信を行っている。

ア 震災遺産保全チームの組織

前年度まで活動母体として組織してきた実行委員会は解散したが、博物館内では引き続き「震災遺産保全チーム」として分野横断的なプロジェクトチームを編成し、震災遺産の保全活動を進めている。平成29年度は民俗・

考古・歴史・保存科学・自然の各分野から1～3名の学芸員が参画し（平成29年度は民俗2名・考古1名・歴史3名・保存科学1名・自然2名）、計9名で活動を行った。当館の事業として行う最初の年度であったため、博物館事業として今後進めていくに当たっての活動理念や組織編成、活動方針やその将来像などについてチーム内で協議した。併せて当事業を将来に渡り専属的に担う学芸員として歴史（災害史）専門の学芸員1名の採用についてチーム内及び館内で検討し、年度内に職員募集を実現した。

イ 震災遺産の調査・保全

前年に引き続き県内における震災遺産の調査や資料収集を進めたが、主な事例として以下のような活動を行った。避難所関係では、東日本大震災発生から数カ月間避難所として利用された福島市のあづま総合体育館に残された関連資料を受贈した。避難所の運営にかかわる資料が中心で、避難者名簿や救援物資の管理に関わる文書、避難所の行事予定やボランティアの受け入れに関する資料、提供された食事のメニューなどが含まれる。また震災から半年後にいわき市の久之浜第一小学校校庭につくられた復興商店街「浜風商店街」での資料調査を進めた。前年度に商店街の全店舗が移転し、平成29年度末には建物が解体されたため、商店街の横断幕や応援メッセージの書かれた壁面、現地に展示されていた町並み模型などを受贈した。また南相馬市小高区にある半杭牧場の牛舎には、家畜によって齧られた痕跡のある柱が現在も残されている。震災後に警戒区域となったために住民は避難を余儀なくされ、置き去りにされた牛が餌の代わりに木柱を齧り、やがて餓死した。原発事故により引き起こされた重大な出来事として後世に継承するために、当館では柱のレプリカ製作を進めている。平成29年度は現地調査や聞き取り調査と型取り作業までを終えている。

さらに県内における震災遺産関連施設の視察調査も併せて実施した。平成28年に三春町に開設された福島県環境創造センター内にある交流棟（愛称・コミュニティ福島）の展示をはじめ、川内村で個人が設置した震災・原発事故を伝える資料館「感がえる知ろう館」、さらに白河市でNPO法人が設置するアウシュヴィッツ平和博物館とその敷地内に建てられている原発災害情報センターなどを視察し、設置者や職員に設立経緯や展示・活動内容等についての解説を受けた。

ウ 他団体・諸機関との連携・協力

また、震災遺産の保全や普及活動については、県内外の諸団体・諸機関との連携も進めている。例えば、ふくしま歴史資料保存ネットワーク主催（当館後援事業）で行われたシンポジウム「ふくしまの未来へつなぐ、伝えるー歴史・文化・震災遺産の保全と活用の今」（於：郡山市民プラザ）や、科学研究費基盤研究(S)「災害文化形成を担う地域歴史資料学の確立」等が主催したシンポジウム「被災地フォーラム新潟」（於：新潟大学）などに

参加し、震災遺産保全活動に関する報告やミニ展示を行った。さらに福島県文化振興財団が主催した平成29年度文化財保護指導者研修会（於：福島県立博物館）や、文化庁指定文化財企画・展示セミナー（於：東京国立博物館）では、当チームのメンバーが研修の講師として参加して震災遺産保全活動に関する講義を行った。

また資料の保全に関しては県内の市町村による取り組みが本格化しており、近年ではその活動への協力依頼が増えてきた。富岡町ではアーカイブ施設の設置に向けた検討を進めており、「富岡町アーカイブ施設検討町民会議」に当チームのメンバーが参加しているほか、同様に震災遺産の保全活動を進めている大熊町や双葉町においても、当チームのメンバーが会議へ出席し、現地での資料調査に参加するなど、相互に協力・連携を進めている。また科学研究費基盤研究(A)「防災と被災地復興の基盤を形成する地域災害資料・情報学の構築」（代表：白井哲哉筑波大学教授）により行われた台湾九二一地震関係施設に関する視察調査にもメンバーが同行した。台南市の国立台湾歴史博物館で開催された特別展「地震帯上の共同体：歴史の中の日台震災」の見学や、台中市の九二一地震教育園、南投市の車籠埔断層保存園區などの震災関連施設の視察を行った。さらに、福島県が進めているアーカイブ拠点施設の整備に向けた会議等への出席や、福島大学つくしまふくしま未来支援センターの受託事業である同施設の資料収集に関するワーキンググループへも参加し、相互協力を図っている。

エ 普及事業の実施

学校現場における震災・防災学習についての依頼も増えており、前年度までのプロジェクト活動による学校連携事業を引き継ぐ形で活動を進めている。例えば福島東高校の2年生が総合学習の一環として来館した際には、震災遺産に関する講座と資料見学にあたっての解説を行った。南会津高校で行われた「課題探求力養成講座」ではゲストティーチャーとしてメンバーが講師を務め、震災遺産に関する講義とミニ展示を行った。また会津高校が進める「復興と未来を担うグローバルリーダー育成事業」と連携し、同校が主催する「被災地フィールドワーク」にメンバーが講師として随行して被災地での高校生の学習を支援し、それをもとにした生徒による研究発表会にも参加した。

第 15 節 福島県自然の家

1 概要

(1) 沿革

昭和 47 年県内初の県立少年自然の家として、また、東北でも 3 番目の宿泊研修用の先導的施設として「福島県少年自然の家」（以下「自然の家」という。）を開設。

昭和 50 年海浜型の青少年社会教育施設として「福島県海浜青年の家」（以下「青年の家」という。）を開設。同年発足した「財団法人福島県海浜青年の家」が管理運営を行うこととなる。

昭和 56 年県立少年自然の家 2 施設目となる「福島県会津少年自然の家」を開設。これに伴い、「自然の家」の名称を「福島県郡山少年自然の家」に改める。

平成 8 年「福島県いわき海浜自然の家」を開設。これに伴い、「青年の家」の名称を「福島県相馬海浜自然の家」に改める。運営財団の名称を「財団法人福島県海浜自然の家」に変更し、海浜型 2 施設の管理運営を行うこととなる。

平成 10 年福島県教育庁の直営であった「福島県郡山少年自然の家」及び「福島県会津少年自然の家」の名称を「福島県郡山自然の家」及び「福島県会津自然の家」と改める。これにより財団の名称を「財団法人福島県自然の家」に変更し、県内 4 施設の管理運営を行うこととなる。

平成 18 年度から指定管理者制度を導入し、平成 20 年度までの 3 年間「財団法人福島県自然の家」が指定管理者となり 4 施設の管理運営を行うこととなる。

指定管理者であった財団が平成 20 年度末をもって解散したため、平成 21 年度から 4 施設とも県の直営による管理運営となる。

平成 22 年度に開催した指定管理者選定検討会において「福島県いわき海浜自然の家」が「財団法人いわき市教育文化事業団」に指定管理することとなる。なお、他 3 施設については検討会の条件を満たす団体がいないため直営による運営が継続されることとなる。

平成 23 年 3 月 11 日に発生した東日本大震災により、「福島県会津自然の家」は同年 7 月 2 日まで「福島県郡山自然の家」は同年 8 月 28 日まで避難所として運営を行う。また「福島県いわき海浜自然の家」の指定管理は震災の影響により平成 23 年 11 月 1 日からの開始となる。なお「福島県相馬海浜自然の家」は地震・津波の甚大な被害を受け平成 24 年 3 月 31 日をもって公所廃止となる。

平成 25 年度に開催した指定管理者選定検討会において「福島県いわき海浜自然の家」について平成 26 年度から平成 30 年度まで「財団法人いわき市教育文化事業団（平成 26 年度より公益財団法人に移行）」に指定管理することとなる。

(2) 所在地

ア 福島県郡山自然の家

福島県郡山市逢瀬町多田野字中丸山 46

〒963-0213 TEL 024-957-2111

FAX 024-957-2112

URL <http://www.koriyama-nc.fks.ed.jp/>

イ 福島県会津自然の家

福島県河沼郡会津坂下町大字八日沢字西東山 4495-1

〒969-6504 TEL 0242-83-2480

FAX 0242-83-2481

URL <http://www.aizu-nc.fks.ed.jp/>

ウ 福島県いわき海浜自然の家

福島県いわき市久之浜町田之網字向山 53

〒979-0335 TEL 0246-32-7700

FAX 0246-32-7730

URL <http://www.iwaki-nc.fks.ed.jp/>

2 教育目標及び基本的視点

(1) 教育目標

恵まれた自然環境の中で、野外学習や集団宿泊活動など様々な活動を通して主体的に対応できる人々の育成を目指す生涯学習の推進のため、次の目標を設定する。

ア 自然の恩恵にふれ、自然に親しむ心や敬虔の念を育てる。

イ 集団宿泊活動を通して規律・協同・友愛及び奉仕の精神を養う。

ウ 自然体験活動を通して自ら実践し、創造する態度を育てる。

(2) 基本的視点

豊かな自然体験を楽しめる施設として、その機能を十分に発揮するために、施設・設備の整備や運営方法の確立・改善に努め、利用者が充実した活動を展開できるよう、次の基本的視点に基づきそれぞれの施設の運営にあたる。

ア 所員の英知と創意を結集し、施設の充実・整備を図り活気と魅力ある施設の運営に努める。

イ 利用者の多様なニーズや利用目的に応じた柔軟な運営を行うよう努める。

ウ 立地条件を生かした特色ある企画事業を展開するとともに、学校や地域に生きる活動種目やその指導方法の研究開発に努める。

エ 民間の指導者の協力や高校生・大学生等にボランティアとして参加していただけるように努める。

オ 現代的課題の解決に対応する事業を推進し、その情報の発信に努める。

第 16 節 福島県郡山自然の家

1 概要

(1) 沿革

郡山自然の家は、昭和 47 年に「福島県少年自然の家」という名称で設立され、小・中学校の宿泊体験学習の場として開所して以来 45 年が経過し、平成 29 年 12 月には、延べ利用者数が 170 万人に達した。

本施設は、郡山駅より西へ約 11km、郡山南インターより車で約 8 分という交通の便に恵まれ、しかも豊かな自然環境に囲まれている都市近郊型の自然の家であり、心身共に健全な青少年と心豊かな社会人を育成することを目的とした教育施設である。

平成 20 年度まで 11 年間、県内 4 つの自然の家を運営してきた財団法人福島県自然の家が解散し、平成 21 年度から県直営としての運営形態に変わり 9 年目を終了した。

利用者は、これまで主体であった小・中学生のみならず、園児、高校生、一般社会人、家族など利用者層が多種多様になってきている。恵まれた自然環境の中で、「みどり・であい・感動」をキャッチフレーズに、野外活動や集団宿泊活動を通して、「自然に親しむ心や畏敬の念」「規律・協同・友愛・奉仕の精神」「自ら実践し、創造する態度」の育成を目指し、様々な活動を展開するとともに、生涯学習の拠点として、広く県民に利用していただけるような施設を目指し、施設の改築・改修や本館の段差を解消するなど障がい者にもやさしい施設づくりを進めてきた。

また、園児から高齢者までの幅広い年齢層に対応し、多くの人に利用していただけるよう、多種多様な企画事業の展開や、特色あるプログラムの開発に努めてきた。

さらに、放射線の影響を心配する利用者の声に応えるため、毎月エリア内の放射線量を測定してホームページに載せたり、クラフト活動で使用する木材等については、放射線量の低い地域から採集したり、「みどりの宅配便」を利用して全国から取り寄せたりした。また、放射線量が比較的高い場所のこまめな除草や表土の除去、活動コース付近の落ち葉等の清掃を実施し放射線量の低減化に努めた。

年間の利用状況は、震災前の 9 割程度まで回復し、利用団体数 4 5 6 団体、延べ利用者数 2 6, 3 4 7 人となった。

(2) 職員組織

職 名	人員
所長	1
次長	1
主査	1
専門員	1
主任社会教育主事	1
社会教育主事	2
計	7

(3) 平成 29 年度重点目標と成果

「復興加速の年」と位置づけ、利用者数を震災前の水準まで戻すために次の点に力を入れて取り組んだ。

ア 利用団体への効果的な支援の充実

(イ) 団体が主体的に活動できるようにするために、学校利用・社会教育団体利用ともに、利用団体の指導者との連携を密にしてきた。学校利用については、4 月と 7 月に「学校利用指導者研修会」を実施し、フィールドワークやニュースポーツなどの実技研修の他、施設の概要説明や活動計画の立案に対しての指導・援助を行った。また、事前打合せや実地踏査・下見等を奨励し、各利用団体が主体的に活動できるように支援した。

(ロ) 社会教育団体の利用については、各団体代表者との連絡を密にしなが、施設見学や活動計画の調整など、各団体の利用目的に応じた活動が展開できるよう努めた。

(ハ) 利用団体の指導者及び利用者の声をアンケート等により集約・分析して、職員の対応や準備物、食事等の改善に努めるとともに、利用者の立場に立った施設の運営に努めた。

イ 特色ある企画事業の運営

(イ) 季節感を生かした魅力ある企画事業を計画するとともに、外部講師やボランティアを積極的に活用したり、地域や関係機関との連携を図ったりすることができた。

(ロ) 前年度の反省や評価を踏まえ内容や方法等に工夫・改善を加え、参加者の満足度を高める運営に努めた。

(ハ) 利用者増を図るために新規の企画事業を立案し、幅広い年代に応じた特色ある企画事業を実施することができた。

ウ 広報の充実と利用促進

(イ) 多くの団体に利用してもらえよう、利用拡大に向けて、積極的に広報活動を行ってきた。学校利用の拡大については、各種企画事業の案内をその都度電子メールで送付するなど、より多くの学校に利用していただけるよう PR 活動を行った。また、未来キッズ生き活き事業については、中通り地区の全小学校・全児童に案内を配付し募集を図った。

(ロ) 企画事業案内や事業実施後の企画事業のあしあとをホームページに掲載するなど、ホームページの改善・充実に努めた。また、毎月エリア内 1 3 カ所の放射線量をホームページに掲載し、利用者が安心して利用できるよう配慮した。

(ハ) 企画事業では、報道機関を通じた周知活動や広報活動を積極的にを行い、利用拡大に努めた。また、新聞社やタウン誌に企画事業に関する記事の掲載の依頼をすることで、多くの方の参加につなげることができた。

(ニ) 利用促進を図るため、平成 25 年度から家族を対象とした会員登録制度を立ち上げ、名称を本所のマスコットキャラクターにちなんで「サザッピークラブ」とした。

登録した会員には会員証を発行して入所手続きの簡略化を図ったり、企画事業の案内を送付したりして利用促進につなげた。また、利用回数に応じて、特製のシールやキーホルダーを贈呈した。133家族、459名が会員となっている。

エ 安全管理と保健安全指導の徹底

(ア) 「事故はどこでもいつでも起こり得る」という認識に立って、所員の安全意識の向上を図り、施設設備の日常点検及び定期点検の実施はもちろんのこと、利用者に対しても働きかけ、積極的に安全対策を行ってきた。

また、特に次の点に力を入れてきた。

- ・各団体の活動前のコース点検や遊具点検の徹底
- ・食中毒防止のための、手洗い・アルコール消毒の徹底
- ・食物アレルギー対応のための、利用団体との連絡及び食堂との連携
- ・スズメバチ対策のための、捕虫装置の設置と点検
- ・松食い虫による倒木防止のための計画的な伐採

(イ) 防災に関しては食堂等の委託業者にも参加してもらい、消火訓練や火災が起きたことを想定した避難訓練を実施するとともに、日常の点検を怠ることのないようにした。

さらに、不審者の侵入防止を図るためのマニュアルを作成して職員研修により理解を深めた。常に来所者に声をかけ、車止めや施設の施錠に万全を期すなどして、安全管理に努めてきた。

オ 施設・設備の整備

(ア) 利用者が快適に利用できるように、現在の施設環境のもとでできることは何かを考えながら、ハード面とソフト面の両面から改善を行ってきた。

また、安全対策として、利用者が利用する総合活動館やアスレチックなどの遊具全般の点検と併せて必要な補修整備に努めてきた。

(イ) 館内については、季節ごとの掲示に心がけたり、利用者から届いた写真や手紙を工夫して掲示したりするなど、変化のある計画的な掲示に努めた。

2 施設・設備の概要

(1) 所在地

〒963-0213

郡山市逢瀬町多田野字中丸山 46 番地

(2) 宿泊定員

ア 本館 166 名 (14 部屋)

イ ロッジ 126 名 (9 棟)

ウ テント 120 名 (20 張)

(3) 敷地面積

237,587.59 m²

(4) 建物面積

延床面積 3,806.08 m²

- ・本館 (管理棟・宿泊室・研修室・浴室)
- ・体育館、総合活動館、野外活動センター、東西炊飯場、ロッジ等

(5) 設備備品等

ア 野外活動設備

- ・みどりの広場アスレチック
- ・フィールドアドベンチャーコース
- ・アーチェリー場 (24 的)
- ・ナイトハイクコース (3 コース)
- ・スコアオリエンテーリングポスト (20)
- ・フィールドワークコース (赤、青のグ・ショート)
- ・スタンプラリー (20)
- ・営火場 (4)

イ その他

- ・野外炊飯用具
- ・インラインスケート
- ・フリスビーゴルフ
- ・フロッカー
- ・キンボール
- ・ペタンク
- ・マウンテンバイク
- ・グランドゴルフ
- ・ターゲットバードゴルフ
- ・そり
- ・各種クラフト用具
- ・伝承遊びセット
- ・ピアノ
- ・双眼鏡
- ・液晶プロジェクター
- ・インターネット接続大型液晶テレビ等
- ・ジェットヒーター
- ・ブルーヒーター

3 企画事業

(1) 研修会事業

ア 学校利用指導者研修会 (第 1 回、第 2 回)

(ア) 期日・対象校及び参加者数

a 第 1 回

期日 平成 29 年 4 月 19 日 (水)

対象校 5 月～8 月まで利用の学校

参加者 57 名

b 第 2 回

期日 平成 29 年 7 月 28 日 (金)

対象校 8 月～10 月まで利用の学校

参加者 42 名

(イ) 研修内容 (第 1 回、第 2 回とも同じ内容)

- ・施設案内
- ・実技研修 (アスレチック、フィールドアドベンチャー、スコア OL、室内アーチェリー、ニュースポーツなど)
- ・全体会
- ・施設の利用の仕方等
- ・活動プログラムの調整 (所バス利用調整を含む)

(2) 利用拡大事業

ア サクラ・カタクリ週間

期 日 平成29年4月2日(日)～23日(日)

対象者 どなたでも

参加者 851名

イ 総合活動館及びフィールドアドベンチャーリニューアルオープニングセレモニー

期 日 平成29年4月14日(金)

参加者 郡山市立多田野小学校(堀口分校含)

4、5年生と先生方など75名

内 容 児童代表あいさつ、テーブルカット、自由活動

ウ さくらウォーク

期 日 平成29年4月15日(土)

対象者 どなたでも

参加者 97名

活動内容 ・自然の家を出発し、約5km・10kmのウォーキング

・みどりの広場アスレチック

・総合活動館開放

エ 春のオープンデー

期 日 平成29年4月30日(日)

対象者 どなたでも

参加者 371名

活動内容 ・各種プログラム体験(顔写真缶バッジ、プラ板キーホルダーのプレゼント、アーチェリー、インラインスケート、スコアOLなど)、おうせ茶屋の出店 他

オ 未来キッズ生き生き事業

(ア) 期日・対象者及び参加者数

- ・期 日 平成29年4月22日(土)
対象者 特別支援学校・学級在籍の子どもたちとその家族
参加者 27名
- ・期 日 平成29年4月23日(日)
対象者 幼児・小学生とその家族
参加者 34名
- ・期 日 平成29年4月30日(日)
対象者 どなたでも
参加者 371名
- ・期 日 平成29年5月13日(土)
対象者 特別支援学校・学級在籍の子どもたちとその家族
参加者 4名
- ・期 日 平成29年5月14日(日)
対象者 幼児・小学生とその家族
参加者 19名
- ・期 日 平成29年5月27日(土)
対象者 特別支援学校・学級在籍の子どもたちとその家族
参加者 13名

- ・期 日 平成29年5月28日(日)
対象者 幼児・小学生とその家族
参加者 54名
- ・期 日 平成29年7月9日(日)
対象者 県北地区の子どもたち
参加者 162名
- ・期 日 平成29年8月20日(日)
対象者 県南地区の子どもたち
参加者 72名
- ・期 日 平成29年9月10日(日)
対象者 県北・県中・県南地区の子どもたちを含めたどなたでも
参加者 957名
- ・期 日 平成29年9月24日(日)
対象者 県中地区の子どもたち
参加者 65名
- ・期 日 平成29年11月18日(土)
対象者 特別支援学校・学級在籍の子どもたちとその家族
参加者 63名
- ・期 日 平成29年11月19日(日)
対象者 幼児・小学生とその家族
参加者 71名
- ・期 日 平成29年12月9日(土)
対象者 特別支援学校・学級在籍の子どもたちとその家族
参加者 19名
- ・期 日 平成29年12月10日(日)
対象者 幼児・小学生とその家族
参加者 68名
- ・期 日 平成30年1月6日(土)
対象者 特別支援学校・学級在籍の子どもたちとその家族
参加者 13名
- ・期 日 平成30年1月7日(日)
対象者 幼児・小学生とその家族
参加者 19名
- ・期 日 平成30年2月24日(土)
対象者 特別支援学校・学級在籍の子どもたちとその家族
参加者 10名
- ・期 日 平成30年2月25日(日)
対象者 幼児・小学生とその家族
参加者 60名
- ・期 日 平成30年3月3日(土)
対象者 特別支援学校・学級在籍の子どもたちとその家族
参加者 20名

- ・期 日 平成 30 年 3 月 4 日 (日)
 - 対象者 幼児・小学生とその家族
 - 参加者 6 8 名
 - ・期 日 平成 30 年 3 月 17 日 (土)
 - 対象者 特別支援学校・学級在籍の子どもたちとその家族
 - 参加者 3 0 名
 - ・期 日 平成 30 年 3 月 18 日 (日)
 - 対象者 幼児・小学生とその家族
 - 参加者 3 5 名
- (イ) 活動内容
 - アーチェリー、インラインスケート、スタンプラリー、フィールドアドベンチャー、活動館、みどりの広場アスレチック、おうせ茶屋 (出店/昼食)
- カ 親子でチャレンジ
 - 期 日 平成 29 年 6 月 11 日 (日)
 - 対象者 親子または祖父母と孫
 - 参加者 6 5 名
 - 活動内容 スコアOL、フィールドビンゴ (小学 4～6 年生) 野外炊飯 (カレーづくり)
- キ 夢冒険キャンプ
 - 期 日 平成 29 年 8 月 2 日 (水)～4 日 (金)
 - 対象者 小学 4 年生～小学 6 年生
 - 参加者 2 4 名
 - 活動内容
 - 第 1 日 開講式、オリエンテーション、鉱山跡見学、鉱石採集、野外炊飯 (カレーライス)
 - 第 2 日 猪苗代湖畔ハイキング、湖水浴、ナイトハイク
 - 第 3 日 フィールドワーク、アーチェリー、閉講式
- ク 第 15 回郡山自然の家オープンデー (未来キッズ生き生き事業)
 - 期 日 平成 29 年 9 月 10 日 (日)
 - 対象者 どなたでも
 - 参加者 9 5 7 名
 - 活動内容
 - ・オープニングセレモニー (鬼五郎・幡五郎太鼓による和太鼓演奏)
 - ・各種プログラム体験 (アーチェリー、インラインスケート、缶バッジ製作、活動館開放など)
 - ・イベント参加 (ザリガニ釣り、似顔絵コーナー)
 - ・公園の駅「おうせ茶屋」、郡山きのこファーム出店
 - ・ステージ発表 (須賀川市立第一中学校吹奏楽部、他 4 団体)
- ケ 親子五色沼ハイキング
 - 期 日 平成 29 年 10 月 22 日 (日)
 - 対象者 家族または祖父母と孫
 - 参加者 ※悪天候のため中止
 - 活動内容 五色沼周辺のトレッキング (予定)
- コ 手ぶらで、いも煮会
 - 期 日 平成 29 年 10 月 28 日 (土)
- 平成 29 年 10 月 29 日 (日)
 - 対象者 家族またはグループ
 - 参加者 1 回目) 2 7 名 2 回目) 8 0 名
 - 活動内容 野外炊飯 (いも煮会)、みどりの広場アスレチック体験、活動館開放
- サ 蓬田岳登山
 - 期 日 平成 29 年 11 月 5 日 (日)
 - 対象者 小学生を含む親子
 - 参加者 2 6 名
 - 活動内容 蓬田岳登山
- シ キンボール教室
 - 期 日 平成 29 年 11 月 25 日 (土)
 - 対象者 小学生を含む親子
 - 参加者 5 0 名
 - 活動内容 キンボール教室 (基礎基本・ゲーム)
- ス 親子でハッピークリスマス&ハッピーニューイヤー
 - 期 日 平成 29 年 12 月 3 日 (日)
 - 対象者 どなたでも
 - 参加者 7 4 名
 - 活動内容 クリスマスリースづくり、門松づくり (外部講師による)
- セ 親子スケート教室
 - 期 日 平成 30 年 1 月 14 日 (日)
 - 対象者 親子または家族
 - 参加者 5 0 名
 - 活動内容 講師の指導による基本的な動き、自由滑走
- ソ わくわく!ファミリー冬のつどい
 - 期 日 平成 30 年 2 月 17 日 (土)～18 日 (日)
 - 対象者 小・中学生を含む家族
 - 参加者 4 5 名
 - 活動内容 猪苗代スキー場でのスキー体験、そり滑り
- タ サザンピーククラブ感謝デー
 - 期 日 平成 30 年 3 月 11 日 (日)
 - 対象者 サザンピーククラブ会員親子
 - 参加者 3 3 名
 - 活動内容 いわき海浜自然の家クラフト体験、いわきららミュウ内見学・体験
- チ みどりの広場アスレチック&活動館開放します
 - 期 日 前期 平成 29 年 4 月 22 日 (土)
 - 平成 29 年 5 月 13 日 (土)、27 日 (土)
 - 後期 平成 29 年 11 月 18 日 (土)
 - 平成 29 年 12 月 9 日 (土)
 - 平成 30 年 1 月 6 日 (土)
 - 平成 30 年 2 月 24 日 (土)
 - 平成 30 年 3 月 3 日 (土)、17 日 (土)
 - 対象者 特別支援学校、学級の幼児及び小学生とその家族
 - 参加者 1 9 9 名
 - 期 日 前期 平成 29 年 4 月 23 日 (日)

平成 29 年 5 月 14 日(日)、28 日(日)
後期 平成 29 年 11 月 19 日(日)
平成 29 年 12 月 10 日(日)
平成 30 年 1 月 7 日(日)
平成 30 年 2 月 25 日(日)
平成 30 年 3 月 4 日(日)、18 日(日)

対象者 幼児及び小学生とその家族

参加者 428名

活動内容 みどりの広場アスレチック(10基)、
活動館開放

ツ 特別企画 自然の家でからだを動かそう

期 日 平成 29 年 11 月 14 日(火)～平成 30 年 3 月 16
日(金)までの平日、9:00～16:00

参加者 21園、545名

活動内容 活動館やアスレチックを利用した運動
屋外での雪遊び、そり滑り

ク 第 41 回子どもの祭典

(須賀川市明るいまちづくりの会連絡協議会主催)

期 日 平成 29 年 10 月 8 日(日)

参加者 400名(缶バッジ来場者)

活動内容 クラフト体験(缶バッジ)

ケ 会津の冬を満喫! ウィンターフェスティバル
(会津自然の家主催)

期 日 平成 29 年 1 月 21 日(土)～22 日(日)

参加者 178名

活動内容 スキー

スノーシュー、そり滑り

会津の民話

(3) 協力事業

ア 春のオープンデー(会津自然の家主催)

期 日 平成 29 年 5 月 14 日(日)

参加者 150名(プラ板来場者)

活動内容 クラフト体験(プラ板キーホルダー)

イ 安積山登山

(安積アルプス出逢いプロジェクト実行委員会主催)

期 日 平成 29 年 5 月 21 日(日)

対象者 どなたでも

参加者 224名

活動内容 ユラックス熱海入口→大将旗山→御霊櫃峠
→高篠山森林公園までの縦走トレッキング
(総距離約 16 km)

ウ ノルディックウォーキング大会

(県ノルディックウォーキング協会主催)

期 日 平成 29 年 6 月 4 日(日)

参加者 80名

活動内容 10 kmコース 浄土松公園→八畳座敷→冒
険の丘→本所(トイレ休憩)～きのこ岩コ
ースの所員による警備

エ ミュージックライブ

(安積アルプス出逢いプロジェクト実行委員会主催)

期 日 平成 29 年 9 月 17 日(日)

参加者 200名

活動内容 クラフト体験(缶バッジ)

オ 逢瀬公園秋の感謝祭(福島県総合緑化センター主催)

期 日 平成 29 年 10 月 7 日(日)

参加者 107名(缶バッジ来場者)

活動内容 クラフト体験(缶バッジ)

カ 第 30 回浄土松公園まつり

(浄土松公園まつり実行委員会主催)

期 日 平成 29 年 10 月 8 日(日)

参加者 200名(缶バッジ来場者)

活動内容 クラフト体験(缶バッジ)

第17節 福島県会津自然の家

1 概要

福島県会津自然の家は、恵まれた自然環境の中で、自然に親しむ活動や集団宿泊生活、野外活動を体験することにより心豊かで心身ともに健全な県民を育成することを目的とした生涯学習施設である。

昭和56年4月に開所し、本年度末で37年になり、開所以来多くの方々にご利用いただいているところである。

本年度の利用者数は、4万5千人弱で、昨年度を2千人弱上回った。これは、「未来キッズ生き生き事業」の実施をはじめ、様々な企画事業や、企業など、新たな利用者層への利用促進に努めてきたことによるものと考えられる。

また、5つの重点目標を掲げ、その達成に努めるとともに、誰もが利用しやすい魅力的な施設をめざして運営の改善を図り、時代や利用者のニーズに対応した生涯学習施設の役割に積極的に取り組んできた。

(1) 職員組織

職名	人員
所長	1
次長	1
主査	1
専門員	1
主任社会教育主事	1
社会教育主事	3
体験活動指導員	3
嘱託運転手	1
計	12

(2) 平成29年度重点目標と成果

年間利用者数4万人以上の成果目標を達成するために、次の点に力を入れて取り組んできた。

【 】の数値は職員による自己評価の平均値

ア 事故の絶無を期する安全管理と保健安全指導を徹底します。【3.40】

(ア) 日常（事前、事中、事後）及び定期の安全・確認の徹底【3.18】

定期安全点検だけでなく、労務員も含めた全所員による日常点検を徹底し、事故防止に努めることができた。

(イ) 利用者への適時的確な指導助言【3.18】

気象条件等、様々な状況の変化に対応し、所員の連携を図りながら、助言に努めることができた。

(ウ) 傷病、感染症（インフルエンザ、感染性胃腸炎等）防止【3.36】

食堂業者との連携も密にし、疾病や感染症防止に努めることができた。

(エ) 施設の整備、修繕【3.27】

日常点検を大切に、危険箇所を発見したらすぐに整備、修繕を行った。

イ 「好感度」の高い施設を目指す親切的な接遇に努めます。

【3.60】

(イ) 笑顔と元気なあいさつ、親切・ていねいな接遇

【3.82】

団体対応だけでなく、来客や電話対応など、相手の立場に立った対応に努め、好感度の高い施設を目指すことができた。

(イ) 利用者一人一人の立場に立った支援及び利用目的や目標達成のための支援【3.27】

利用者のねらい達成のために、必ず団体に担当所員がつき、積極的に支援を行った。

(ウ) 各団体の自立的活動による、目標達成の支援【3.09】

社会教育団体の利用数増加に伴い、自立的な活動に対する補助及び支援を行った。

(エ) 適切な会計事務の執行、服務規律の厳正な保持【3.73】

会計事務にかかる研修を受講したり、服務倫理委員会の定期的な開催を行ったりした。

(オ) 施設内・フィールド内ごみゼロ及び整理整頓【3.36】

所員だけでなく、委託業者とも連携し、清潔な所内外の環境づくりに努めることができた。

ウ 教育目標を達成する研修プログラムを充実します。

【3.33】

(ア) 里山、堤及び周辺環境の活用、四季を通して体験できる野外活動の充実【3.36】

研修委員会を中心に新たなプログラム開発を行い、各団体のニーズに合った活動ができるように配慮した。

(イ) 利用者の層に応じた、健康増進や体力づくりのための活動プログラムの提供【3.27】

学校団体から社会教育団体まで幅広い団体に対して指導・支援を行った。

(ウ) ボランティアの確保及び活用の充実【2.73】

ボランティアセミナーを実施し、ボランティアの確保とともに、参加者のスキルアップに努めてきた。

(エ) 職員一人一人の絶えざる研鑽と修養【3.36】

お互いのプログラム指導を見合う場を設けたり、研修の場を設けたりして、所員全体のスキルアップに努めた。

エ 生涯学習施設の拠点として、独創的で多様な企画事業と研修会を充実します。【3.20】

(ア) 自然体験活動の促進及び歴史・文化に係る事業の工夫【3.64】

会津坂下町と連携した高寺山登山や東松峠ウォーキング大会などの企画事業をとおして、地元の歴史に触れる場を設定した。

(イ) 社会や利用者のニーズに応え、前年踏襲にとらわれない事業の企画立案【3.18】

年5回の未来キッズ生き生き事業において様々なプログラムを提供するとともに、利用者のニーズに応えられるよう創造的な事業の企画立案に努めた(あったかふ

れあいまつり・楽習宿など)。

(ウ) P D C Aサイクルの確実な実施【2. 91】

P D C Aサイクルを確実に実施することにより、反省点を活かして、次の事業などの計画立案を進めることができた。

(エ) 地域及び生涯学習施設（自然の家、公民館、美術館、博物館、図書館等）との連携【3. 27】

磐梯青少年交流の家や地元の公民館との連携事業を実施するなど、相互に高めあえる場の設定をした。

オ 利用者数、利用者層を拡大する効果的で多様な広報活動を充実します。【3. 50】

(ア) ホームページの充実及び適時的確な更新【3. 22】

タイムリーな話題を時期を逃さず、ホームページにアップできるように、担当だけではなく、全社員で声を掛け合った。

(イ) 情報発信の工夫【3. 11】

新たな利用者層にアプローチするために、フェイスブックを立ち上げ、利用促進につなげることができた。

(ウ) 誘客活動の工夫【3. 67】

学校、公民館など教育施設だけではなく、企業訪問を行い、利用者の拡大につなげることができた。

(エ) 記録の蓄積及びデータの確実な分析【3. 33】

利用者アンケートや食堂アンケートなどの利用者の声を、確実に集計、分析し、改善につなげることができた。

2 施設・設備の概要

(1) 所在地

河沼郡会津坂下町大字八日沢字西東山 4495 番 1

(2) 宿泊定員

ア 本館 26室 292名(うち1室障がい者用)

イ ロッジ 10棟 150名

ウ テント 10張 60名

(3) 敷地面積

249,848.98㎡

(4) 建物面積

ア 延床面積 5,893.8㎡

(ア) 管理研修棟(鉄筋造2階建)

(イ) 宿泊棟(鉄筋造2階建)

(ウ) プレイホール(鉄筋造)

(エ) アセンブリホール(鉄筋造)

(オ) 機械棟(鉄筋造3階建)

(カ) ロッジ(木造平屋建)

(キ) 野外活動管理センター(鉄筋造)

(ク) 炊飯場(鉄筋造)

(ケ) 薪置場(コンクリートブロック造)

(コ) 車庫(鉄筋造)

(サ) 野外便所(鉄筋造)

(5) 運動広場面積

8,500㎡

(6) 設備備品等

ア フィールドアスレチック

イ 野外活動用具、野外炊飯用具、運動用具

ウ 双眼鏡、天体望遠鏡、テレビ、VTR

エ 液晶プロジェクター、CDカセットプレーヤー

オ ピアノ、オルガン

カ 伝承遊びセット

キ クラフト用具

ク 各種オリエンテーリング用具

ケ アルペンスキー

コ 歩くスキー(クロスカントリースキー)

サ そり

シ スノーシュー

ス 営火場(4箇所)

セ 諸活動コース

ソ その他

3 利用状況

(1) 利用可能対象者

ア 学校教育団体(幼稚園、小学校、中学校、特別支援学校、

高校、大学、高等専門学校等)の構成員及びその指導者

イ 社会教育団体(公民館、子ども会、保育所、スポーツ少年団体、老人会、勤労青少年団体等)の構成員及びその指導者

ウ 教育長が適当と認めた者

エ その他、家族などの一般人

(2) 平成29年度の利用団体数

ア 607団体

イ 実利用者数 32,499人

ウ 延利用者数 44,787人

(3) 子どもたちへ体験活動機会提供

ア 「未来キッズ生き生き事業」(5回)

イ 企画事業の実施(13事業)

4 企画事業

(1) 研修会事業

ア 学校団体指導者事前研修会

(ア) 目的

a 本所の設立の趣旨、教育目標、方針、利用のねらい及び運営方法を理解させる。

b 児童生徒が安全に生活し充実した活動が行えるよう屋内外の施設環境を確認するとともに、各種プログラムのねらいや配慮事項を理解させ、効果的な活動計画が作成できるようにさせる。

c 集団宿泊生活が円滑かつ効果的に進められるよう同じ時期に宿泊する他の学校団体との活動及び役割分担等について調整を図らせる。

(イ) 期日、対象、参加者数

a 第1回：平成29年4月19日(水)

5/9～6/9に利用する学校の教職員36名参加

b 第2回：平成29年4月20日(木)

6/13～7/25に利用する学校の教職員36名参加

- c 第3回：平成29年4月26日（水）
8/29～10/25に利用する学校の教職員33名参加

(ウ) 研修内容

- a 利用の仕方及び利用日までの手続き準備物の確認
- b 活動計画の作成及び同時期利用団体との調整
- c プログラム及び活動内容、指導方法の理解
- d 施設及び避難経路の確認

イ 社会教育団体指導者事前研修会

(ア) 目的

- a 本所の設立の趣旨、教育目標、方針、利用のねらい及び運営方法を理解させる。
- b 社会教育活動が安全に充実したものになるよう屋内外の施設環境を確認するとともに、各種プログラムのねらいや配慮事項を理解させ、効果的な活動計画が作成できるようにさせる。
- c 集団宿泊生活が円滑かつ効果的に進められるよう、同じ時期に宿泊する他の社会教育団体との活動及び役割分担等について調整を図らせる。

(イ) 期日、対象、参加者数

- a 平成29年6月11日（日）
- b 7/21～8/24に利用する社会教育団体の指導者
13団体21名参加

(ウ) 研修内容

- a 利用の仕方及び利用日までの手続き準備物の確認
- b 活動計画の作成及び同時期利用団体との調整
- c プログラム及び活動内容、指導方法の理解
- d 施設及び避難経路の確認

(2) 教育研究事業

ア サマーキャンプ

(ア) 目的

- a いわき海浜自然の家やいわき地方の浜辺や海での体験活動を通して、健全な心と体、自然に親しむ気持ちを養わせる。
- b 宿泊体験を通していわきと会津の参加者同士の交流を図らせる。

(イ) 期日、対象、参加者数

- a 平成29年7月28日（金）～30日（日）
2泊3日
- b 県内の小学校4～6年生 30名参加

(ウ) 活動内容

- a 交流活動
- b 野外炊飯
- c ナイトハント
- d 海遊び
- e いわきダイクルーズ

イ 冬休み楽習宿

(ア) 目的

- a 児童に冬季休業中の学習課題等に効果的に取り組む場を設定する。
- b 自主性や創造性を育みながら、学習の仕方や基本的

な生活習慣を身に付けさせる。

- c 児童のふれあいや東京大学生ボランティアとのふれあいの場を設定し、参加者相互の交流を図る。

(イ) 期日、対象、参加者数

- a 平成29年12月25日（月）～27日（水）
2泊3日 56名参加
- b 県内の小学校4～6年生

(ウ) 活動内容

- a お楽しみ交流会
- b 学習（国語、社会、算数、理科）
- c 体力づくり

(3) 利用促進事業

ア 第13回高寺山山開き（会津坂下町との共催）

(ア) 目的

- a いにしえのロマンと豊かな自然を有する高寺山の山開きを行い、登山者の安全を願うとともに、町の教育観光資源を広く内外に広報し、地域振興に資する。
- b 参加者同士が共に汗を流し登山することより、健康づくりと温かい心の交流の機会を提供する。

(イ) 期日、対象、参加者数

- a 平成29年4月9日（日）221名参加
- b 一般対象

(ウ) 活動内容

- a 山開き式典
- b 高寺山登山
- c お楽しみ抽選会、豚汁サービス

イ 春のオープンデー（未来キッズ生き生き事業との併催）

(ア) 目的

- a 自然の家オープンデーを実施することにより、県民に会津自然の家内外の環境やプログラムについて公開する。
- b 子どもたちに、心身ともにリラックスできる環境とプログラムを体験する機会を提供し明るく楽しい活動をさせる。

(イ) 期日、対象、参加者数

- a 平成29年5月14日（日）285名参加
- b 県内の幼児、小・中学生とその家族対象
- c ボランティア23名

(ウ) 活動内容

- a プログラム体験コーナー（無料）
カヌー体験、アスレチック（種目を限定）、森遊び、火おこし体験、ビンゴOL、UFOゴルフ、クラフト

ウ お月見コンサート2017

(ア) 目的

- a 中秋の名月の時期に天体望遠鏡で月面を観賞し、年中行事としての「月見」の体験をさせる。
- b 「月見」にふさわしい音楽や民話の語りを聴き、世代を越え、共に秋の夜長を楽しむ。

(イ) 期日、対象、参加者数、出演者数

- a 平成29年10月7日（土）107名参加

- b 一般対象
- c 講話講師、ピアノ演奏、民話の出演者 9 名
- (ウ) 活動内容
 - a 月面観賞～天体望遠鏡による月面観察、講話
 - b 音楽コンサート
 - c 会津の民話

エ 東松峠ウォーキング大会 2017

- (ア) 目的
 - a 「旧越後街道」は、古くから会津若松と新潟県新発田市を結ぶ重要な街道であり、文化庁が選定する「歴史の道百選」に選定されており、地域の歴史的文化的遺産である「東松峠」の再確認と継承・維持と保護の一環とする。
 - b 東松峠ウォーキング大会に、地区外から参加を集うことにより、交流・地域の活性化を図る。

- (イ) 期日、対象、参加者数
 - a 平成 29 年 10 月 21 日（土） 85 名参加
 - b 一般対象

- (ウ) 活動内容
 - <コース>
 - 高寺コミュニティーセンター→天屋・本名→三本松→旧道→里檀→東松洞門→峠の茶屋跡→新道→三本松→天屋の阿弥陀様（希望者）→高寺コミュニティーセンター ※片門薬師堂（希望者）

オ あったかふれあいまつり (未来キッズ生き生き事業との併催)

- (ア) 目的
 - a 野外活動プログラムや各種体験コーナーなどの自然や人とのふれあいを通して、心身のリフレッシュや体力増進を図る。
 - b 各団体と連携を図ることにより、体験活動の充実を図り、生涯学習の拠点として自然の家に対する理解を深める。

- (イ) 期日、対象、参加者数
 - a 平成 29 年 10 月 29 日（日） 246 名参加
 - b 県内の幼児、小・中学生とその家族対象

- (ウ) 活動内容
 - a 協力団体発表（坂下東小学校合唱部・会津大学短期大学部ダンスサークル O.M.G・うつくしま YOSAKOI 振興会会津支部・マーヒー・里山の仲間たち）
 - b 協力団体販売（ファットリアこもと・出張☆ばんげマルシェ・耶麻農業高等学校・若宮地区地域づくり協議会）
 - c 協力団体ブース（阿賀川・川の達人の会・ばんげ語り部の会・ばんげ読み聞かせの会・会津大学短期大学部・フォトスタジオ原）

カ 新そばにチャレンジ

- (ア) 目的
 - そば打ち体験を通して、郷土の食生活、食の大切さを理解し、参加者同士の交流を深める。

- (イ) 期日、対象、参加者数
 - a 第 1 回：平成 29 年 11 月 18 日（土）
75 名参加、講師 3 名
 - 第 2 回：平成 29 年 11 月 19 日（日）
76 名参加、講師 3 名
- b 一般対象

- (ウ) 活動内容
 - a そば打ち実演
 - b そば打ち体験
 - c そば茹で実演
 - d そば茹で体験
 - e 試食

キ 手作り森のクリスマス

- (ア) 目的
 - クリスマスケーキ、クラフトづくりを通して、楽しみながらケーキを作ったり、自然素材を工夫したりすることにより、家族やグループ間の交流、親睦を深める。

- (イ) 期日、対象、参加者数
 - a 第 1 回：平成 29 年 12 月 2 日（土）
44 名参加、講師 1 名
 - 第 2 回：平成 29 年 12 月 3 日（日）
55 名参加、講師 1 名
 - b 県内の小・中学生とその家族対象

- (ウ) 活動内容
 - a クリスマスケーキ作り
 - (a) 講師の実演
 - (b) 生地づくり、ロールの仕方、デコレート
 - b クリスマスクラフト作成
 - c 試食

ク ウィンターフェスティバル

- (ア) 目的
 - 会津自然の家での宿泊、雪国ならではの冬を楽しむ活動などを通して、会津の冬や伝統文化のすばらしさを体験するとともに、参加者相互の交流を深めさせる。

- (イ) 期日、対象、参加者数
 - a 平成 30 年 1 月 20 日（土）～21 日（日） 1泊 2日
142 名参加
 - b 県内の小・中学生とその家族対象

- (ウ) 活動内容
 - a 1 日目：そりすべり、木工クラフト、スノーシュー体験、雪灯籠作り、会津の民話
 - b 2 日目：猪苗代スキー場（スキー、スノーボード、そり、エアボード）

ケ そりすべり家族開放

- (ア) 目的
 - 県民にそりゲレンデを開放することにより、会津の冬の楽しさを感じさせるとともに、冬の自然体験を備えた本所への理解を深めさせ、今後の集客につなげる。

- (イ) 期日、対象、参加者数
 - a 第 1 回：平成 30 年 1 月 28 日（日） 133 名参加

- 第2回：平成30年2月4日（日）165名参加
- 第3回：平成30年2月18日（日）95名参加
- 第4回：平成30年2月25日（日）116名参加

b 県内の幼児、小・中学生とその家族対象

(ウ) 活動内容

そりすべり、チューブすべり、エアボードすべり

コ クラフトキッズフェア

(ア) 目的

- a 親子で工夫し、楽しみながらクラフト作成を行うことにより、子どもの発想力や創造力を高めたり、親子の絆を深めたりする。
- b クラフト作成の場を提供することにより、本所のプログラムについて理解を深める機会とする。

(イ) 期日、対象、参加者数

- a 平成30年3月4日（日） 208名参加
- b 県内の幼児、小・中学生とその家族対象
- c ボランティア8名

(ウ) 活動内容

- a 飛行リング
- b もっくんマグネット
- c 壁飾り
- d 缶バッジ
- e ぶんぶんごま
- f バードコール

(4) その他の企画事業

ア 未来キッズ生き生き事業

(ア) 目的、対象

県内の子どもたちとその家族を自然の家へ招待し、ブレイリーダーの協力も得ながら、一日を通して、自然の家でのプログラムに基づき、心身の健康や運動不足解消や体力増進となる取組を実施する。

会津地方の12歳以下の子どもたちとその家族を対象とする。

(イ) 名称、期日、参加者数

- a 春のオープンデー・・・・・・・・・・前
平成29年5月14日（日）
- b 会津自然の家里山開放デー①
平成29年6月4日（日） 94名参加
- c 会津自然の家里山開放デー②
平成29年9月17日（日） 138名参加
- d あったかふれあいまつり・・・・・・・・前
平成29年10月29日（日）
- e そりすべり団体開放 ※事前予約団体
平成30年1月16日～2月25日
 - 1月 10団体 632人
 - 2月 13団体 636人
 - 3月 1団体 59人 計24団体1327人
- f そりすべり家族開放・・・・・・・・前
(a) 平成30年1月28日（日）
(b) 平成30年2月4日（日）

(c) 平成30年2月18日（日）

(d) 平成30年2月25日（日） 計509名参加

(ウ) 活動内容

フィールドアスレチック、森遊び、UFOゴルフ、草すべり、各種オリエンテーリング、そりすべり、スノーチューブ

第18節 福島県いわき海浜自然の家

1 概要

福島県いわき海浜自然の家は、海と山の豊かな自然環境の中で様々な活動や集団宿泊体験を通して、心身ともに健全な青少年を育成することを目的とした社会教育施設として平成8年7月に開所した。

開所以来、学校の利用はもとより、スポーツ少年団、子ども会などの社会教育団体や家族などのあらゆる年齢層に利用されてきた。しかし、平成23年3月11日の東日本大震災により休所を余儀なくされ、同年11月1日から財団法人いわき市教育文化事業団を指定管理者として一部再開をした。以降、利用者が安心して利用できる環境を創出するため、活動エリアの放射線量測定及びデータの公開を行うとともに、低減措置を講じている。

平成23年度には本館周辺、平成24年度にはつどいの広場やいこいの広場、及び、第5営火場周辺の芝生張替等による線量低減措置、平成25年度にはトリムランドの除染、野営場入り口付近の崩落現場の復旧工事を実施した。平成26年度には野営場の表土入替作業や営火場のレンガ交換などの除染作業を行い安全安心な活動エリアの拡大・復旧に努めた。なお、復旧工事等により平成25年度まで使用できなかったロッジ・野外炊飯場等については、除染終了後の平成26年7月より使用を再開した。山林部分の一部についても平成29年3月に除染を行ったが、フィールドアスレチックや冒険の森などの山での活動プログラムの再開はできていない。しかしながら、四倉海岸の海水浴の再開に合わせて、砂の芸術や磯遊びなどの本施設の目玉である海浜活動を再開し、いかに活動については、平成28年度から川での活動として再開した。

平成29年度の利用状況は、518団体、延べ利用者数40,194人であった。利用者数については、震災前の平成22年度(546団体66,611人)に比して60%ほどであった。特に、学校教育団体の利用については、167団体延べ14,174人(平成22年度は342団体、延べ50,576人)と、団体数では48%、延べ人数では未だに3割にも満たない状況である。しかしながら、学校教育団体の利用者も戻りはじめ平成28年度に比べて1,396人の増となった。また、社会教育団体の団体数についても309団体と、平成25年度以降から連続で300を超え、総利用者数も2年連続で4万人を超えることができた。

(1) 平成29年度重点目標と成果

震災によって、これまでの自然体験活動が制限される中、少しでも多くの利用者が、新たな発見や感動、満足感・充実感を味わうことにより、本来の活動目的が達成されるよう引き続き次の目標に取り組んだ。

ア 本施設の設置目的の明確化とその周知及び利用促進を図る。

(ア) 自然体験活動が制限される中で教育施設として、青少年健全育成を目的とした利用のあり方などを考えながら受け入れを実施。野外での活動内容が制限されていることから、クラフト活動、歴史講座などの出前講

座の充実を図った。

(イ) オープンデーやクラフトのつどいなどの企画事業を充実させ、利用の促進・広報につなげることができた。

(ウ) 小・中学校等への利用促進のための積極的な情報提供、PR活動に努めるとともに、生涯学習施設としての役割に鑑み、教育文化施設や公民館への広報活動を行い、史跡・文化財めぐり、ニュースポーツなどを実施。さらには、公民館等との連携事業を展開するなど、新たな利用者開拓を行った。

イ 利用者のニーズに対応した施設運営に努める。

(ア) 幼児から高齢者まで、多様なニーズに対応した幅広いプログラムの開発とクラフト活動に努めた。

(イ) 企画事業を通してアンケート調査を実施し、利用者のニーズについての調査・研究を行い、ニーズに応じた支援を実施した。また、利用者の自主性・主体性を助長できるよう、工夫・改善に努めた。

ウ 事故の未然防止、危機管理体制の充実に努める。

(ア) 受付やオリエンテーション、活動支援において安全のための適切な助言や指導を行った。

(イ) 学校・社会教育団体ともに事前研修会を実施し、安全で有効かつ適切な施設の活用について周知徹底するとともに、利用団体の指導者に対して適切な助言を行い安全教育の充実を図った。

(ウ) 東日本大震災を教訓として、事故発生時の緊急対応及び連絡体制を明確にし、情報の共有化を徹底し危機管理体制の充実に努めた。

無線アンテナ設備の設置による海浜活動時等の情報通信網の整備や自然災害等での避難方法のマニュアル化など、利用者の安全と被害防止に努めた。

(エ) 山林部のフィールドアスレチックコース等の点検を定期的に行うとともに、公園施設製品安全管理士による点検を行った。また、利用可能な遊具等についても、利用前の点検を行い、安全管理に努めた。

(オ) 施設全体と活動エリアである海岸、さらに非活動エリア内山間部の放射線量の測定を定期的に変更して公表した。

(カ) 所内にハチトラップを設置してスズメ蜂対策を行った。また、所外での活動に備えて平成29年度から2台のAEDをレンタルして安全面の充実を図った。

エ 定期的な業務内容の点検と改善に努める。

(ア) 計画的かつ定期的な評価により、改善点の明確化を図り、密度の高い施設運営に努めた。

(イ) 多面的かつ多角的な視点から、業務遂行の在り方について検討し、開かれた施設運営に努めた。

(ウ) 利用者へのアンケート結果を参考に、業務遂行の在り方を検討し、利用者の目線に立った支援や管理運営に努めた。

オ 地域との連携を深め、生涯学習実践の場として機能する施設運営に努める。

(ア) 環境ボランティアを中心に地域との関係を密接にし地域に根ざした施設づくりに努めた。

(イ) 支援ボランティアが企画事業の一端を自主運営するなど、ボランティア活動の場の充実に努めた。

(ウ) 公民館、支所、消防署、交番、教育文化施設等のほか、地域の各種団体など、関係機関との連携強化に努めた。

(エ) 地域の連携、協力を得て様々な企画事業を開催した。

(2) 職員組織

職名	人員
所長	1
次長	1
総括主査	1
副主任指導員	1
指導員	3
教育指導専門員	1
体験活動指導員	4
運転手	2
事務補助員	2
臨時労務員	1
計	17

2 施設・設備の概要

(1) 所在地

いわき市久之浜町田之網字向山 53

(2) 宿泊定員

- ア 本館定員 300名 (和室 28室)
- イ ロッジ定員 160名 (10棟)
- ウ テント定員 100名 (25張)

(3) 敷地面積

350,171 m²

(4) 建物面積

6,696.97 m²

- ア 中心施設
本館 (宿泊室、オリエンテーションホール、研修室、
野外学習室、事務室、食堂、浴室等)
体育館
- イ 野外施設
管理棟、ロッジ、便所等

(5) 野外活動施設面積

- ア つどいの広場 7,000 m²
- イ 多目的広場 8,890 m²
- ウ 自然観察園 4,050 m²
- エ みんなの広場 4,700 m²

(6) 設備備品等

- ア 体育館
(バレーボールコート 2面、バスケットボールコート 1

面(バスケットボールリング、ミニバスケットボールリング)、バドミントンコート 2面、卓球台 3台、ピアノ 1台 キンボール 他)

イ 野営場

(野外炊飯、キャンプ用品一式、冷蔵庫 他)

ウ 野外活動設備

(フィールドアスレチックコース、冒険の森歩道、トリムランド、営火場 5カ所、各種オリエンテーリングコース、ナイトハイキングコース、ウォークラリーコース、ロープコース、マウンテンバイクコース 他)

エ 多目的広場

(ソフトボール、マウンテンバイクコース、サッカーゴール 他)

オ その他

(視聴覚機器、無線機、天体望遠鏡、双眼鏡、七宝焼窯、マウンテンバイク、釣り用具一式、海浜用具一式、大型バス 他)

3 利用状況

(1) 平成 29 年度利用者数

延べ利用者数 40,194 人

内訳	学校教育団体	167 団体	14,174 人
	社会教育団体	309 団体	19,064 人
	ファミリー	9 団体	168 人
	企画事業		6,788 人

4 企画事業

(1) 研修会事業

ア 学校団体指導者事前研修会

(ア) 目的

本所の利用にあたって、自主的、主体的な活動を展開するため、施設見学や実技研修を行い、研修計画の立案やその実施についての理解を深める。また、学校間で調整を図り、宿泊体験活動が円滑に実施できるようにする。

(イ) 期日・対象及び参加者数

- ・期日 第1回平成 29 年 4 月 19 日(水)～20 日(木)
- 第2回平成 29 年 5 月 16 日(火)～17 日(水)

・対象 平成 29 年度利用の学校団体

・参加者数 (延べ人数)

第1回 51 名 第2回 52 名

(ウ) 研修内容

- ・施設紹介と利用の仕方について
- ・本所プログラム活動の紹介
- ・活動プログラムの作成・調整

イ 社会教育団体指導者事前研修会(活動プログラム研修会)

(ア) 目的

施設見学や実技研修を通して、自主的、主体的な活動の進め方や研修計画の立て方の理解を深め、活動が円滑に実施できるようにする。

(イ) 期日・対象及び参加者数

- ・期日 平成29年5月26日(金)
- ・対象 平成29年7月1日以降の利用団体及び参加希望団体
- ・参加者数 45名

(ウ) 研修内容

- ・施設紹介と利用の仕方について
- ・本所プログラム活動の紹介
- ・海浜活動(磯遊び)

ウ ボランティア養成講座

(ア) 目的

自然体験活動を支援する上で、必要な知識と技術を習得するとともに、本所のボランティアとしての活動方法を学ぶ。

(イ) 期日・対象及び参加者数

- ・期日 平成29年5月14日(日) 参加者数 13名
- 平成29年7月16日(日) 参加者数 10名
- 平成29年9月17日(日) 参加者数 10名
- 平成29年12月17日(日) 参加者数 9名
- ・対象 高校生 大学生 一般

(ウ) 内容

実施予定の自然体験活動・企画事業支援についての研修を行った。

(2) 利用促進事業

ア 春のオープンデー (未来キッズ生き生き事業)

連携：会津自然の家 郡山自然の家

(ア) 目的

施設を地域の人々に広く開放し、本所への理解を深め、地域の中での自然の家の役割を認識し、多くの方々の協力及び参加を得ながら地域づくりやまちづくりに貢献する。さらに、ボランティアスタッフとのつながりを深め、生涯学習活動や施設運営の充実を図る。

(イ) 期日・対象及び参加者数

- ・期日 平成29年5月28日(日)
- ・対象 一般
- ・参加者数 1,456名

(ウ) 内容

グラウンドゴルフ、マウンテンバイクなどのスポーツ体験で身体を動かしたり、缶バッジ作り、プラバンキーホルダー作りなどのクラフト体験を楽しんだ。また、高校生フラダンスや子どもじゃんがらを鑑賞したり、野外炊飯(豚汁)、パトカー・消防車展示、海浜レストラン、海浜風呂などでも楽しんだ。

イ 遊ぼう！初夏の海で

(ア) 目的

自然に親しみ、海での釣りや磯遊びを楽しみながら家族の絆を深める。

(イ) 期日・対象及び参加者数

- ・期日 平成29年6月25日(日)
- ・対象 小学生とその家族
- ・参加者数 38名

(ウ) 内容

防波堤や磯場でさまざまな魚を釣ったり、磯遊びなどを楽しみながら海への理解を深めた。

ウ ふれあいサマーキャンプ 連携：会津自然の家

(ア) 目的

自然の素晴らしさや人とふれあう喜びを体得し、協調性・社会性を身につけ、自立心を養う。

(イ) 期日・対象及び参加者数

- ・期日 平成29年7月28日(金)～30日(日)
- ・対象 小学生
- ・参加者数 54名

(ウ) 内容

交流ゲームや野外炊飯(カレー)、キャンプファイア、ボディボードなどの海遊びを行い参加者同士の親睦を深めた。

エ 海浜アウトドアクッキング

(ア) 目的

野外のかまどを使うことにより火の取扱いや料理する楽しさを学ぶ。併せて、本所への理解、利用促進を図る。

(イ) 期日・対象及び参加者数

- ・期日 平成29年10月1日(日)
- ・対象 小学生とその家族
- ・参加者数 12名

(ウ) 内容

自然の中で、協力しながらカレー作りを行い野外炊飯の楽しさや共同作業の大切を学んだ。

オ スポーツフェスティバル (未来キッズ生き生き事業)

(ア) 目的

身体を動かす大切さを知り、幼児・児童には体力向上、成人には健康維持を促進して、県民の健康的に生活するための意識向上を図る。

(イ) 期日・対象及び参加者数

- ・期日 平成29年10月15日(日)
- ・対象 一般
- ・参加者数 158名

(ウ) 内容

マウンテンバイク、ノルディックウォーキングなどで身体を動かしたり、フラダンス体験、竹馬体験などを楽しみ、目的や体力に合わせて身体を動かした。

カ ふくしまキッズフェスタ2017 in いわき

主催：福島県教育委員会

(ア) 目的

県内の子どもや親などに自然体験や外遊びの大切さを訴えていくとともに、学校や日常生活では得ることができない貴重な体験を通して、未来を築いていく子どもたちや今を支える大人たちに、楽しみながら健康意識を持ってもらうことを目的とする。

(イ) 期日・対象及び参加者数

- ・期日 平成29年10月28日(土)～29日(日)
- ・対象 一般

・参加者数 3,213名

(ウ) 内容

ディスクゴルフ、プラズマカーなどのニューアトラクション、グランドゴルフ、ペタンクなどのニュースポーツ体験などで身体を動かした。また、仮面ライダーやプリキュアショーなどのさまざまな芸能人の華やかなステージを楽しんだ。

キ ふれあいオータムキャンプ

(ア) 目的

自然のすばらしさや人とふれあう喜びを体得し、協調性・社会性を身につけ、自立心を養う。

(イ) 期日・対象及び参加者数

- ・期日 平成29年11月11日(土)～12日(日)
- ・対象 小学生
- ・参加者数 29名

(ウ) 内容

交流ゲームや野外炊飯(豚汁うどん)、キャンドルファイア、夏井川溪谷でのハイキングなどを行い参加者同士の親睦を深めた。

ク 親子のつどい

(ア) 目的

親子での共同作業を通して、家族の絆を深めるとともに、他の家族との交流の促進を図る。

地域の人々やボランティアへ活動の場を提供し、交流の推進を図る。

(イ) 期日・対象及び参加者数

- ・期日 平成29年12月2日(土)～12月3日(日)
- ・対象 幼児から小学生とその家族
- ・参加者数 26名

(ウ) 内容

家族でクラフト体験(クリスマスリース作り)、野外炊飯(トマト煮込みパスタ)、交流ゲームなどで楽しんだ。

ケ 冬を楽しもう!～スキー教室～

(ア) 目的

雪で遊ぶことの少ないいわきの子どもを対象に、県内の自然や冬の自然体験活動を学ぶ。

(イ) 期日・対象及び参加者数

- ・期日 平成30年1月7日(日)
- ・対象 小学生とその家族
- ・参加者数 38名

(ウ) 内容

猪苗代スキー場でスキーやそり遊びなどのウィンタースポーツを体験した。

コ クラフトのつどい

(ア) 目的

創作活動の場を提供し、ものづくりの楽しみや生涯学習の振興に寄与することを目的とする。併せて、本所への理解、利用促進を図る。

(イ) 期日・対象及び参加者数

- ・期日 平成30年2月18日(日)

・対象 幼児から中学生とその家族

・参加者数 147名

(ウ) 内容

缶バッジ、万華鏡、割り箸鉄砲、紙バンドの手カゴ作りなどを楽しんだりトリムランドで身体を動かしたりした。

サ 森の音楽会

(ア) 目的

地域の文化活動の向上と本所の利用促進を図る。

(イ) 期日・対象及び参加者数

- ・期日 平成30年3月4日(日)
- ・対象 一般
- ・参加者数 236名

(ウ) 内容

ディナーバイキング料理と平商業高校吹奏楽部の演奏を楽しんだ。

(3) その他の企画事業

ア 未来キッズ生き生き事業 主催:福島県教育委員会

(ア) 目的

身体を動かすプログラムを提供し、県民の体力向上の促進を目的とする。

(イ) 期日・対象及び参加者数

- ・期日 平成29年6月18日(日) 参加者数 100名
- 平成29年7月2日(日) 参加者数 88名
- 平成29年9月3日(日) 参加者数 68名
- 平成30年1月28日(日) 参加者数 124名
- 平成30年2月10日(日) 参加者数 61名
- ・対象 幼児から小学生とその家族

(ウ) 内容

所内のアスレチックで身体を動かしたり、野外ゲームやタグラグビー、運動会などを楽しんだ。

イ ウィンターフェスティバル! 主催:会津自然の家

(ア) 目的

会津の冬や伝統文化のすばらしさを体験するとともに、参加者相互の交流を深める。

(イ) 期日・対象及び参加者数

- ・期日 平成30年1月20日(土)～21日(日)
- ・対象 小・中学生とその保護者
- ・参加者数 38名(当所からの参加者)

(ウ) 内容

会津自然の家に宿泊し、スキーや雪遊びなどの冬の自然体験活動を満喫した。

(4) 連携事業

ア 公民館等連携講座(全26件)

(ア) 目的

いわき市立公民館等と連携し、史跡見学・歴史講座、ニュースポーツ、クラフト体験などを行い、社会教育団体等の利用促進を図った。

(イ) 期間・対象及び参加者数

- ・期日 平成29年4月1日～平成30年3月31日

- ・対象 成人
- ・参加者数 500名

(ウ) 内容

歴史講座、クラフトやニュースポーツ体験、健康体操などを体験した。

イ 出前講座（全5件）

(ア) 目的

自然の家の活動内容の紹介と学校及び社会教育団体等への利用促進を図るために、また、生涯学習支援をするため出前講座を行う。

(イ) 期間・対象及び参加者数

- ・期日 平成29年4月1日～平成30年3月31日
- ・参加者数 844名

(ウ) 内容

いわき市内の学校、教育文化施設などで、歴史講座、クラフト、ニュースポーツ体験などを実施。

ウ いわき市アンモナイトセンター自然観察会「地層と化石の観察会」 主催:いわき市アンモナイトセンター

(ア) 目的

科学的な見方や考え方を養うために地域の歴史的背景を学び、実際に化石を発掘する事で理科学習への興味関心を高める。

(イ) 期日・対象及び参加者数

- ・期日 平成29年10月29日(土)
- ・対象 小・中学生とその保護者
- ・参加者数 15名

(ウ) 内容

いわき市アンモナイトセンターと連携して約8900万年前の中生代白亜紀時代の地層の観察会を行った。

(5) その他

ア タイ青少年日本語研修(タイ王国カインドエンジェル)

(ア) 期日 平成30年3月14日～4月30日

(イ) 内容

タイ青少年53名が、45日間にわたり日本語学習と観光施設見学、茶道などを体験して国際交流、日本文化への理解を深めた。